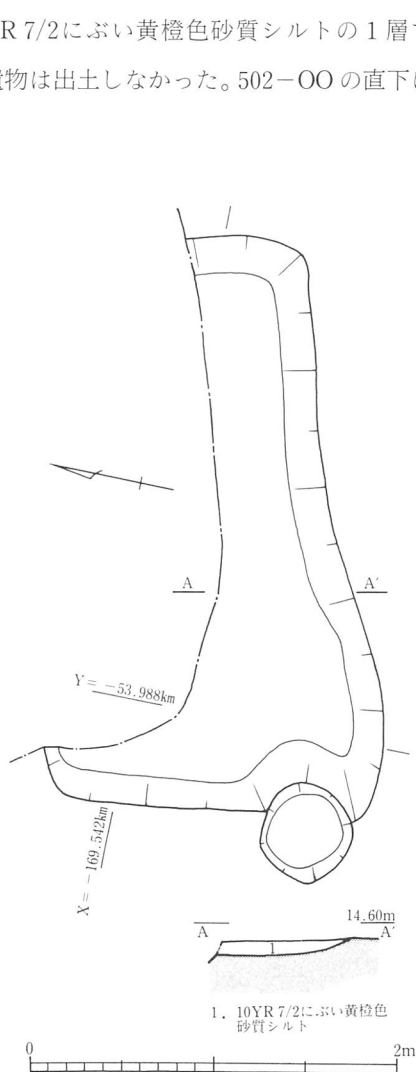
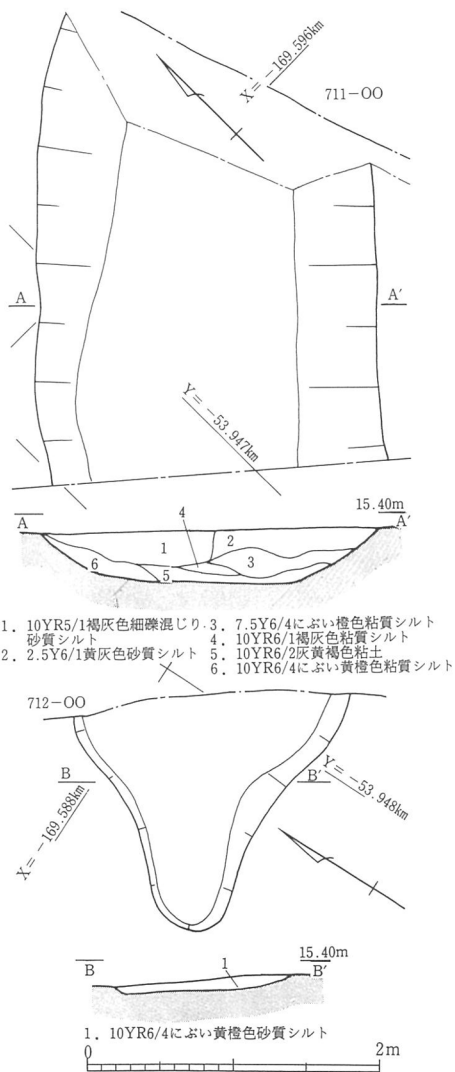


る。また、ほぼ完形品に近いとした瓦器椀も、すべて口縁部等の一部を欠いている。以上のような出土遺物の様相は、土器片、瓦片等が礫や木片とともに雑然と出土したという、遺物の出土状況にも反映されており、本土坑出土の遺物群の性格を示すものと考えられる。

703-00 (第167図) A 01 KC・LC・LDに位置する。平面形は不整形を呈するが、北側を438-00に切られている。長軸3.1m、短軸1.9m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 7/2にぶい黄橙色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。502-00の直下に



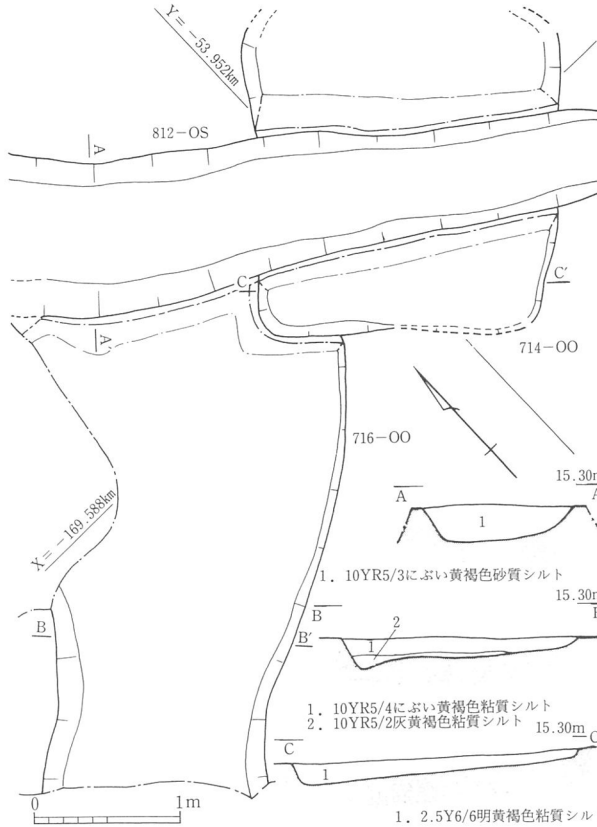
第167図 703-00 平面図・断面図 (1/40)



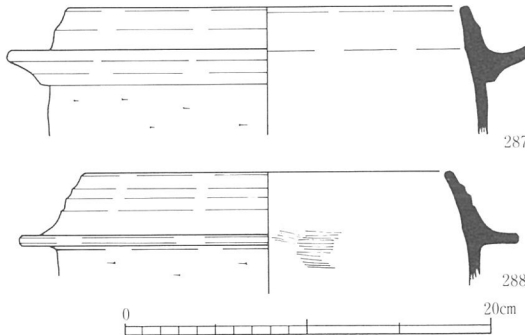
第168図 711・712-00 平面図・断面図 (1/50)

あり、これの下層を別遺構と誤認したおそれがある。

711-00 (第168図) A 01 XN・YN に位置する。北東から南西に長い遺構であるが、北東部と南西部は調査区域外に及ぶため、平面形は不明である。長軸3.2m 以上、短軸2.3



第169図 714・716-00 平面図・断面図、
812-OS 断面図 (1/50)



第170図 812-OS 出土遺物実測図 (1/4)

m、深さ0.4m を測る。埋土は6層が観察されたが、大別すると10YR 5/1褐灰色細礫混じり砂質シルト、2.5Y 6/1黄灰色砂質シルト等の3層で、瓦器椀、土師質釜、土師質小皿、土師質小鉢、平瓦、備前焼甕、染付碗の小片等が出土している。

712-00 (第168図) A 01 VM・WM・WN に位置する。平面形は不定形で、北東部は調査区域外に及ぶ。長軸1.9m 以上、短軸1.6m 以上、深さ0.1m を測る。埋土は10YR 6/4にぶい黄橙色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

714-00 (第169図、図版44)

A 01 VL~WM に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、中央部上層を812-OS に切られている。軸長2.0m、深さ1.4m を測る。埋土は、2.5Y 6/6明黄褐色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

716-00 (第169図、図版44) A 01 VL・WL に位置する。平面形は不定形で、北東側は714-00・812-OS、攪乱

坑に切れ、また南西側は調査区域外に及ぶため全容は不明である。長軸3.2m以上、短軸1.8m以上、深さ0.2mを測る。埋土は10YR 5/4にぶい黄褐色粘質シルト、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトの2層で、遺物は出土しなかった。

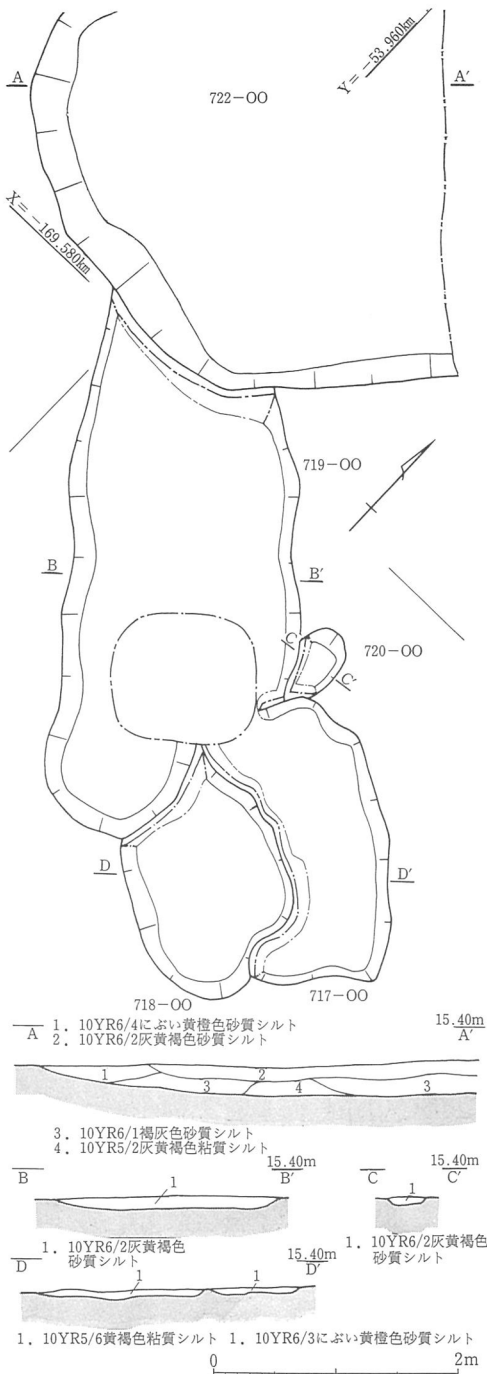
717-00 (第171・172図、図版44・63)

A 01 UK・UL に位置する。平面形は不定形で、西側の一部を攪乱坑に、南側を718-00に切られている。長軸2.4m、短軸0.9m以上、深さ0.05mを測る。埋土は10YR 6/3にぶい黄橙色砂質シルトの1層で、遺構中央部南寄りから瓦質釜(289・290)、瓦質鉢(291)、土師質土器の小片が集中して出土している。

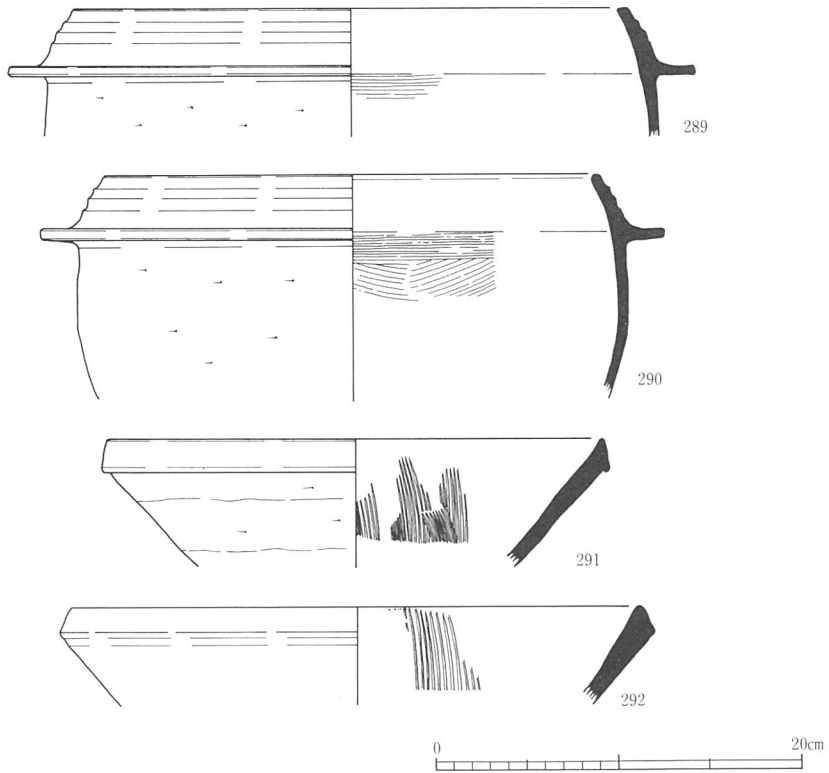
718-00 (第171図、図版44) A 01 UK・UL に位置する。平面形は不整楕円形を呈するが、西側の一部を719-00に切られている。長径2.0m以上、短径1.3m以上、深さ0.05m。埋土は10YR 5/6黄褐色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

719-00 (第171図) A 01 TK・UK に位置する。平面形は不定形で、北西部を722-00に、南東部を717・718-00に切られている。長軸4.4m以上、短軸2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色砂質シルトの1層で、土師質釜、土師質皿、土師質鉢の小片が出土している。

720-00 (第171図) A 01 UK に位置する。平面形は、楕円形を呈するが、西側を



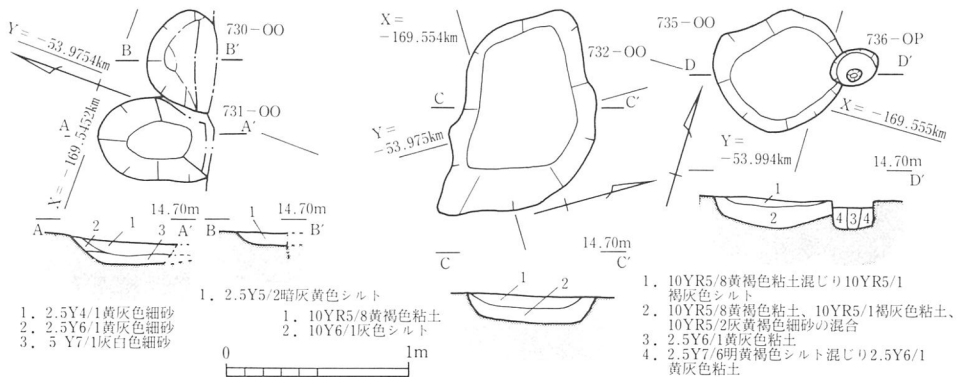
第171図 717~720・722-00 平面図・断面図 (1/60)



第172図 717・722-OO 出土遺物実測図 (1/4)

719-OO に、南側を717-OO に切られている。長径0.7m 以上、短径0.4m、深さ0.08m を測る。埋土は10YR 6/2 灰黄褐色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

722-OO (第171・172図) A 01 TJ・TK に位置する。平面形は不整円形を呈するが、北半部は調査区域外に及ぶ。径3.8m 以上、深さ0.3m を測る。埋土は10YR 6/2 灰黄褐色



第173図 730～732・735-OO、736-OP 平面図・断面図 (1/40)

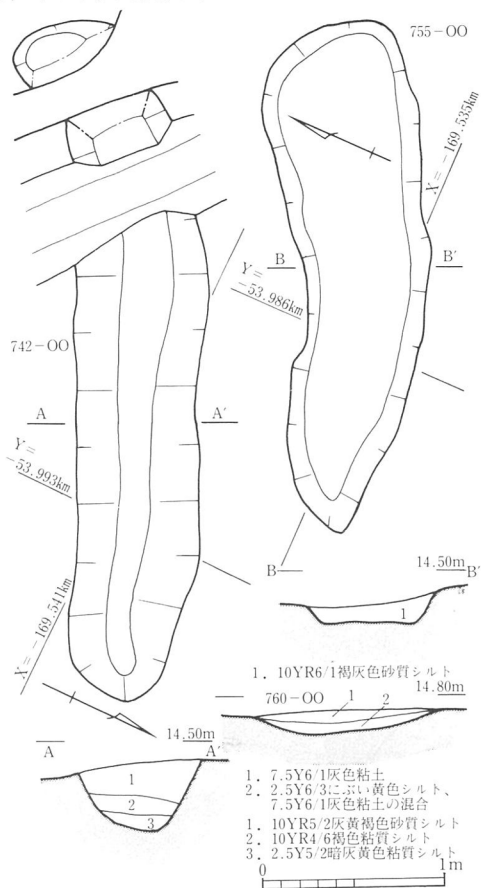
砂質シルト、10YR 6/4にぶい黄橙色砂質シルト、10YR 6/1褐灰色砂質シルト、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトの4層で、埋土からは瓦質鉢（292）、瓦質甕片が出土している。

730-00（第173図） A 01 LG に位置する。平面形は円形を呈すると考えられるが、南側は1003-OS に切られており明らかでない。径0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は、2.5Y 5/2暗灰黄色シルト1層である。土師質小皿の小片1点が出土している。

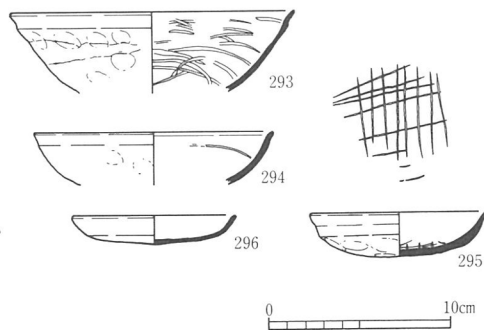
731-00（第173図） 730-00 の西側に接して位置し、730-00 に東側の一部を、1003-OS に南側をそれぞれ切られている。平面形は楕円形を呈し、長径0.6m以上、短径0.45m以上、深さ0.15mを測る。埋土は、2.5Y 4/1黄灰色細砂、2.5Y 6/1黄灰色細砂、5 Y 7/1灰白色細砂の3層である。瓦器碗の小片2点が出土している。

732-00（第173図） A 01 NG に位置する。平面形は不整形で、長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は、10YR 5/8黄褐色粘土と、10Y 6/1灰色シルトの2層である。遺物は出土していない。なお、本土坑は位置、形状、埋土から423-OX と一連の遺構である可能性も考えられる。

735-00（第173図） A 01 ND に位置する。東北側の一部を736-OP に切られているが、平面形は隅丸長方形を呈する。長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.1~0.15mを測り、断面形はU字形に近い。埋土は10YR 5/8黄褐色粘土混じりの10YR 5/1褐灰色シルトと、10YR 5/8黄褐色粘土・10YR 5/1褐灰



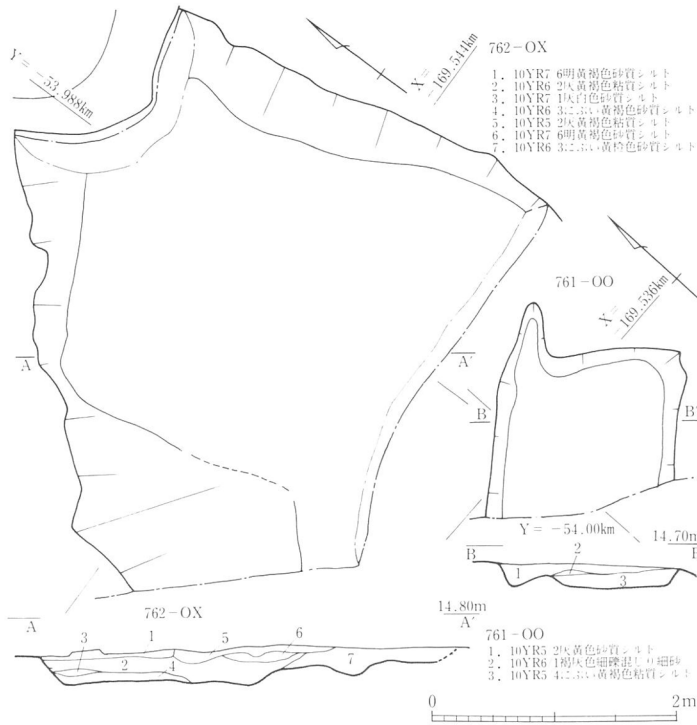
第174図 742・755-00 平面図・断面図、760-00 断面図（1/40）



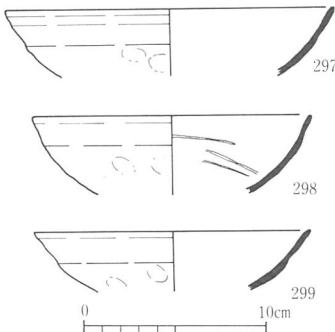
第175図 742-00 出土遺物実測図（1/4）

色粘土・10YR 5/2灰黄褐色細砂の混合層の2層である。遺物は出土しなかった。

742-00 (第174・175図、図版64) A 01 KB に位置する。平面形は不定形で東西方向に長い。長軸3.7m、短軸0.7m、深さ0.4mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色砂質シルト、10YR 4/6褐色粘質シルト、2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シルトの3層で、瓦器碗(293・294)、瓦器小皿(295)、土師質小皿(296)が出土している。



第176図 761-00、762-0X 平面図・断面図 (1/60)



第177図 761-00 出土遺物
実測図 (1/4)

755-00 (第174図)

A 01 ID に位置する。平面形は不定形で長軸2.8m、短軸0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は10YR 6/1 褐灰色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

760-00 (第174図) A 01 MI に位置する。東側を461-00に切られ、西側は598-00と重複している。598-00の項で述べたように、598-00との前後関係は確認できていな

い。全体の規模、形状は明らかでなく、検出部分で最大幅2.5mを測る。深さは0.1m前後である。埋土は、7.5Y 6/1 灰色粘土と、2.5Y 6/3 にぶい黄色シルトと7.5Y 6/1 灰色粘土の混合層の2層である。瓦器碗、土師質釜の小片が少量出土している。

761-00 (第176・177図) A 01 IA・JA に位置する。平面形は概ね長方形を呈するが部分的に突出部があり、また南西側を側溝に切られている。長軸1.8m以上、短軸1.5m、深さ0.2mを測る。埋土は10

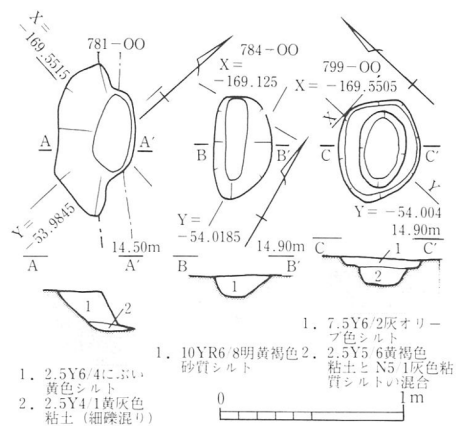
YR 5/2灰黄色砂質シルト、10YR 6/1褐色細礫混じり細砂、10YR 5/4にぶい黄褐色粘質シルトの3層で、瓦器椀 (297~299) をはじめ、土師質釜、土師質皿、平瓦の小片等が出土している。

778-OO (第116図) D 05 HW に位置する。462-OO の下層で検出された。平面形はほぼ円形を呈すると考えられる。直径0.69m、深さは0.15m を測る。埋土は7.5YR 4/3褐色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。

781-OO (第178図) A 01 MD に位置する。

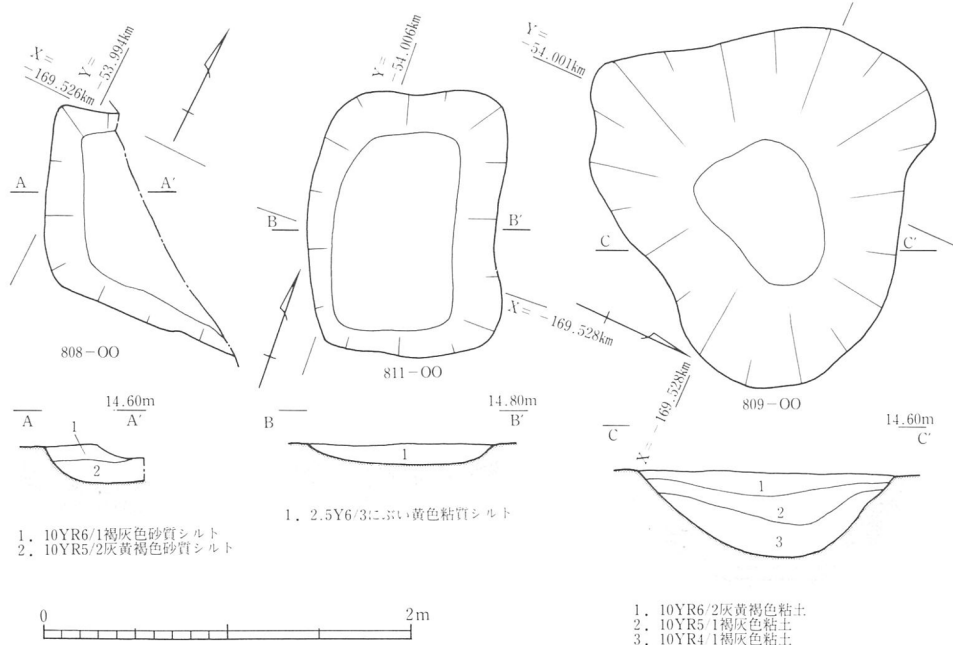
東北側が試掘トレンチによって削平されているため平面形は明らかでないが、長軸0.85m、短軸0.4m、深さ0.2m を測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は、2.5Y 6/4にぶい黄色シルト、細礫混じりの2.5Y 4/1黄灰色粘土の2層である。遺物は出土していない。

784-OO (第178図) D 05 DU に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径0.55m、短径0.35m、深さ0.15m を測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は、10YR 6/8明黄褐色砂質

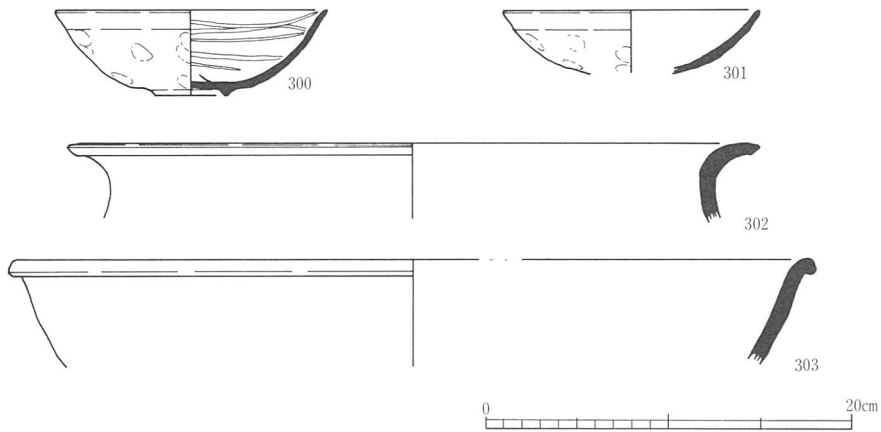


第178図 781・784・799-OO

平面図・断面図 (1/40)



第179図 808・809・811-OO 平面図・断面図 (1/40)

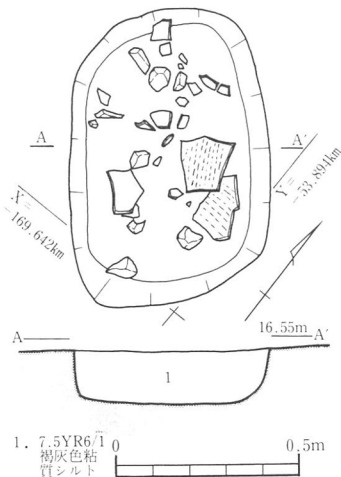


第180図 809-OO 出土遺物実測図 (1/4)

シルト1層である。遺物は出土しなかった。

799-OO (第178図) D 05 EX・EY に位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、長径0.55m、短径0.45m、深さ0.15mを測る。本土坑は明瞭に2段掘りされており、下段の掘り込みは長径0.4m、短径0.25mの楕円形プランを示し、周囲は幅0.05m前後のテラスとなっている。埋土は、7.5Y 6/2灰オリーブ色シルトと、2.5Y 5/6黄褐色粘土とN 5/1灰色粘質シルトの混合層の2層である。遺物は出土しなかった。

808-OO (第179図) A 01 GB に位置する。平面形は不整形を呈する可能性があるが、北東部は調査区域外に及ぶため全容は不明である。長軸1.2m、短軸1.0m、深さ0.2mを測る。埋土は10YR 6/1褐灰色砂質シルト、10YR 5/2灰黄褐色砂質シルトの2層で、遺物は出土しなかった。



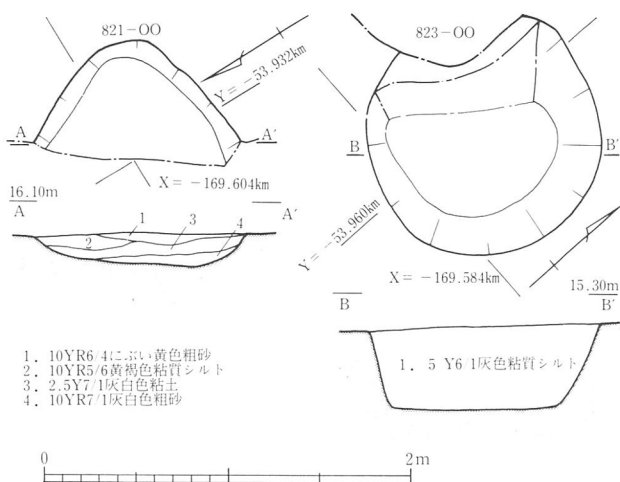
第181図 814-OO 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)

809-OO (第179・180図、図版64) D 05 GY・HY・A 01 GA に位置する。平面形は不整形を呈し、西側の上部は462-OO に切られている。径1.9m、深さ0.45mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色粘土、10YR 5/1褐灰色粘土、10YR 4/1褐灰色粘土の3層で、瓦器碗 (300・301)、須恵質甕 (302)、土師質鉢 (303) の小片等が出土している。

811-OO (第179図) D 05 GX・HX に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長軸1.4m、短軸1.0m、深さ0.1mを測る。埋土は2.5Y 6/3にぶい黄色粘質シルトの1層

で、瓦器椀、土師質釜の小片が出土している。

813-00 (第157図) A 06 OS に位置する。平面形は円形を呈する。直径0.5m、深さ0.17mを測る。埋土は7.5Y 6/3にぶい褐色シルト混じり粗砂、10YR 6/3にぶい黄橙色粗砂、2.5Y 5/1黄灰色シルトの3層である。遺物は出土しなかった。



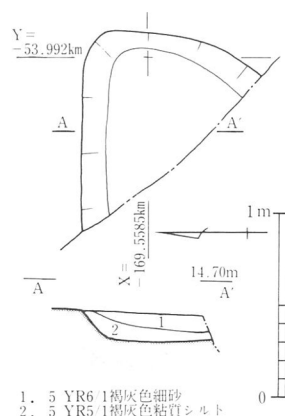
第182図 821・823-00 平面図・断面図 (1/40)

814-00 (第181図) A 07 KB に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸1.57m、短軸1.1m、深さ0.29mを測る。埋土は7.5YR 6/1褐灰色粘質シルトで、土師質甕片が多数出土している。

818-00 (第148図) A 06 HW に位置する。平面形は楕円形を呈するが、北側の一部を613-00に切られている。長径1.5m、短径1.17mを測る。埋土は7.5YR 7/1明褐灰色シルト、10YR 6/2灰黄褐色粘質シルト、10YR 6/1褐灰色粘土の3層である。遺物は出土しなかった。

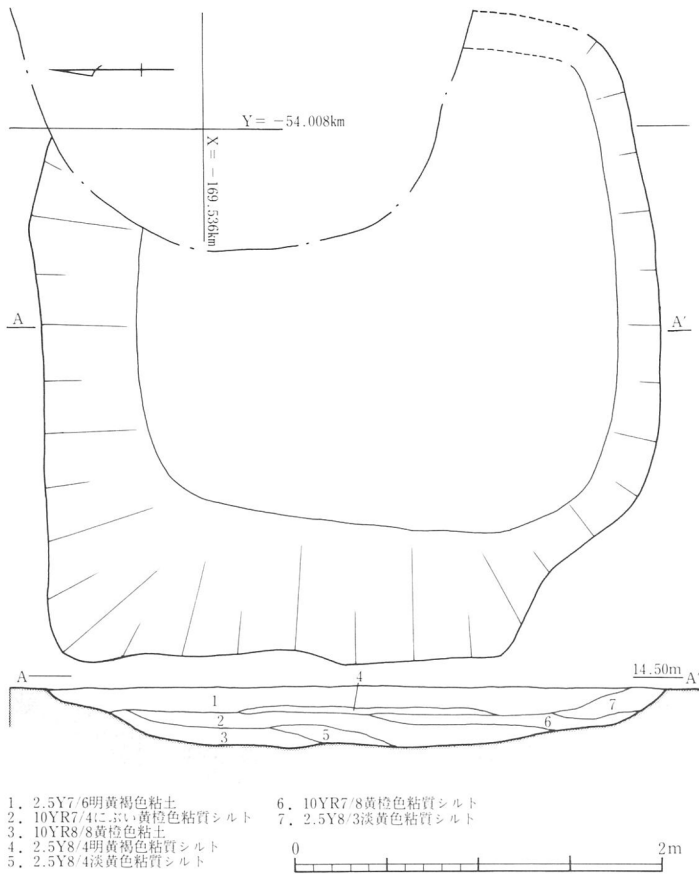
821-00 (第182図) A 06 BR に位置する。平面形は遺構の北西側全体を後世の溝に切られているため全体を検出し得なかったが、不整形の円形を呈すると考えられる。直径1.1m、深さ0.18mを測る。埋土は、10YR 6/4にぶい黄色粗砂、10YR 5/6黄褐色粘質シルト、2.5Y 7/1灰白色粘土、10YR 7/1灰白色粗砂の4層である。遺物は出土しなかった。

823-00 (第182図) A 01 UJ~VK に位置する。平面形はほぼ円形を呈するが、北西側の一部を625-OWに切られている。径1.3m、深さ0.45mを測る。埋土は5 Y 6/1灰色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。



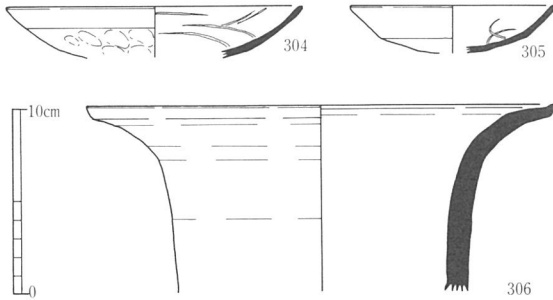
第183図 827-00 平面図・断面図 (1/40)

827-00 (第183図) A 01 OB・OC に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、方形を呈す



- 1. 2.5Y7/6明黄褐色粘土
- 2. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト
- 3. 10YR8/8黄橙色粘土
- 4. 2.5Y8/4明黄褐色粘質シルト
- 5. 2.5Y8/4淡黄色粘質シルト
- 6. 10YR7/8黄橙色粘質シルト
- 7. 2.5Y8/3淡黄色粘質シルト

第184図 828-00 平面図・断面図 (1/40)



第185図 828-00 出土遺物実測図 (1/4)

ると考えられ、857-00の埋土をベースとする。一辺0.55m以上、深さ0.15mを測る。埋土は5 YR 6/1褐灰色細砂、5 YR 5/1褐灰色粘質シルトの2層である。遺物は出土しなかった。

828-00 (第184・185図) D 05 IX・IW・JX・JWに位置する。平面形は後世の攪乱のため西側一部を検出し得なかったが、ほぼ方形を呈すると考えられる。一辺3.3m、深さ0.35mを測る。埋土は2.5Y 7/6明黄褐色粘土、10YR 7/4にぶ

い黄橙色粘質シルト、10YR 8/8黄橙色粘土の3層を中心に大別できる。

遺物は、瓦器椀(304・305)、瓦質釜、須恵質壺(306)をはじめ、土師質釜、瓦質甕等が出土している。

831-00 (第186図) D 05 JXに位置する。平面形はほぼ円形を呈する

るが北側一部を834-00、東側一部を830-OWに切られている。直径0.58m、深さ0.13mを測る。埋土は10YR 7/4にぶい黄橙色粘土、2.5Y 7/2灰黄色粘質シルト、10YR 7/6明黄褐色粘質シルトの3層で、土師質釜、瓦器椀の小片が出土している。

834-00 (第186図) D 05 JXに位置する。平面形は後世の攪乱のため全体を検出し得

なかったが、長方形を呈すると考えられる。長軸0.9m以上、短軸0.57m、深さ0.14mを測る。埋土は5 Y 7/2明褐色粘質シルト、5 Y 6/1褐色粘質シルトの2層で、土師質釜、瓦器碗の小片が出土している。

840-00 (第187図) D 05 JY に位置する。平面形は後世の攪乱のため全体を検出し得なかったが、ほぼ円形を呈すると考えられる。直径1.25m、深さ0.1mを測る。埋土は2.5YR 5/3にぶい黄橙色粘質シルト、10YR 5/3にぶい黄色粘質シルト、10YR 5/4にぶい黄褐色シルトの3層で、瓦器碗、瓦器小皿、土師質小皿の小片が出土している。

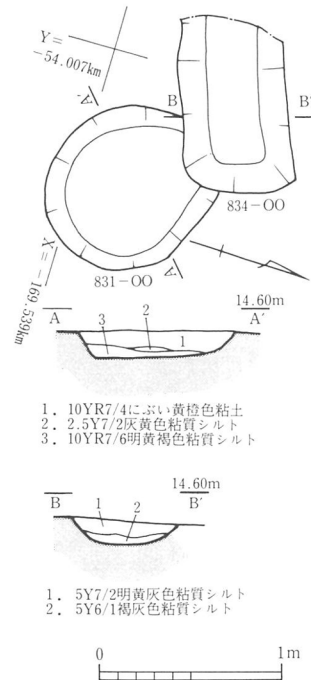
843-00 (第187図) D 05 JX に位置する。平面形は830-OW、838-OS に切られているため不明である。検出最大長1.22m、深さ0.1mを測る。埋土は7.5YR 5/2灰褐色シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

844-00 (第188図) A 01 OD に位置する。平面形は後世の攪乱のため全体を検出し得なかったが、楕円形を呈すると考えられる。長径1.1m以上、短径1.25m、深さ0.23mを測る。埋土は大きく、にぶい黄橙色シルトと、灰白色シルトの2層に分けられる。遺物は瓦器碗、土師質釜の小片が出土している。

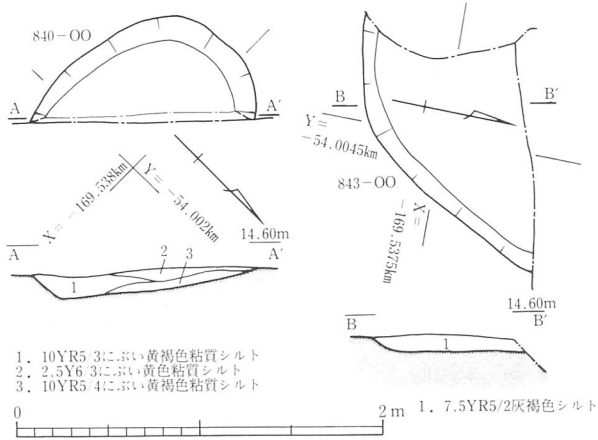
853-00 (第188図) A 01 NC に位置する。平面形はほぼ円形を呈する。直径0.83m、深さ0.14mを測る。埋土は、2.5 Y 8/1灰白色細砂、10YR 5/4にぶい黄橙色粘質シルト、10YR 6/2灰黄色粘質シルト、2.5Y 4/4オリーブ褐色細砂の4層で、遺物は出土しなかった。

856-00 (付図3、第190図) A 01 OC・OD に位置する。平面形は852-00、844-00 に切られているため不明である。残存長2.8m、深さ0.13mを測る。埋土は灰色細砂の1層で、瓦質甕(313)、瓦質釜、土師質釜等の小片が出土している。

860-00 (第189・190図、図版64) A 01・KA・LA に位置する。平面形は後世の攪乱と487-0X に切られているため不明である。長軸0.8m以上、短軸0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y 7/4浅黄色粘質シルト、2.5Y 7/3浅黄色シルト、10YR 7/1灰白色粘土、7.5Y 7/1明褐色粘質シルトの4層で、瓦器碗(307~310)、土師質皿(311)、土師質小皿(312)、土師質釜等が出土している。



第186図 831・834-00
平面図・断面図 (1/40)



1. 10YR5 3にぶい黄褐色粘質シルト
2. 2.5Y6 3にぶい黄色粘質シルト
3. 10YR5 4にぶい黄褐色粘質シルト

1. 7.5YR5/2灰褐色シルト

第187図 840・843-OO 平面図・断面図 (1/40)

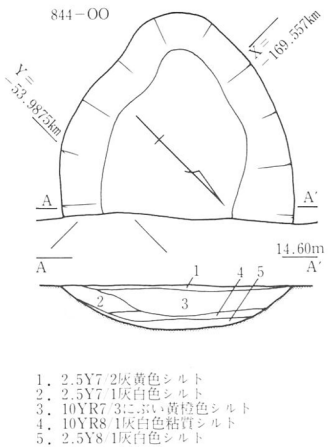
861-OO (第217図) A 01 LB・MB に位置する。平面形は不整形な楕円形を呈するが、中央部を858・869-OS に切られている。長径2.4m、短径1.2m、深さ0.09mを測る。埋土は10YR 5/1褐灰色細砂の1層で、瓦器椀、土師質釜の小片が出土している。

863-OO (第188図) A 01 NC に位置する。平面形は楕円形を呈するが、西側の一部を864-OO に切られている。長径0.5m以上、短径0.58m、深さ0.18mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色細砂、2.5Y 5/2暗灰黄色細砂の2層である。遺物は出土しなかった。

864-OO (第188図) A 01 NB・NC に位置する。平面形はほぼ円形を呈する。直径0.9m、深さ0.05mを測る。埋土は2.5Y 8/1灰色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。

870-OO (第217図) A 01 LA、D 05 LY に位置する。平面形は858・869-OS に切られているため不明であるが、868-OO と同一遺構の可能性はある。検出長2.9m、深さ0.05mを測る。埋土は10YR 7/6明褐色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。

872-OO (第191図) A 01 SH に位置する。873~875-OO、877~879・887・889-OS とともに、X = -169.564km ライン以南、Y = -53.968km ライン以西のIII区 9層上面にて



1. 2.5Y7 2灰黄色シルト
2. 2.5Y7 1灰白色シルト
3. 10YR7 3にぶい黄褐色シルト
4. 10YR8 1灰白色粘質シルト
5. 2.5Y8 1灰白色シルト

1. 10YR6 2灰黄色粘質シルト
2. 2.5Y8 1灰白色細砂
3. 10YR5 4にぶい黄褐色粘質シルト
4. 2.5Y4 4オリーブ褐色細砂

1. 2.5Y8/1灰白色細砂
2. 10YR6/2灰黄褐色細砂
3. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂

第188図 844・853・

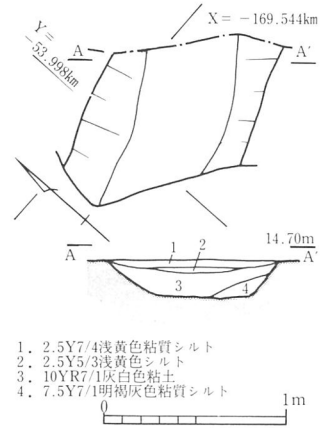
863・864-OO 平面図・断面図 (1/40)

検出された。平面形は楕円形状を呈し、長径0.8m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。埋土は3層に細分でき、上層はシルトと粘土の混合層、中・下層は粘質シルト～粘土である。陶器の鉢、碗、磁器、瓦等の小片が出土している。

873-00 (第191図) A 01 RG・SGに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径1.45m、短径1.15m、深さ0.3m前後を測る。断面形は逆台形状を呈するが、坑底には僅かに凹凸が認められる。埋土は、10YR 6/3にぶい黄橙色粘土と7.5Y 5/1灰色粘土の混合層、2.5Y 6/1黄灰色粘土の2層である。瓦器碗、瓦質釜、瓦質鉢、染付、瓦器の小、細片が出土している。

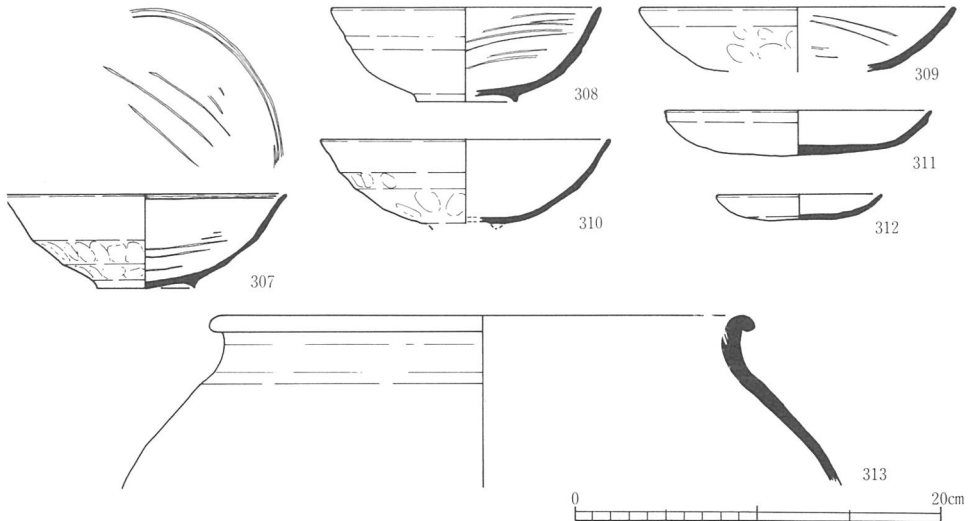
874-00 (第191図) A 01 SGに位置し、873-00に北側の一部を切られている。平面形はやや不整な楕円形状を呈し、長径1.4m、短径0.9m以上、深さ0.1m前後を測る。埋土は、7.5Y 5/1灰色粘土と2.5Y 5/6黄褐色粘土の混合層、2.5Y 5/6黄褐色粘土ブロック混じり10YR 5/2灰黄褐色シルトの2層である。瓦質釜の小片と土師質土器の細片が出土している。

875-00 (第191図) A 01 SGに位置する。南側が調査区外に広がっているが、平面形は楕円形状を呈するものと考えられる。長径1.1m以上、短径1.1m、深さは0.2～0.25

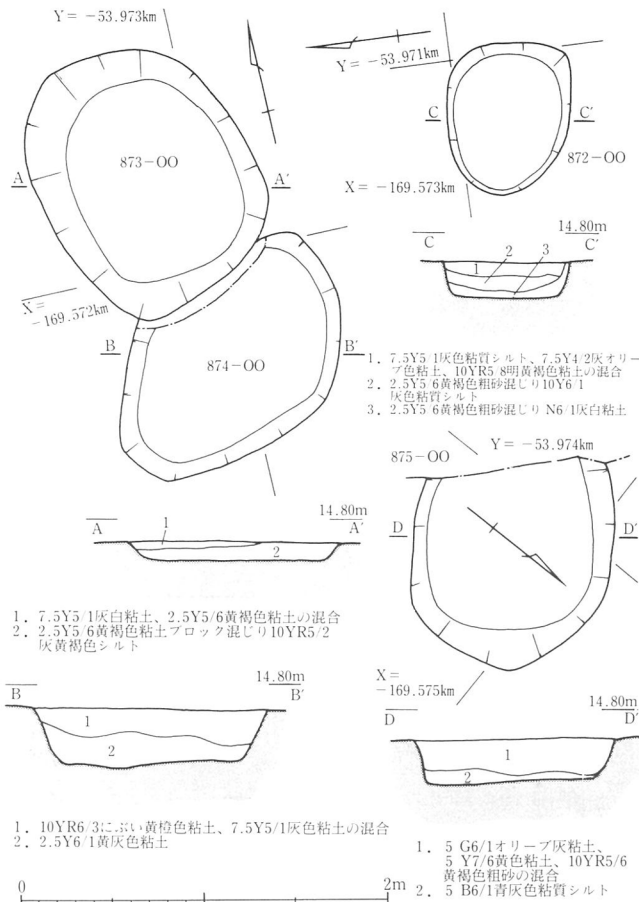


1. 2.5Y7/4浅黄色粘質シルト
2. 2.5Y5/3浅黄色シルト
3. 10YR7/1灰白色粘土
4. 7.5Y7/1明褐色粘質シルト

第189図 860-00 平面図・断面図 (1/40)



第190図 856・860-00 出土遺物実測図 (1/4)



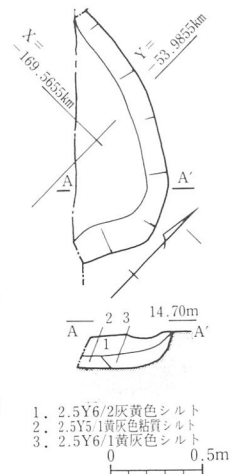
第191図 872～875-OO 平面図・断面図 (1/40)

灰色粘質シルト、2.5Y 6/1黄灰色シルトの3層である。瓦器碗、瓦質釜、土師質小皿、土師質釜、陶器等の小・細片が出土している。

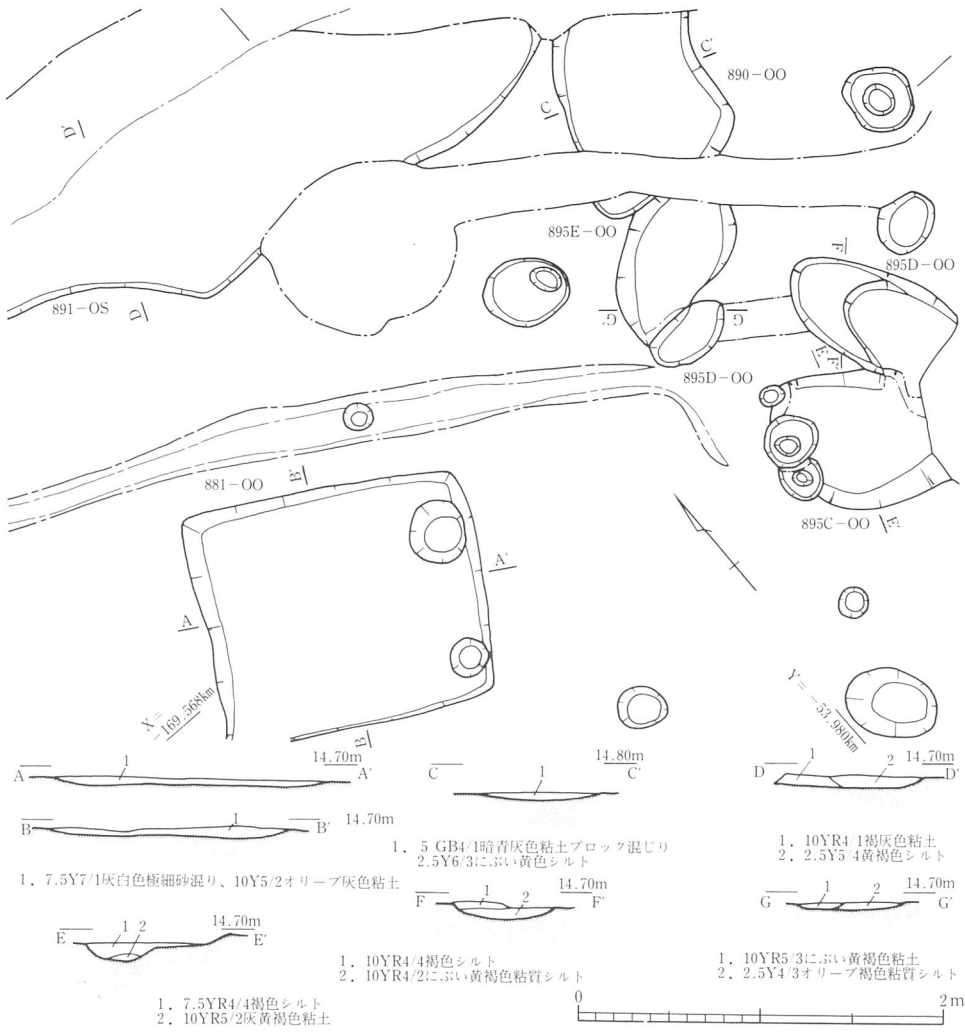
881-OO (第193・195図、図版78,79) A 01 QE・REに位置する。西側隅部がサブトレンチに切られ、東辺で933・948-OPと重複しているが、平面形は長方形を呈する。南北1.2m、東西1.5m、深さ0.05m前後を測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、10Y 5/2オリブ灰色粘土と7.5Y 7/1灰白色極細砂の混合層の1層である。瓦器碗、瓦質釜(320)他、瓦質甕(319)他、土師質釜、青磁碗(318)、瓦質の小、細片が出土している。

mを測る。底面は東～西へ僅かに傾斜している。埋土は、5 GY 6/1オリブ灰色粘土、5 Y 7/6黄色粘土、10YR 5/6黄褐色粗砂の混合層と、5 B 6/1青灰色粘質シルトの2層で、上層からは多量の瓦片が出土した。

880-OO (第192図) A 01 QDに位置する。南西側が調査区外に広がっており、全体の規模、形状は明らかでない。長軸1.35m以上、短軸0.5m以上、深さ0.2mを測る。埋土は、2.5Y 6/2灰黄色シルト、2.5Y 5/1黄



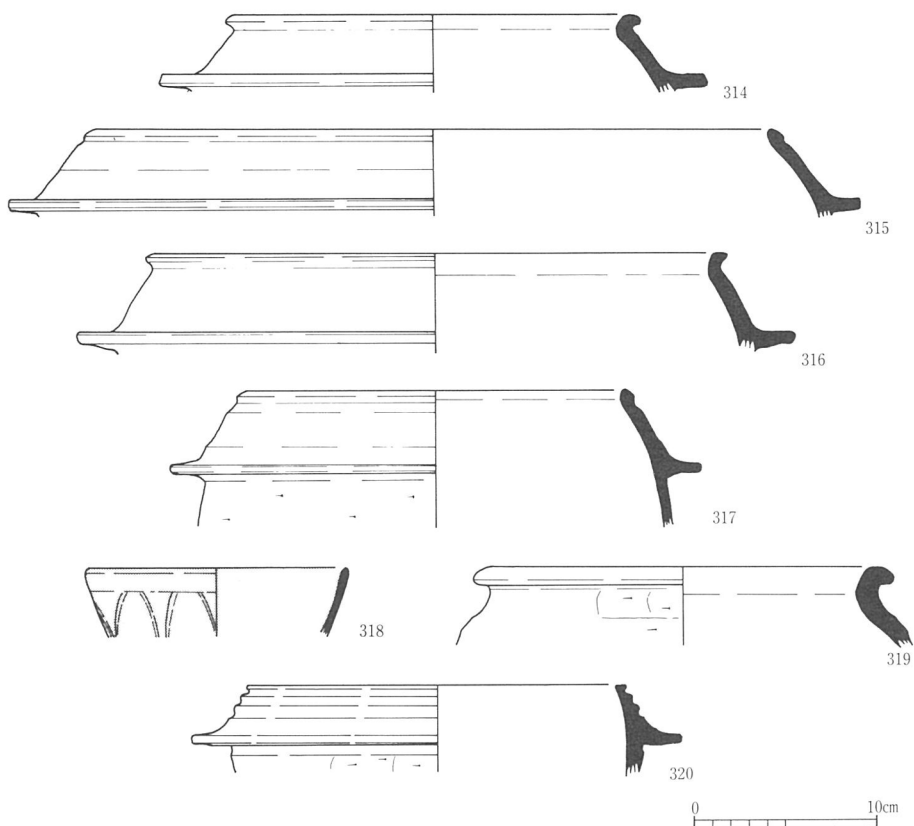
第192図 880-OO 平面図・断面図 (1/40)



第193図 881・890・895 B・C・D・E-OO、891-OS 平面図・断面図 (1/40)



第194図 891-OS 礫群平面図 (1/30)



第195図 881-00、891-0S 出土遺物実測図 (1/4)

882-00 (第196~198図、図版42・45・64) A 01 SF・SG に位置する。検出面はIII区9層上面である。平面形はやや不整な円形を呈し、径0.65×0.55m、深さ0.15mを測る。坑底中央から土師質甕の底部約2分の1が、僅かに北に傾いた状態で出土した。埋土は、7.5Y 6/1灰色粘質シルト、7.5Y 7/1灰白色粘質シルト、2.5GY オリーブ灰色シルトの3層で、前者は甕内で、後2者は甕の周囲で認められた。本土坑も、前述の548・624-00と同様の遺構と考えられる。

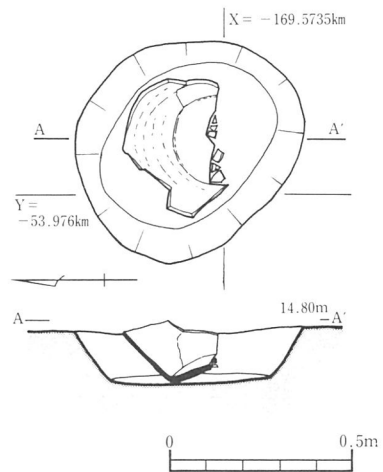
886-00 (第200図、図版45) D 05 HU・HW・IU・IW に位置し、462-00の下層で検出した。平面形は後世の攪乱と調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、長方形を呈すると考えられ、北側隅より、小溝が派生する。土坑部長軸3.6m以上、短軸2.61m、深さ0.29mを測る。埋土は大きく10YR 6/3にぶい黄橙色細砂、2.5Y 5/2暗灰黄色細砂、7.5YR 6/1褐灰色細砂の3層に分けられる。遺物は土師質釜、瓦器碗、瓦質釜の小片等が出土している。

888A-OO (第202図) A 01 SG・SH に位置する。検出面は地山層上面であるが、調査区南壁の土層観察の結果、第III層直下からの掘込みであることが確認された。南側が調査区外に広がっているが、平面形は円形を呈するものと考えられ、径1.5m、深さ0.55mを測る。埋土は、10Y 6/1灰色粘土・10GY 7/1明緑灰色細砂・7.5YR 6/4にぶい橙色粘土の混合層1層である。

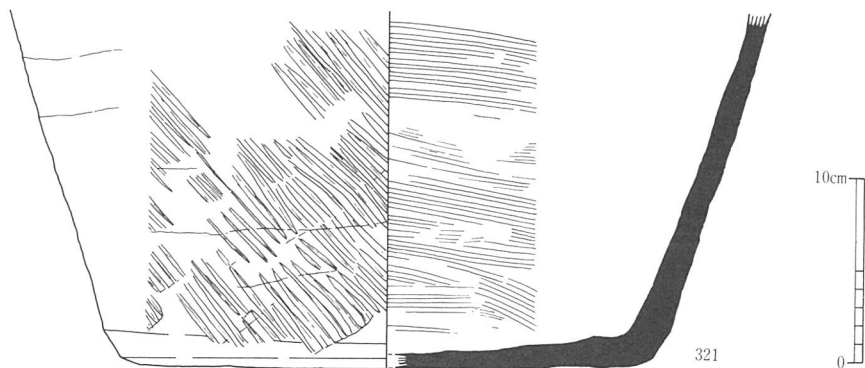
888B-OO (第202図) A 01 SG・SH に位置する。888A-OO 同様、第III層直下からの掘込みである。南側が調査区外に広がっており、南辺中央部を888A-OO に切られている。本来の規模・形状は明らかでないが、長軸3.2m以上、短軸2.1m以上、深さ0.3~0.35mを測る。埋土は、7.5YR 6/2灰褐色粘土と10YR 5/8黄褐色極細砂の混合層と、N 6/0灰色極細砂の2層である。

890-OO (第193図) A 01 QF に位置する。北東側を887-OS に南西側を879-OS に切られている。平面形は不整形で長軸1.05m以上、短軸0.8m、深さ0.05mを測る。埋土は5 BG 4/1暗青灰色粘土ブロック混じりの2.5Y 6/3にぶい黄色シルト1層である。瓦器碗の細片と、連珠文の軒平瓦片が出土している。

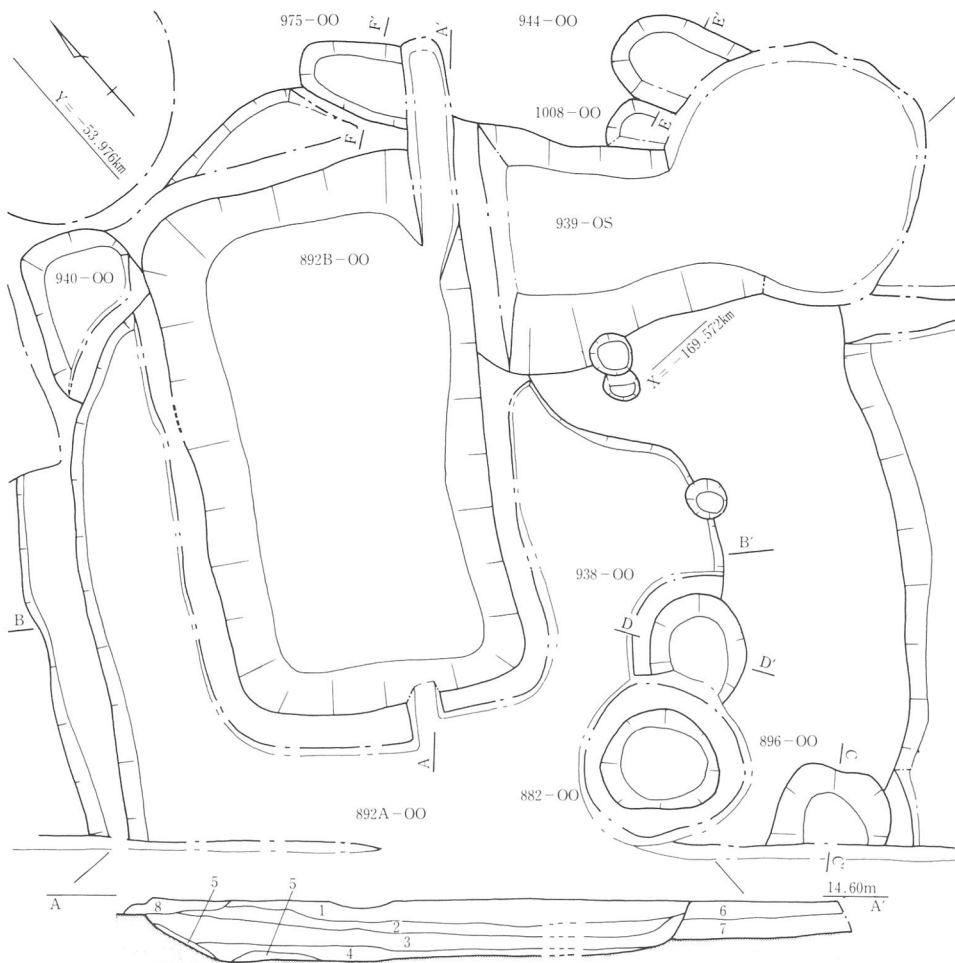
892A-OO (第198・199図) A 01 RF・RG・SF・SG に位置する。南西側は調査区外に広がり、中央部を大きく892B-OO に、南東部を882、938-OO に、それぞれ切られている。このため、全体の規模、形状は明らかでない。現状では、長軸3.0m以上、短軸3.5m



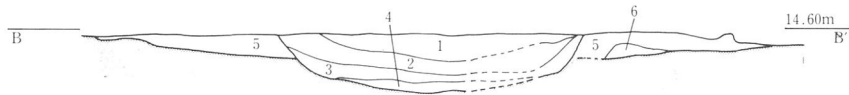
第196図 882-OO 遺物出土状況
平面図・立面図 (1/20)



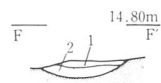
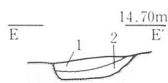
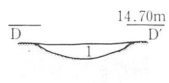
第197図 882-OO 出土遺物実測図 (1/4)



- | | | |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1. 10YR 6/2 灰黄褐色シルト | 4. 10YR 5/2 灰黄褐色極細砂 | 7. 10YR 5/3 に近い黄褐色粘質シルト |
| 2. 2.5Y 5/2 暗灰黄色シルト | 5. 10YR 4/3 に近い黄褐色粘質シルト | 8. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト |
| 3. 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質シルト | 6. 10YR 5/4 に近い黄褐色細砂 | |



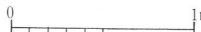
- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| 1. 2.5Y 5/2 暗灰黄色シルト | 3. 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質シルト | 5. 10YR 5/4 に近い黄褐色細砂 |
| 2. 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質シルト | 4. 10YR 5/2 灰黄褐色極細砂 | 6. 10YR 5/3 に近い黄褐色粘質シルト |



- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 10YR 4/6 褐色粘土 | 1. 10YR 4/3 に近い黄褐色粘質シルト |
|------------------|-------------------------|

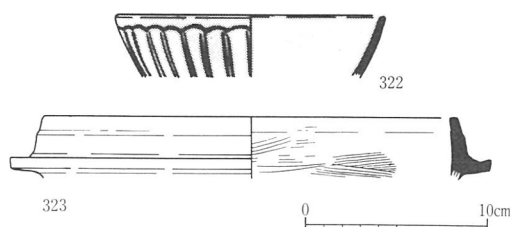
- | |
|-------------------------------|
| 1. 10YR 4/3 に近い黄褐色細砂
混じり粘土 |
| 2. 10YR 4/6 褐色粘土 |

- | |
|-----------------------|
| 1. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト |
| 2. 10YR 4/6 褐色粘質シルト |



第198図 882・892 A・B・896・938・940・944・975・1008-OO 平面図・断面図 (1/40)

を測る。深さは0.1～0.2mを測り、底部は中央部に向かって緩やかに傾斜している。埋土は、10YR 5/4にぶい黄褐色細砂と、10YR 5/3にぶい黄褐色粘質シルトの2層である。瓦器椀、瓦質釜(323)、瓦質鉢、土師質小皿、土師質釜、常滑焼等の小・細片が出土している。



第199図 892 A・B-OO 出土遺物実測図

(1/4)

892B-OO (第198・199図、図版45・78・79) 892 A-OO を切って、A 01 RF・RG・SF・SG に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸2.95m、短軸1.6m、深さ0.3m前後を測る。底面は中央部に向かって緩やかに傾斜している。埋土は5層に細分でき、上層にシルト、中層に粘質シルト、下層に極細砂の堆積をみる。瓦器椀、瓦質釜、瓦質鉢、土師質小皿、土師質釜、青磁碗(322)、瓦等の破片が出土している。

893-OO (第202図) A 01 SG に位置する。南西部は調査区外に広がっており、南東及び北東部は、875・886 B-OO に切られている。このため、検出できたのは西北辺の一部にすぎず、全体の規模、形状は明らかでない。長軸0.8m以上、短軸0.4m以上、深さ0.15mを測る。埋土は、2.5Y 5/2暗灰黄色粘土1層である。土師質釜、土師質土器の小片が各1点出土したのみである。

894-OO (第202図) A 01 SH に位置する。北東部は調査区外に広がっており、南西部は886 B-OO に切られている。このため、検出できたのは北辺の一部にすぎず、全体の規模、形状は明らかでない。長軸0.9m以上、短軸0.7m以上、深さ0.25mを測る。埋土は、2.5Y 5/2暗灰黄色粘土、5 Y 5/1灰色粘土、2.5GY 5/1オリーブ灰色粘土の3層である。遺物は出土しなかった。

895B-OO (第193図) A 01 RF に位置する。南側が攪乱坑によって破壊されているが、平面形は長楕円形を呈する。長径0.9m以上、短径0.55m、深さ0.1mを測る。坑底には北端部から0.55m付近で、弧状の段がついている。埋土は10YR 4/4褐色シルト、10YR 4/3にぶい黄褐色粘質シルトの2層である。瓦片1点が出土している。

895C-OO (第193図) 895 B-OO の南西に接して位置しているが、切合い関係は明らかでない。西側は3個のピットで切られており、東側は攪乱によって破壊されている。このため、平面形は明らかでない。長軸0.8m以上、短軸0.75m、深さ0.1mを測る。坑底は北側に向かって下がっており、一部2段掘り状を呈する部分もある。埋土は7.5YR 4/4褐色シ

ルトと、10YR 5/2灰黄褐色粘土の2層である。瓦器椀と土師質土器の小片が出土している。

895D-00 (第193図) A 01 RF に位置する。東側が削平を受け消失しているが、平面形は楕円形状を呈する。長径0.5m、短径0.25m、深さ0.05mを測る。埋土は、10YR 5/3にぶい黄褐色粘土1層である。瓦器椀と土師質土器の細片が出土している。

895E-00 (第193図) A 01 QF・RF に位置し、南側の一部を895D-00に、北東側を879-OS及び890-00に、それぞれ切られている。このため、平面形は明らかでない。長軸0.7m以上、短軸0.6m、深さ0.05mを測る。埋土は、2.5Y 4/3オリーブ褐色粘質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

896-00 (第198図) A 01 SG に位置する。南西部が調査区外に広がっているが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。長径0.4m以上、短径0.65m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 4/6褐色粘土1層である。遺物は出土しなかった。

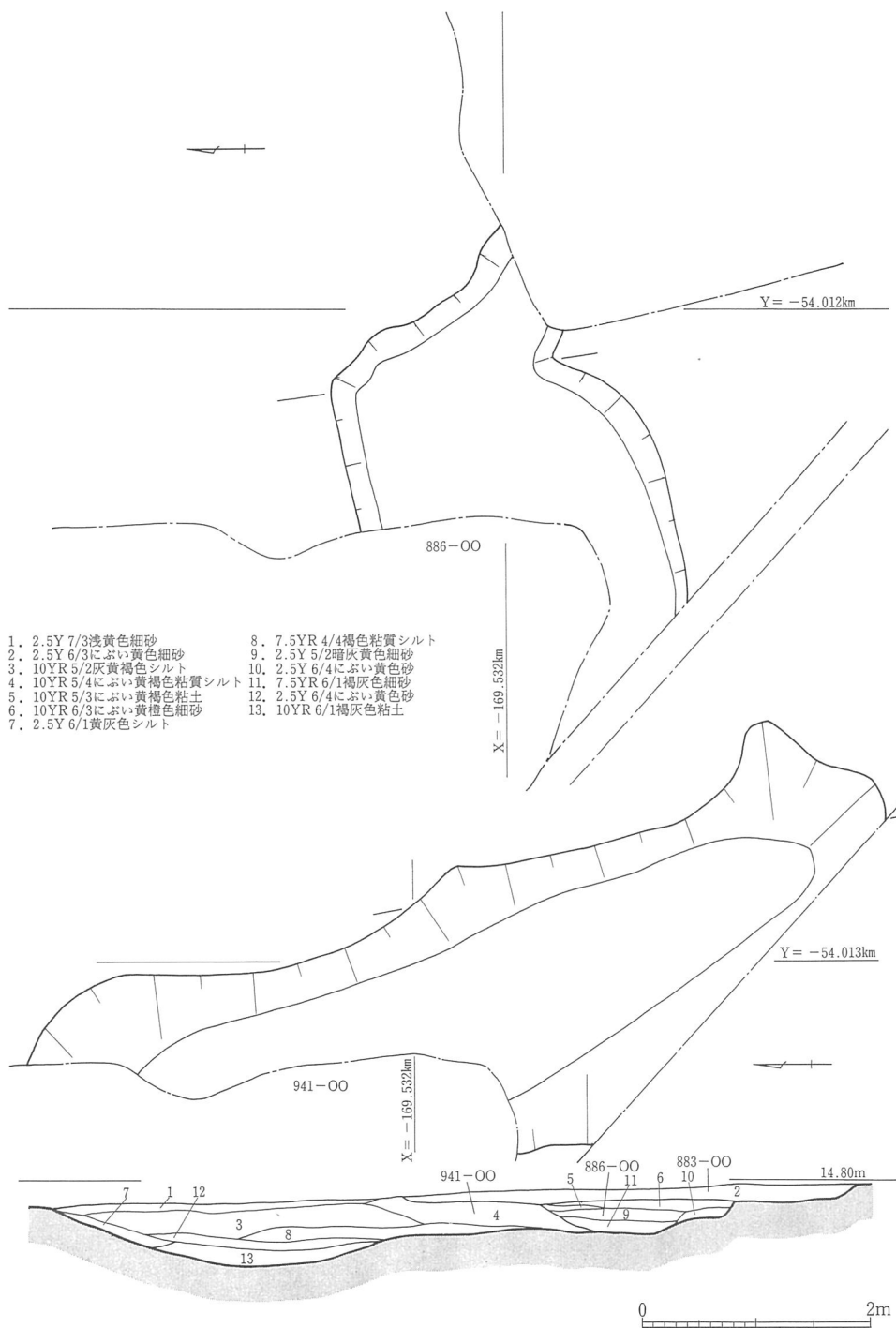
897-00 (第203図) D 05 EQ・ER・FQ・FRの交点に位置する。平面形はやや不整な円形を呈し、径0.65m、深さ0.15mを測る。断面形はスリ鉢状を呈する。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト1層である。瓦質釜、土師質小皿、土師質土器片の細片が各1点出土している。

925-00 (第203図) A 01 DQ・EQに位置する。中央部及び南端部を904・905-OSに切られている。平面形は不定形で長軸3.5m以上、短軸1.85m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 5/6黄褐色粘質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

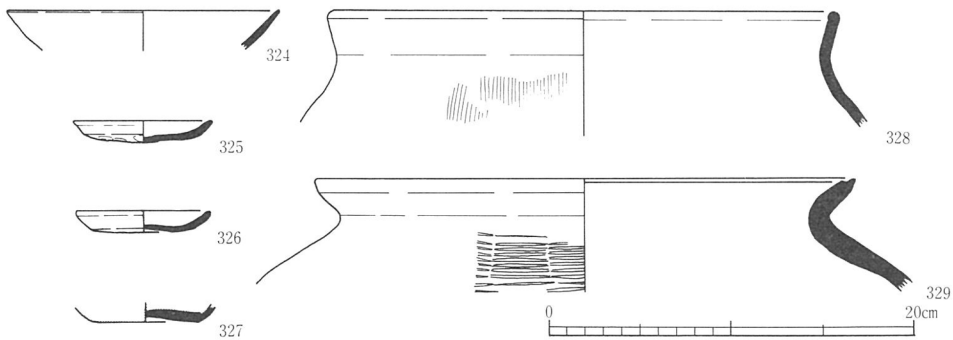
938-00 (第198図、図版45) A 01 SG に位置し、西側の一部が882-00の下層にあたっている。平面形は円形を呈し、径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 4/3にぶい黄褐色粘質シルト1層である。丸瓦片1点が出土している。

940-00 (第198図) A 01 RF に位置する。南側上部が892A-00によって削平されているが、平面形は隅丸長方形を呈していたと考えられる。長軸0.9m以上、短軸0.6m以上、深さ0.1m前後を測る。埋土は、2.5Y 4/3オリーブ褐色粘質シルト1層である。瓦器椀、瓦質甕、土師質釜等の破片が少量出土している。

941-00 (第200・201図、図版78・79) D 05 HV・IV・IWに位置し、462-00の下層で検出した。平面形は後世の攪乱や調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、楕円形を呈すると考えられ、南側一部を886-00に切られている。長径6.5m以上、短径2.5m、深さ0.55mを測る。埋土は大きく2.5Y 7/3浅黄色細砂、10YR 5/2灰黄褐色シルト、7.5



第200図 886・941-OO 平面図・断面図 (1/60)



第201図 941-OO 出土遺物実測図 (1/4)

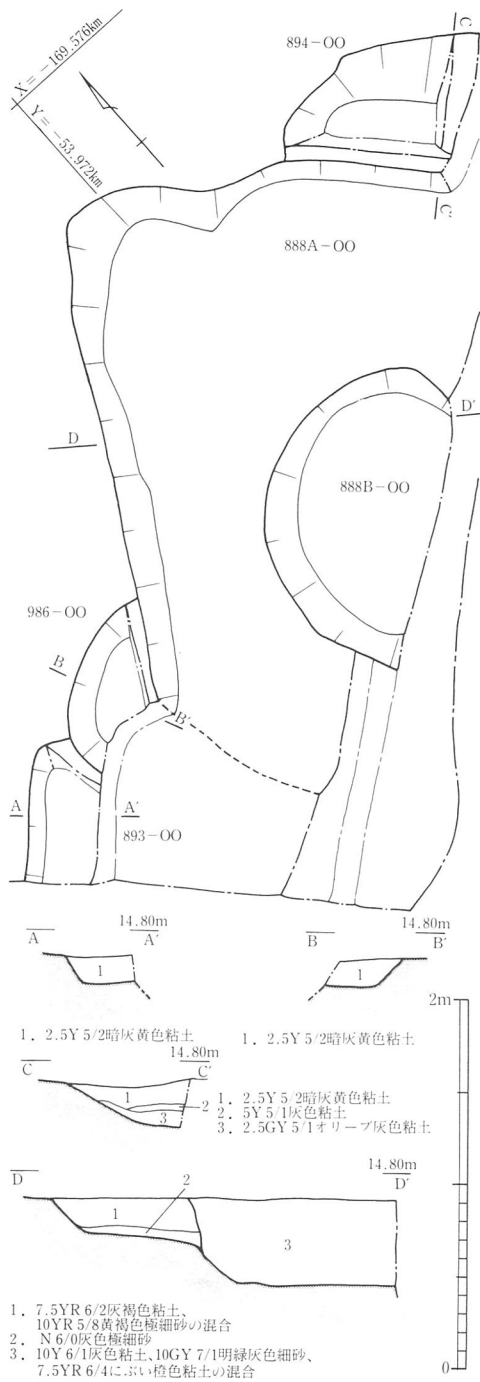
YR 5/8明褐色粘質シルト、10YR 6/1褐色灰色粘土の4層に分けられる。遺物は、瓦器椀(324)土師質小皿(325・326)、土師質甕(328)、須恵質甕(329)、青磁碗(327)等の小片が出土している。

943-OO (第222図) A 01 SG に位置する。北東～南東側及び南西側の一部を、873・886 B・893・896・986-OO・939-OS に切られており、さらに、南側は調査区外に広がっている。このため、南西側の一部が検出されたにすぎず、本来の規模、形状は明らかでない。長軸3 m 以上、短軸1.1m 以上、深さ0.1m を測る。埋土は細礫混じりの10YR 5/1灰褐色粘土と、10YR 6/1褐色灰色粘質シルトの2層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質甕、土師質小皿、土師質釜の小片が少量出土している。

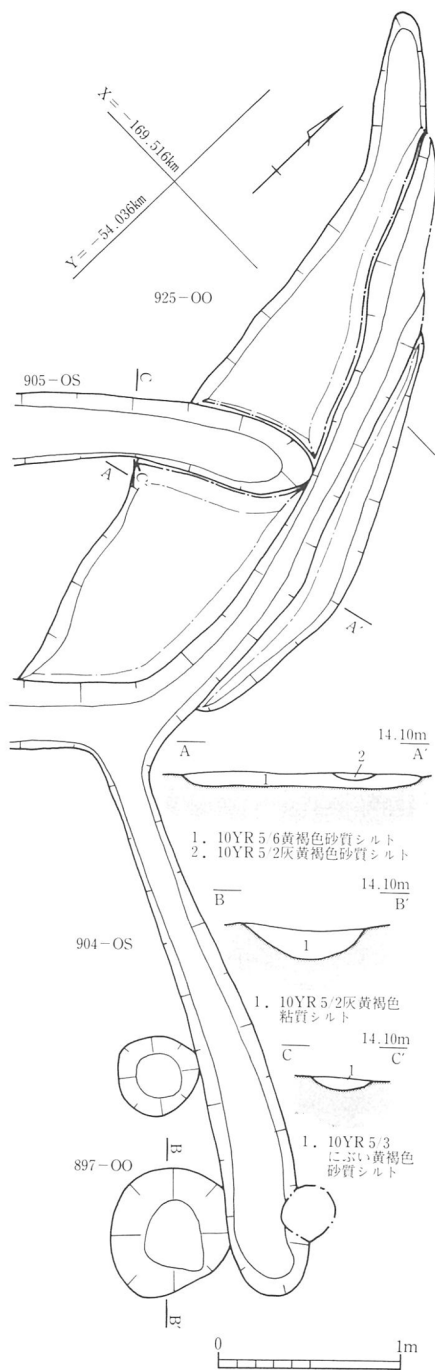
944-OO (第198図) A 01 RG に位置する。南側を873-OO に、西側を974-OO に、それぞれ切られており、全体の規模、形状は明らかでない。長軸0.5m 以上、短軸0.45m 以上、深さ0.1m 前後を測る。埋土は細砂混じりの10YR 4/3にぶい黄褐色粘土と、10YR 4/6褐色粘土の2層である。瓦器椀、瓦質釜、陶器等の小片が出土している。

968-OO (第222図) A 01 SG に位置する。四周をすべて他の遺構に切られており、本来の規模、形状は明らかでない。長軸2.6m 以上、短軸1 m 以上、深さ0.1m を測る。埋土は、10YR 5/1灰褐色シルトと、10YR 5/3にぶい黄褐色粘質シルトの2層である。少量の瓦質鉢、須恵質土器、土師質土器の小片が出土している。

975-OO (第198図) A 01 RG に位置し、939-OS の肩部の一部を切っている。東南部がサブトレンチによって破壊されているが、平面形は楕円形を呈していたと考えられる。長径0.6m 以上、短径0.4m、深さ0.1m 前後を測り、坑底は丸味を帯びている。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトと、10YR 4/6褐色粘質シルトの2層である。遺物は出土しなかった。



第202図 888 A・B・893・894・986
-OO 平面図・断面図 (1/40)



第203図 897・925-OO、904・905
-OS 平面図・断面図 (1/40)

986-00 (第202図) A 01 SG に位置する。東南～西南側を875・886 B-00 に切られており、全体の規模、形状は明らかでない。長軸1 m 以上、短軸0.45m、深さ0.15m を測る。埋土は、2.5Y 5/2暗灰黄色粘土1層である。遺物は出土しなかった。

987-00 (付図4) A 01 LH に位置する。北東部を1003-OS によって切られているが、平面形は円形を呈していたと考えられる。径0.65m、深さ0.15m を測る。埋土は、2.5 Y 6/8明黄褐色粘土1層である。遺物は出土しなかった。

1001-00 (第112・113図、図版64) A 07 MG・NG に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出することはできなかったが、長方形を呈すると考えられる。長軸3.2m 以上、短軸1.62m、深さ0.19m を測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色細砂、10YR 6/1褐灰色砂質シルトで最上層は1002-00 最上層と同時堆積である。遺物は土師質小皿(191)、瓦質釜、瓦質鉢、瓦質甕、瀬戸焼碗の小片が出土している。瀬戸焼碗片は1002-00 のもの(190)との接合資料である。

1002-00 (第112・113図) A 07 NF・NG・DF・DG に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、方形を呈すると考えられる。南西側全体は447-00 に切られている。一辺5.9m 以上、深さ0.32m を測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色細砂、10YR 4/1褐灰色細砂、10YR 6/2灰黄褐色細砂、2.5Y 6/1黄灰色粘質シルトの4層で、瓦質釜(187・188)、瓦質鉢(189)、瀬戸焼碗(190)、瓦器椀、瓦の小片が出土している。

1008-00 (第198図) A 01 RG に位置する。南側を873-00 に切られている。ただし、939-OS との先後関係は確認できていない。全体の規模、形状は明らかでない。長軸0.35m 以上、短軸0.25m 以上、深さ0.1m を測る。埋土は、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

1009-00 (第67図) A 07 GB・GC に位置する。平面形は不整楕円形を呈する。長径1.8m、短径0.6m、深さ0.3m を測る。埋土は7.5YR 4/2灰褐色粘質シルトの1層で遺物は出土しなかった。

1012-00 (付図2) A 06 GW に位置する。平面形は不整形な楕円形を呈する。長径1.1m、短径0.45m、深さ0.2m を測る。埋土は7.5YR 6/1灰褐色細砂の1層である。遺物は出土しなかった。

1013-00 (付図2) D 05 GU・HU に位置する。平面形は後世の攪乱と調査範囲の関係上全体を検出し得ることはできなかったが、方形を呈すると考えられる。一辺2.5m 以上、深さ0.1m を測る。埋土はにぶい黄色細砂である。遺物は出土しなかった。

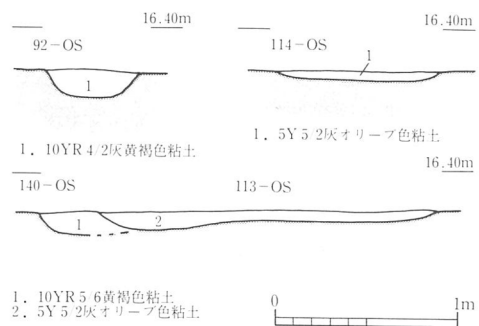
第4項 溝

2-OS (付図5) A 07 MG から A 07 KI にかけて位置し、調査区にはほぼ直交して走る溝である。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長7.5m、幅0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色砂質土の1層で、瓦質釜等の小片が出土している。また、この溝は102-OO から派生する溝の可能性も考えられる。

92-OS (第204図) A 06 AW に位置する北東から南西方向の溝であるが、90-OO、91・94・93-OP に切られているため全容は不明である。検出し得た規模は、長さ1.4m、幅0.6m、深さ0.15mを測る。埋土は、10YR 4/2灰黄褐色粘土である。遺物は出土していない。

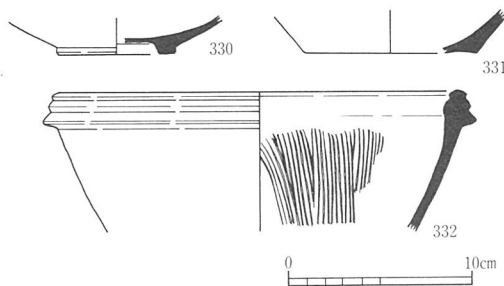
113-OS (第204図) A 06 AW・BW・BX・CX に位置する北西から南東方向の溝である。規模は、検出全長7.3mで、幅は1.4mの部分と0.8mの部分がある。深さは0.1mである。断面形は非常に緩いU字状を呈する。埋土は、5Y 5/2灰オリーブ色粘土の1層である。遺物は、土師質土器、須恵質土器、陶器、伊万里焼碗、瓦等の破片が出土している。尚、本溝は、140-OS を切っている。

114-OS (第204図) A 01 YV、A 06 AV に位置する北西から南東方向の溝である。北西端部は、トレンチによって切られるため正確な規模は不明である。検出全長は、3.5m、幅0.9m、深さは0.05mを測る。埋土は、5 Y 5/2灰オリーブ色粘土である。遺物は出土していない。



140-OS (第204図) A 06 AW・BW に位置する北西から南東方向の溝である。その大半は、113-OS によって切られ、また99・103・169-OP にも切られているためその全容は明らかではないが、検出し得た規模は、長さ4.0m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 5/6黄褐色粘土1層である。遺物は出土しなかった。

196~199-OS (付図1、第205図) III区 Y = -53.980kmライン以西、X = -169.528kmライン以南の第三層上面で検出された遺構群である。同一層上面で検出された遺構に、前述の200-OO がある。196-OS は、屈曲部が攪乱坑によって破壊されているが、東西~南北方向に直角に屈曲して走る。検出全長40.5m。遺物は陶器碗(330)、陶器鉢(331・332)



第205図 196-OS 出土遺物実測図 (1/4)

ら明治以後の所産と考えられる。幅0.3~0.8m、深さ0.05~0.2mを測る。埋土は、196-OSが7.5YR 5/6明褐色粘質シルト、197-OSが7.5YR 6/1灰褐色砂質シルト、198-OSが7.5YR 5/6明褐色粘土、199-OSが5 YR 6/8橙色粘質シルトと7.5YR 6/1灰褐色砂質シルトである。埋土中から染付、瓦等の小片が出土している。

363-OS (付図3) A 01 UO に位置する溝で、北東から南西の方向性を持つが、南西部は削平のためか残存していない。検出全長は2.8m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。埋土は2.5Y 7/2灰黄色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

372-OS (付図3) A 01 RM~TN に位置する溝で、北西側は調査区域外に及ぶ。北西から南東にかけて直線的に12m延びて、南西に直角に曲がり4.5mの地点で終結する。また、屈曲点の北西側3.5mの地点で、南西部へ4.5mで終結する溝が直角に取り付いている。北西部は383-OOを切って形成されている。幅は0.2~0.5m、深さ0.1mを測り、埋土は2.5Y 6/6明黄褐色粘質シルト、5 Y 6/1灰色細砂の2層で、埋土からは瓦質釜、土師質鉢の破片が出土している。

376-OS (付図3) A 01 SN に位置する溝で、北部は377-OOに、南部は372-OSに切られている。検出全長1.3m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。埋土は2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

431-OS (第206・207図、図版67・75) D 05 BU~DT に位置する溝で、第IX層上面で検出された。北東側は調査区域外に及ぶため全容は不明である。現在の耕作に伴う地割りで北西へ約0.2m下がる段差を有する地点にかかっている。D 05 DT に発して北へ5.0m延び、北東側へ屈曲して約7.0m延びた地点で調査区域外に至る。幅は0.9~2.0mで、深さはD 05 CT では0.45mを測り、周辺の溝底の深さ0.1mと比較して一段と深度を増している。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトをはじめ6層を数える。埋土からは瓦器碗(333~336)、土師質小皿(338)、砥石(339)が出土している。また、炭化した植物遺体が部分的

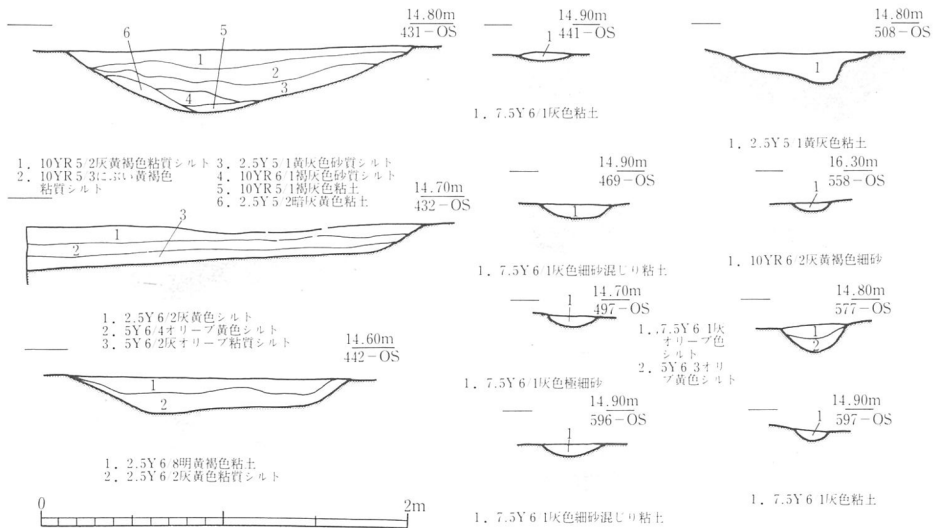
等の小片が出土している。他の溝も196-OSに平行あるいは直交して走っている。各所で拳大~人頭大の河原石が、溝中に置かれたような状態で出土しており、水田等に伴う遺構と考えられる。相互に切合い関係をもっているが、全体の形状から一連の遺構と判断される。層位関係から

に薄く残存していた。

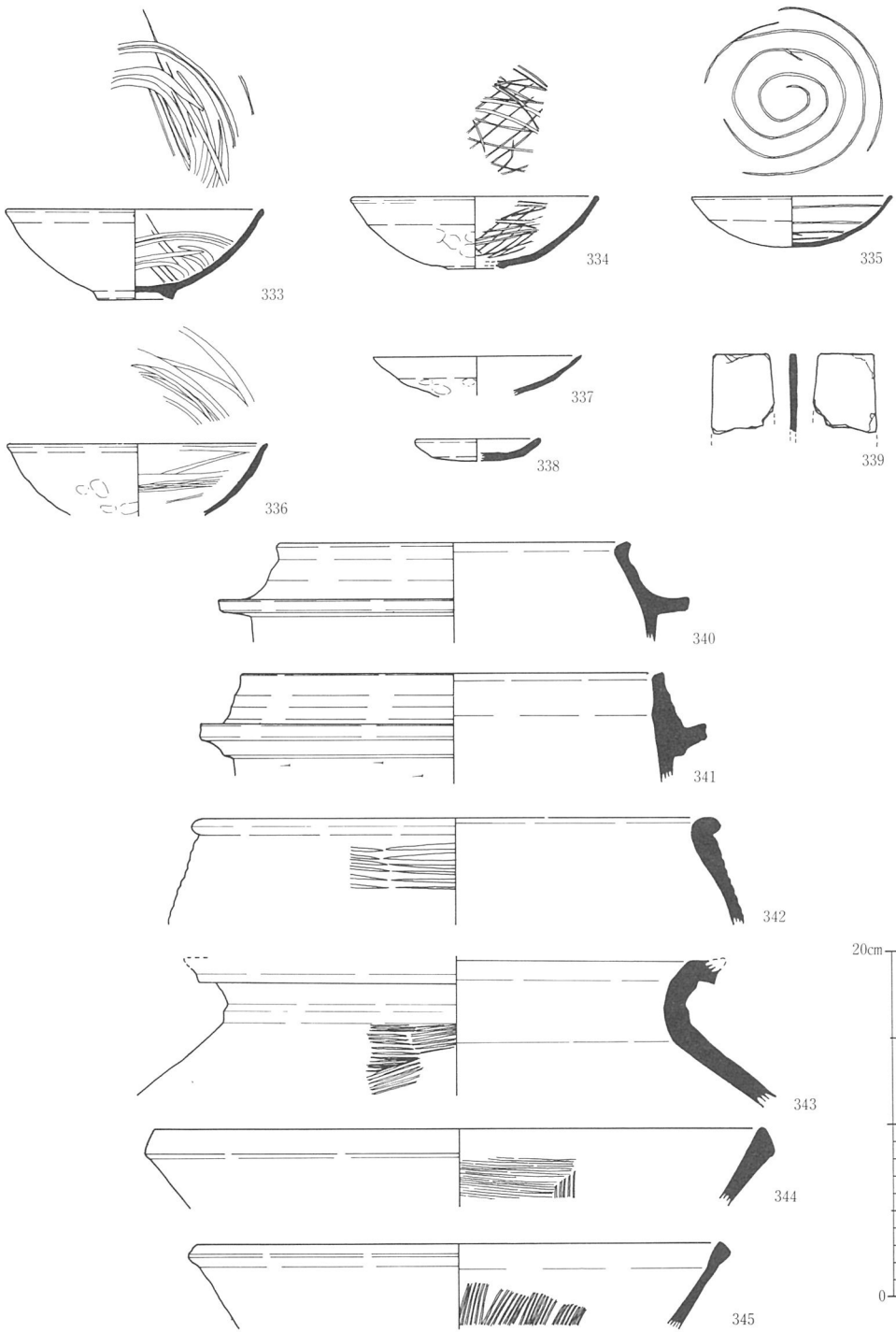
432-OS (第206・207図) L 25 WP~D 05 CR にかけて位置する。北東~南西方向から北西~南東方向に屈曲して走るが、全体の幅が確認できた部分はない。検出全長20.0m、幅2.0m以上、深さ0.15~0.25mを測る。断面形は逆台形を呈すると考えられる。埋土は、2.5 Y 6/2灰黄色シルト、5 Y 6/4オリーブ黄色シルト、5 Y 6/2灰オリーブ粘質シルトの3層である。瓦質鉢、土師質釜、丹波焼鉢(345)等の小片が出土している。

441-OS (第206・207図) A 01 MI に位置する東西溝である。検出全長2.7mを測り、東側は調査区外に延びている。幅0.3~0.35m、深さ0.05m。断面形は浅く幅の広いU字型を呈する。埋土は、7.5Y 6/1灰色粘土1層である。瓦器椀(337)、瓦質釜、土師質小皿、土師質釜(340)、須恵質土器等が出土している。

442-OS (第206・207図) A 01 OF・PF に位置する。北東~南西に走るが、北東部は試掘トレンチにより破壊されている。層位関係から582-OO に後出することが確認されているが、南西側では検出できなかった。検出全長4.4m、幅1.35~1.7m、深さ0.2mを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は、2.5Y 6/8明黄褐色粘土と、2.5Y 6/2灰黄色粘質シルトの2層で、上層には、下層のブロック土が認められる。瓦器椀、瓦質釜、瓦質鉢(344)、瓦質甕(342)、土師質釜等の小片が出土している。なお、本溝は824-OW の上部を削平している。



第206図 431・432・441・442・469・497・508・558・577・596・597-OS 断面図 (1/40)



第207图 431・432・441・442-OS 出土遺物実測図 (1/4)

469-OS (第206図) A 01 KF~LG に位置する。北西から南東に直線的に走り、検出全長3.85m、幅0.15~0.45m、深さ0.05~0.1mを測る。断面形はU字状を呈する。瓦器椀、土師質小皿、土師質釜、須恵質鉢、陶器等の小片が出土している。

497-OS (第206図) A 01 LI~A 01 NI にかけて位置する。NI~MH で南東から北西に走った後、屈曲して北東~南西に走る。北東部は調査区外に延びている。検出全長9.2m、幅0.2~0.4m、深さ0.05~0.1mを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は7.5Y 6/1灰色極細砂1層である。弥生式土器の細片が少量出土した。

500-OS (第131図) A 01 LD に位置する東西溝で、第VI層上面で検出された。西側では試掘坑に切られている。検出全長0.9m、幅0.2m、深さ0.04mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色粘土の1層で、遺物は出土しなかった。

501-OS (第131図) A 01 MC~LE に位置する東西溝で、第VI層上面で検出された。西側では499-OO に切られている。検出全長4.0m、幅0.45m、深さ0.08mを測る。埋土は10YR 6/1褐灰色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

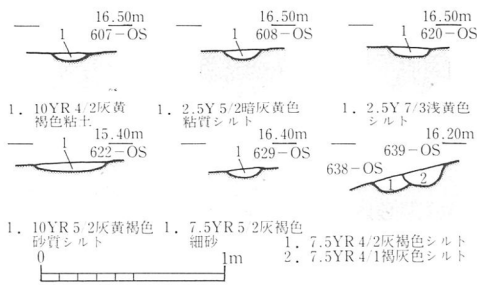
508-OS (第206図) A 01 KF~A 01 MG に位置する。僅かに屈曲しながら北西~南東に走る。両端部は検出面の段差及び窪みによって、ともに消失している。検出全長7.7m、幅0.35~0.7m、深さ0.15m前後を測る。断面形はU字状を呈するが、部分的に2段掘り状をなす部分もある。瓦器椀、瓦質土器、土師質釜等の小片が出土している。

558-OS (第206図) A 06 BS~BT にかけて位置する小溝である。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長4.5m、幅0.2m、深さ0.03mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。

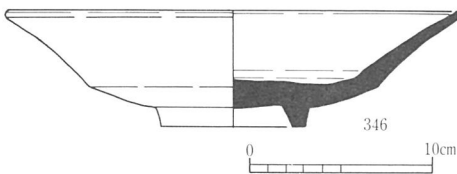
577-OS (第206図) A 01 NG・OG に位置する。北西~北東に走ったのち屈曲して南北に走る。北西端は丸く終わり、南端は423-OX に切られている。検出全長4.2m、幅0.4~0.6m、深さ0.15m前後を測る。断面形はU字状を呈する。埋土は、7.5Y 6/1灰オリーブ色シルトと2.5Y 6/3オリーブ黄色シルトの2層である。備前焼の甕、土師質土器等の小片が出土している。

596-OS (第206図) A 01 LH に位置する。北東~南西に走り、北東側は調査区外に延び、南西側は地山層上面の段によって消失している。検出全長1.1m、幅0.3~0.35m、深さ0.05~0.1mを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は、細砂混じりの7.5Y 6/1灰色粘土1層である。遺物は出土しなかった。

597-OS (第206図) A 01 LH に位置し、596-OS とほぼ平行に走るが、LH の南辺近



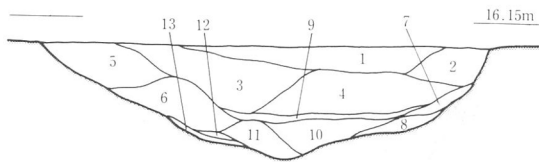
第208図 607・608・620・622・629・638・639-OS 断面図 (1/40)



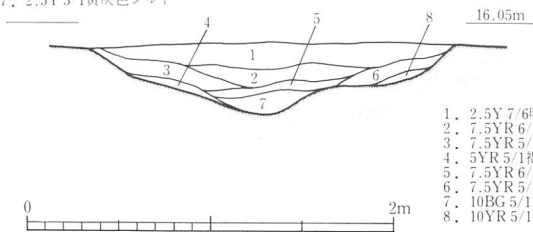
第209図 639-OS 出土遺物実測図 (1/4)

しなかった。

620-OS (第208図) A 06 GW に位置する小溝である。619-OO、621-OS に切られている。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長1.1m、幅0.25m、深さ0.05m を測る。埋土は2.5Y 7/3浅黄色シルトの1層で、遺物は出土しなかった。



- 1. 2.5Y 7/6 明黄褐色粗砂混じりシルト
- 2. 7.5YR 7/1 明褐灰色シルト
- 3. 10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト
- 4. 2.5Y 7/4 浅黄色粘質シルト
- 5. 10YR 6/4 濃い黄棕色細砂
- 6. 10YR 5/1 褐灰色粗砂混じり粘土
- 7. 2.5Y 5/1 黄灰色シルト
- 8. 7.5YR 6/2 灰褐色粗砂
- 9. 10YR 6/1 褐灰色粘土
- 10. 10YR 7/6 明黄褐色粗砂混じり粘土
- 11. 10YR 6/6 明黄褐色粗砂混じり粘土
- 12. 10BG 5/1 暗青灰色粘土
- 13. 2.5Y 6/1 黄灰色粗砂



- 1. 2.5Y 7/6 明黄褐色粗砂
- 2. 7.5YR 6/2 灰褐色粘質シルト
- 3. 7.5YR 5/1 褐灰色粗砂混じり細砂
- 4. 5YR 5/1 褐灰色粗砂
- 5. 7.5YR 6/3 にぶい褐色シルト
- 6. 7.5YR 5/2 灰褐色細砂
- 7. 10BG 5/1 青灰色粘土
- 8. 10YR 5/1 褐灰色粗砂

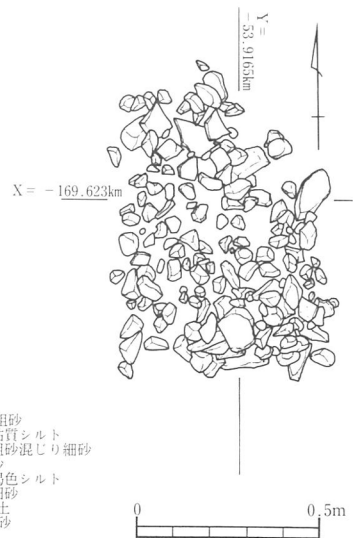
第210図 621-OS 断面図・礫群平面図 (1) (1/20、1/40)

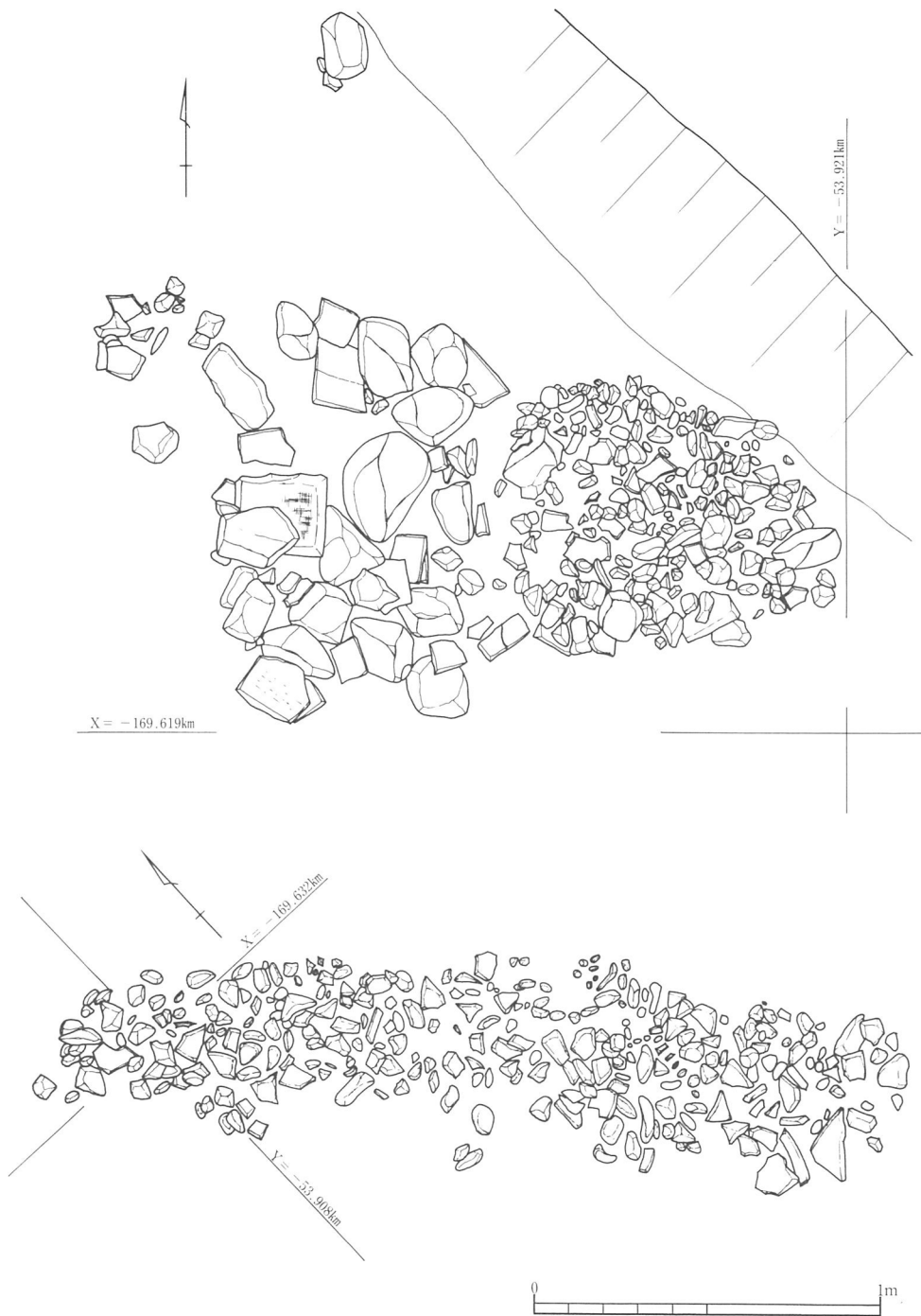
くで終わっている。検出全長1.3m、幅0.15m 前後、深さ0.05m を測る。断面形はU字状を呈する。瓦質甕、土師質小皿、土師質釜、須恵質鉢等の小片が少量出土している。

607-OS (第208図) A 06 HW~IX にかけて位置する小溝である。609・612-OS に切られている。断面形は緩いU字状を呈し、検出全長3.2m、幅0.2m、深さ0.04m を測る。埋土は10YR 4/2 灰黄褐色粘土の1層で、遺物は出土しなかった。

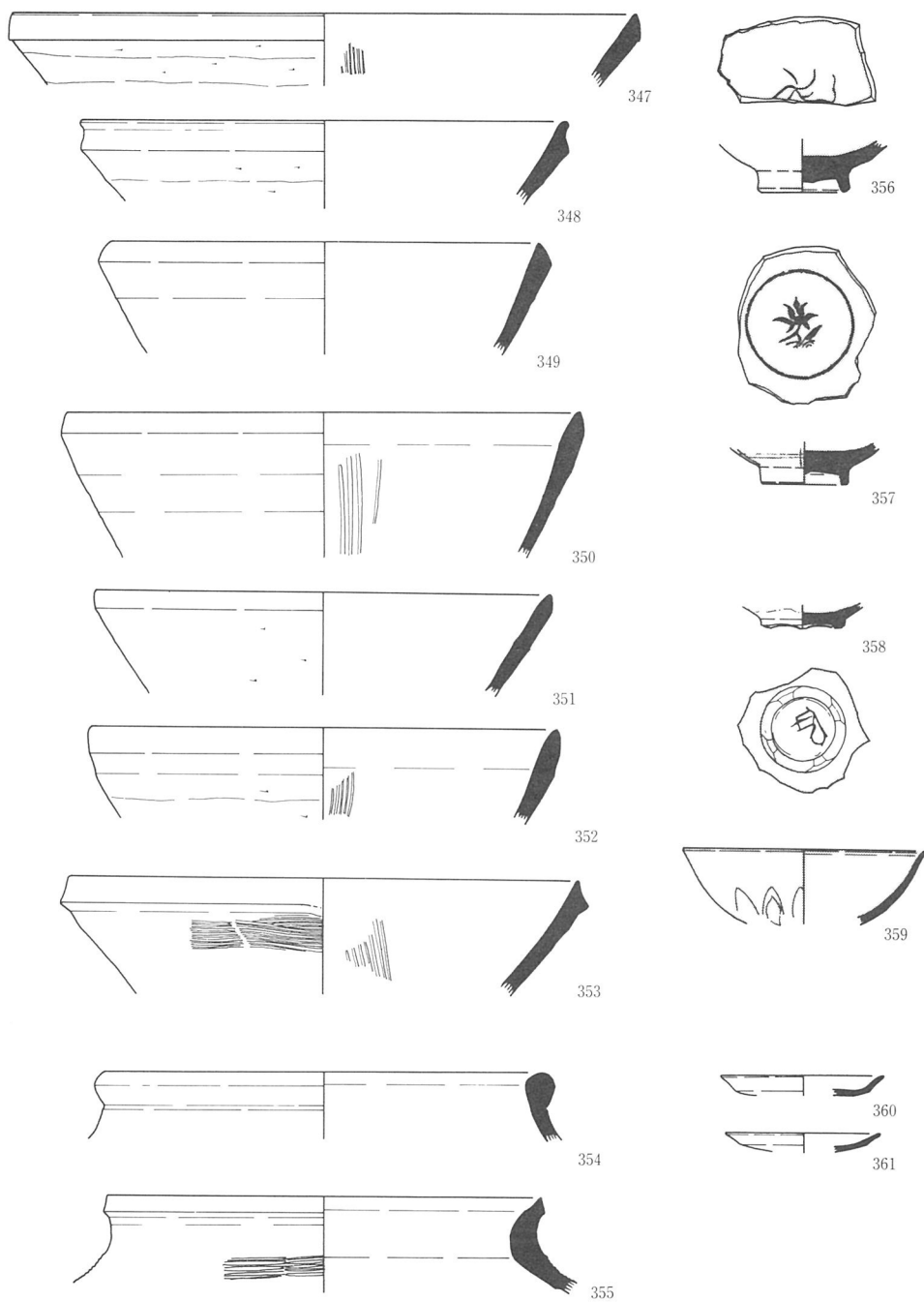
608-OS (第208図) A 06 HX に位置する小溝である。607-OS に切られている。断面形は緩いU字状を呈し、検出全長1.9

m、幅0.2m、深さ0.05m を測る。埋土は2.5Y 5/2 暗灰黄色粘土シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

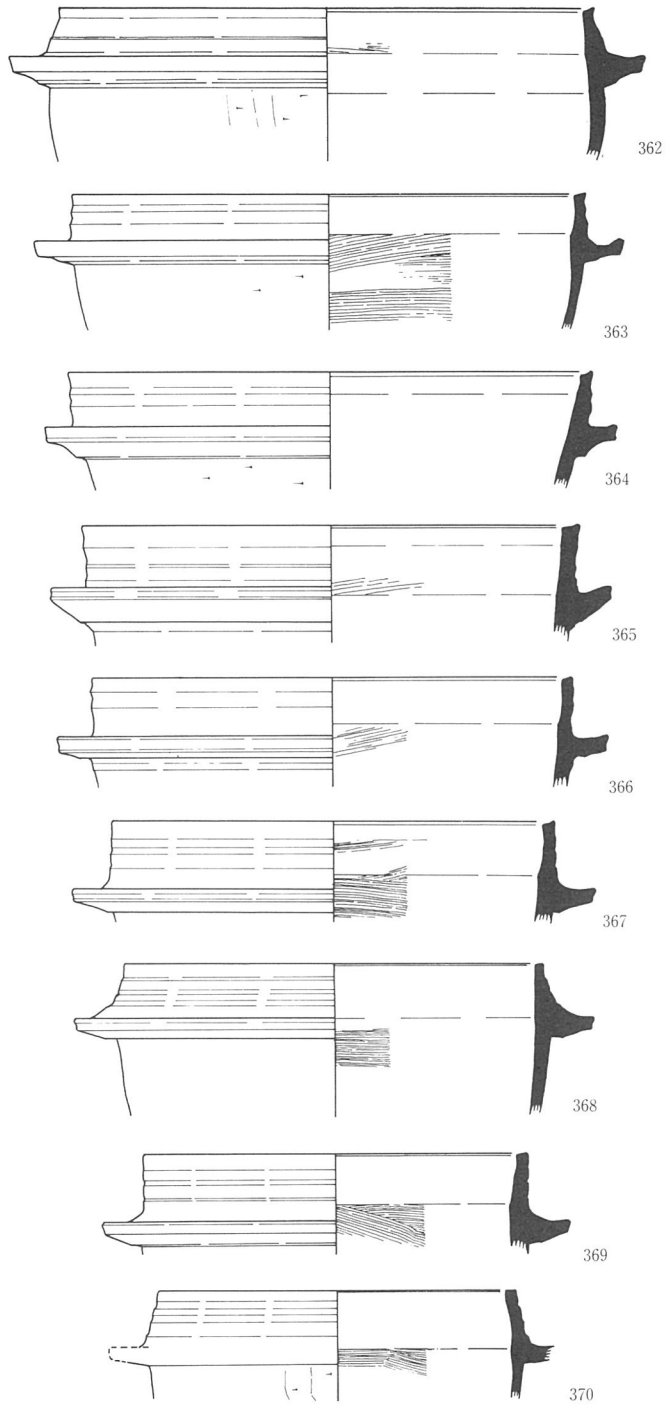




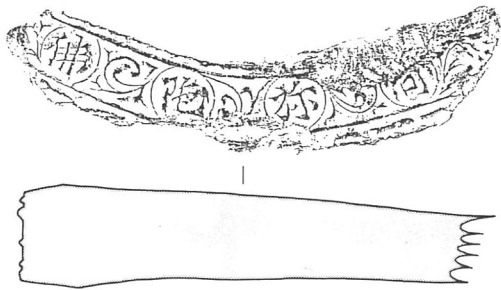
第211图 621-OS 磔群平面图 (2) (1/20)



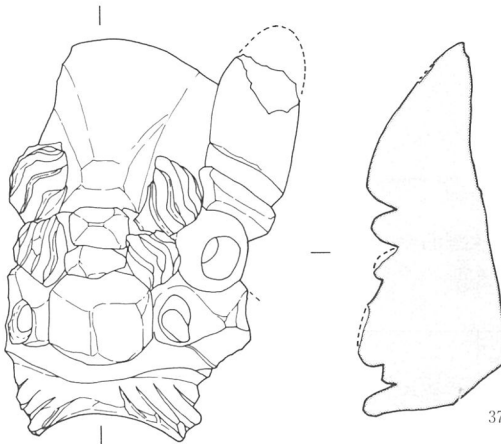
第212图 621-OS 出土遺物実測図 (1) (1/4)



第213図 621-OS 出土遺物実測図 (2) (1/4)



371



372

第214図 621-OS 出土遺物実測図(3)(1/4)

621-OS (第210~214図、図版46・47・65・66) A 06 IX~DR にかけて位置し、調査区にほぼ平行して直線的に走る溝で、676-OX、608-OS、619・628-OO 等に切られている。北西側及び南東側は調査範囲の関係上明らかにできなかったが、822-OW が位置する A 06 BR 区、814-OO が位置する A 06 JY 区においてこの溝の続きと考えられる部分は検出されず、A 06 IX、A 06 CR 区で南西方向に屈曲し、コの字状に巡るのではないかと考えられる。検出全長30.9m。幅が2.1~2.4m、深さ0.3~0.6m を測り、底面は北西側に向かってわずかではあるが低くなる。断面形は緩いU字状を呈するが、中央底面は1段U字状に深くくぼみ、水の流れた痕跡と考えられる。埋土は大きく4層に大別でき、底のくぼみ部分には青灰色や黄褐色を呈する粘土、その直上に厚さ0.02m 程の褐色系のシルト及び粘土が堆積し、最終的に黄褐色及び灰褐色を呈する、シルト、細砂が堆積している。遺物は上層から下層にわたって出土しているが、上層の黄褐色及び灰褐色を呈するシルト、粘土層から多く出土し、第212・213図に示した、口縁部が直立あるいは、やや外反する土師質釜(362~368)、土師質鉢(349~352)、土師質甕(354)、青磁碗(356・357)、白磁碗(358)をはじめ瓦質釜(369・370)、瓦質鉢(347・348)、瓦質甕(354)、平瓦、丸瓦の小片が出土している。中でも瓦類は瓦当文様に連珠文を配する類も有り土師質釜等の土器に比べ時期的に溯るものも混在するが、平瓦片170片、丸瓦片117片と他の遺構に比べ出土量は突出している。またこの溝内には、三箇所礫群が検出されている。A 06 HW に位置する礫群は直径0.03~0.09m の小石を2.5×0.4m の範囲で、溝内中央部に、溝に平行して直線的に配する。検出面は底面より0.23m 上で褐灰色粘土層の上面である。A 06 GU に位置する礫群は直径0.02

～0.08mの小石を0.6×0.8mの範囲で、溝内やや南西側に配する。検出面は底面より0.20m上で褐灰色粘土層の上面である。A 06 FUに位置する礫群は直径0.03～0.18mの小石を0.8×0.7mの範囲で、溝内やや北西肩部寄りに、西側から東側にやや傾斜させて配する。検出面は底面より0.1～0.2m上である。この様に、礫群はいずれも底面より0.1～0.23m程上面に位置し、埋土の状況から考えても溝がある程度埋まった段階で配されたと考えられる。礫群の性格は不明である。この他にもA 06 FUに位置する礫群の西側底面で直径0.2～0.3mの河原石群が0.7×1.1m範囲で検出されているが、検出状況は自然に落ち込んだ状況を呈し、前述の礫群とは性格を異にすると考えられる。この河原石群中からは瓦当文様に「阿弥陀佛」の文字を配する軒平瓦(371)、鬼瓦(372)をはじめ平瓦、平瓦の小片が出土している。最後にこの溝の性格であるが、規模が非常に立派であること、明確にはできなかったがゴの字状に巡る可能性のあること、出土遺物に瓦類の量が多いこと、瓦類の中に「阿弥陀佛」の文字を配する軒平瓦があること等から、この溝は寺院に關係する区画の溝の可能性があるとえよう。

622-OS (第208図) A 01 WM～YNに位置する。北西から南東に至り、南西に折れて調査区域外に及ぶ。検出全長は10.0m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

629-OS (第208図) A 06 EV～FVにかけて位置し、調査区にはほぼ直交して走る小溝で、南西側は調査区外に延びる。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長5.65m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。埋土は7.5YR 5/2灰褐色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。

638-OS (第208図) A 06 DT～EUにかけて位置し、調査区にはほぼ平行して走る小溝である。639-OSに切られている。断面形は緩いU字状を呈するものと考えられる。検出全長3.8m、幅0.23m、深さ0.08mを測る。埋土は7.5YR 4/2灰褐色シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

639-OS (第208・209図) A 06 CS～EUにかけて位置し、調査区にはほぼ平行に走る小溝である。636、637-OSに切られている。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長8.5m、幅0.22m、深さ0.09mを測る。埋土は7.5YR 4/1褐灰色シルトの1層で、遺物は唐津焼皿(346)、平瓦の小片が出土している。

641-OS (付図3) A 06 DTに位置し、調査区にはほぼ平行に走る小溝である。断面形は緩いV字状を呈する。検出全長3.9m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。埋土は7.5YR 5/2灰褐色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。

692-OS (第215・216図、図版67) A 01 KG~A 01 LF に位置する。北東~南西に走り、北東側は576-OO に、南西側は508-OS に、それぞれ切られており、中央部近くでは469-OS によって上部を削平されている。508-OS より南西側では検出されておらず、508-OS 付近で終わっていたものと考えられる。検出全長4.6m、幅0.75~1.2m、深さ0.15~0.25m を測る。断面形はU字状を呈する。埋土は、5 Y 6/2灰オリーブ粘土と、5 Y 5/1灰色粘土の2層である。瓦器椀、土師質小皿 (379)、土師質釜、瓦等の小片が少量出土している。

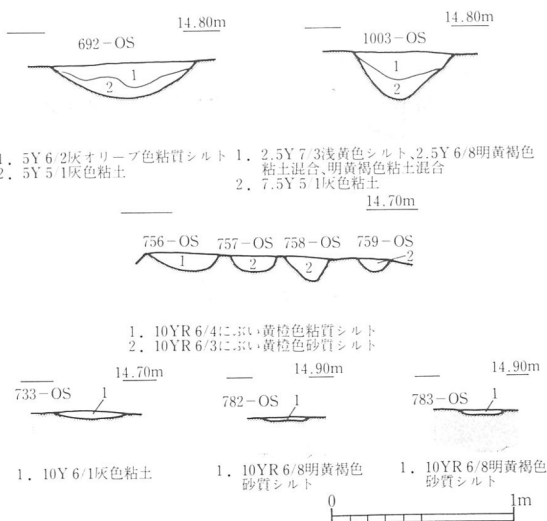
701-OS (第227図) A 01 MC に位置する。整地層上面で検出された。部分的な検出に留まったが、南北方向よりやや東へ振っている。検出全長3.0m、幅1.0m、深さ0.15m を測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色粘土の1層で、瓦質釜、平瓦の破片が出土した。

733-OS (第215図) A 01 NG・OG に位置する。北~南西に走り検出全長3.1m。南西端は423-OX に切られている。幅0.4~0.6m、深さ0.05m を測る。埋土は、10Y 6/1灰色極細砂混じりの10Y 6/1灰色粘土1層である。遺物は出土しなかった。

756-OS (第215図) D 05 JY に位置する小溝で、南側の一部を848-OO に切られている。断面形は浅いU字状を呈する。検出全長2.9m、幅0.2~0.4m、深さ0.1m を測る。埋土は10YR 6/4にぶい黄橙色粘質シルトの1層である。遺物は土師質釜、瓦器椀、土師質小皿等の小片が出土している。

757-OS (第215図) D 05 JY に位置する小溝で、西側を843-OO、北側一部を758-OS

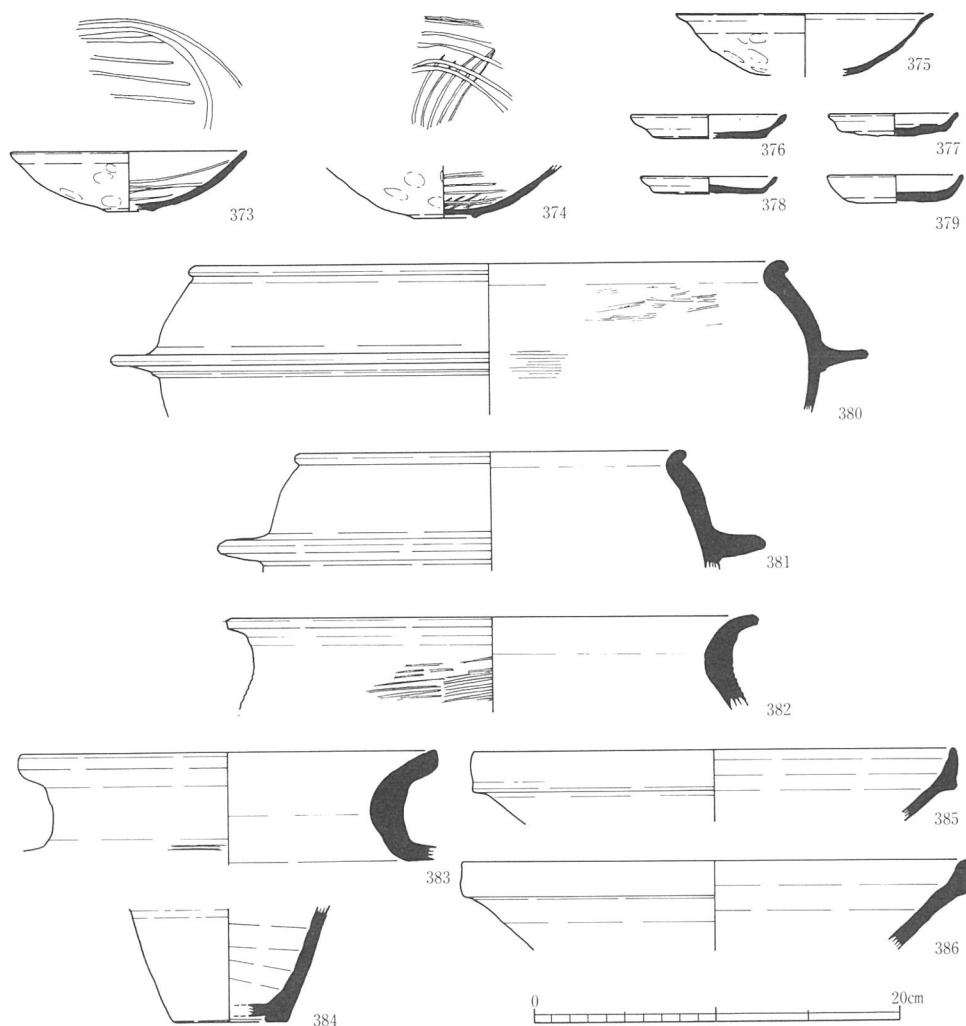
に切られている。断面形はU字状を呈する。検出全長3.2m、幅0.2~0.4m、深さ0.1m を測る。埋土は10YR 6/3にぶい黄橙色砂質シルトの1層である。遺物は瓦器椀、土師質小皿等の小片が出土している。



第215図 692・733・756~759・782・783

・1003-OS 断面図 (1/40)

758-OS (第215図) D 05 JY~JX にかけて位置する小溝で、759-OS、843-OO、830-OW に切られている。断面形は浅いV字状を呈する。検出全長6.6m、幅0.2~0.3m、深さ0.14m を測る。埋土は10YR 6/3にぶい黄橙色砂質シルトの1層である。



第216図 692・1003-OS 出土遺物実測図 (1/4)

遺物は土師質釜、瓦器椀、須恵質甕の小片が出土している。

759-OS (第215図) D 05 JX~JY にかけて位置する小溝で、一部830-OW に切られている。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長5.6m、幅0.25~0.3m、深さ0.35mを測る。埋土は10YR 6/3にぶい黄橙色砂質シルトの1層である。遺物は土師質釜、瓦質釜、瓦器椀の小片が出土している。

782-OS (第215図) D 05 DW~FW に位置する。北東~南西に走り、北東部はDW 区で広がりつつ消失し、南西端は505-OO に切られている。検出全長9.3m、幅0.1~0.4mを測り、深さは0.05m 未満である。断面形は逆台形を呈する。埋土は、10YR 6/8明黄褐色砂

質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

783-OS (第215図) D 05 EX・FX に位置する。ほぼ南北に走るが北側で北東方向に屈曲している。検出全長7.9m、幅0.15～0.35mを測り、深さは0.05m未満である。埋土は、10YR 6/8明黄褐色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

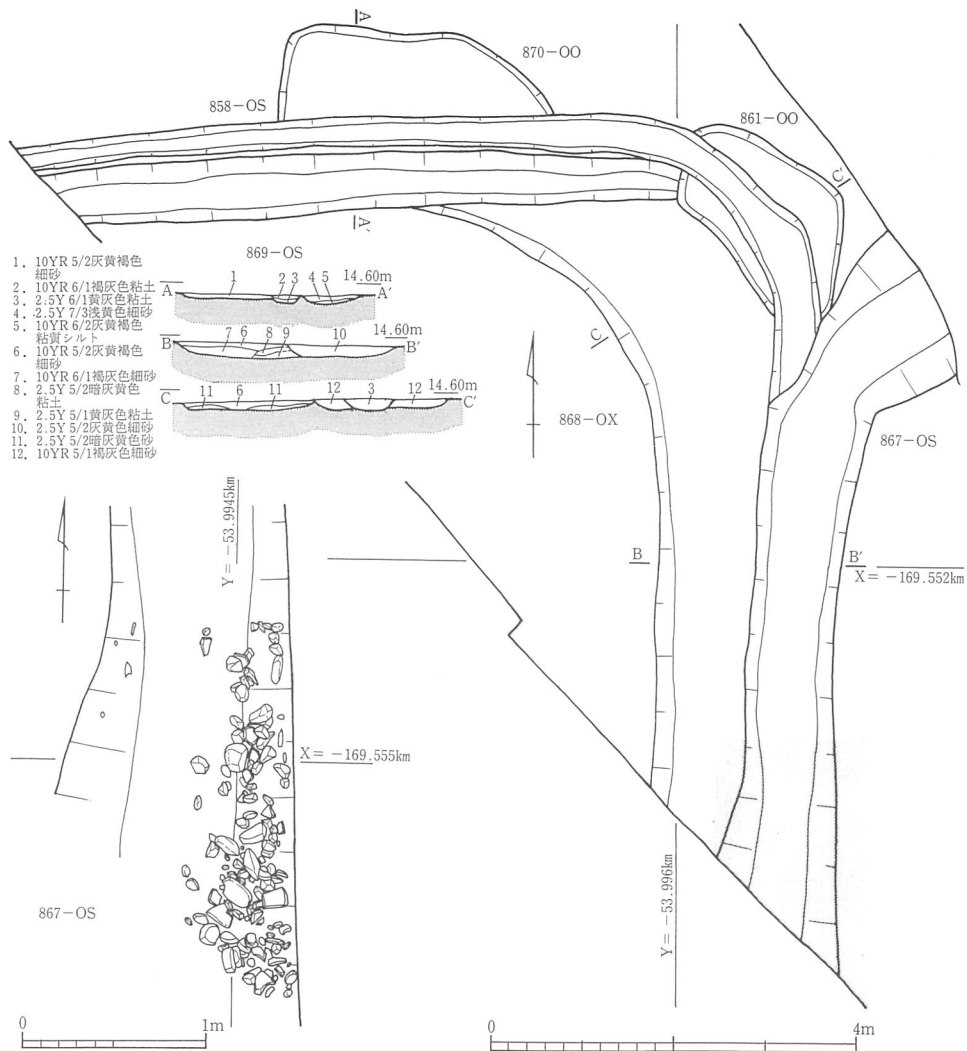
812-OS (第169・170図、図版44) A 01 UL～WM に位置する。北東から南西に向けて3.0m延び、南東へ直角に折れて5.5mの地点で途切れる。北東端は調査区内を走る用水溝の下に及んでいるが、それより北東では検出されなかった。検出全長8.5m、幅0.6～2.0m、深さ0.25mを測る。埋土は10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルトの1層で、土師質釜(287・288)をはじめ、瓦質釜、土師質甕、備前鉢、染付等の小片が出土している。

839-OS (第143・144図) A 01 PC～PE にかけて位置する東西溝で、西側及び東側はさらに調査区外に延びる。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長11.1m、幅約0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は2.5Y 7/1灰白色細砂、2.5Y 7/2灰黄色細砂の2層で、溝底には直径0.05～0.15mの河原石が一行に敷かれた状態で検出されている。土師質釜、土師質鉢(224・225)、土師質甕(226)、伊万里焼碗の他、瓦質釜、平瓦、丸瓦等の小片が出土している。

858-OS (第217・218図、図版45) D 05 LY～A 01 LB・MB にかけて位置する小溝である。D 05 LY から A 01 LA にかけては東西に走り、A 01 LB 付近で南に屈曲する。西側は調査区外に延び、南側は868-OS に切られている。検出全長9.2m、幅0.2～0.3m、深さ0.1mを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は10YR 6/1褐灰色粘土、2.5Y 6/1黄灰色粘土の2層である。遺物は、瓦器碗(387)、瓦質釜等の小片が出土しているがこの土器は整地層(VI層)の混入の可能性もある。

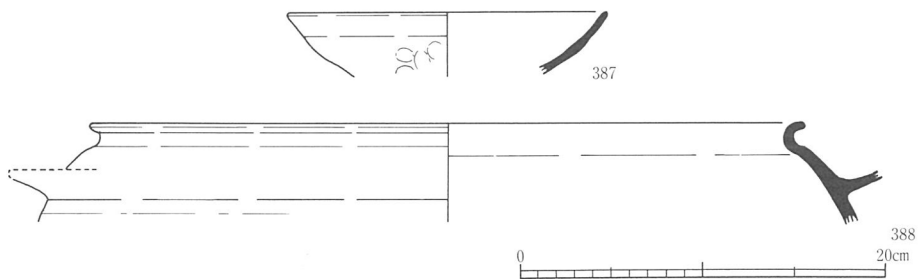
866-OS (第222・224図、図版67・76～79) A 01 MB～OB にかけて位置する南北溝で、852・864-OO に切られている。断面形は西側がやや深く、非常に緩いU字状を呈する。検出全長6.2m、幅0.85～1.75m、深さ0.15mを測る。埋土は、10YR 5/4にぶい黄褐色シルト、10YR 5/3にぶい黄褐色粘質シルト、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、2.5Y 5/2暗灰黄色細砂の4層である。瓦質釜(445～449)、瓦質鉢(443)、青磁碗(442)、白磁碗(441)、常滑焼甕(444)等が出土している。

867-OS (第217・219・220図、図版45・67・76・77) A 01 MB～LB にかけて位置する南北溝で、866-OS とほぼ平行して走り、西側はさらに調査区外に延びる。断面形は非常に緩いU字状を呈する。検出全長6.8m、幅1.0m、深さ0.1mを測る。埋土は2.5Y 5/2灰

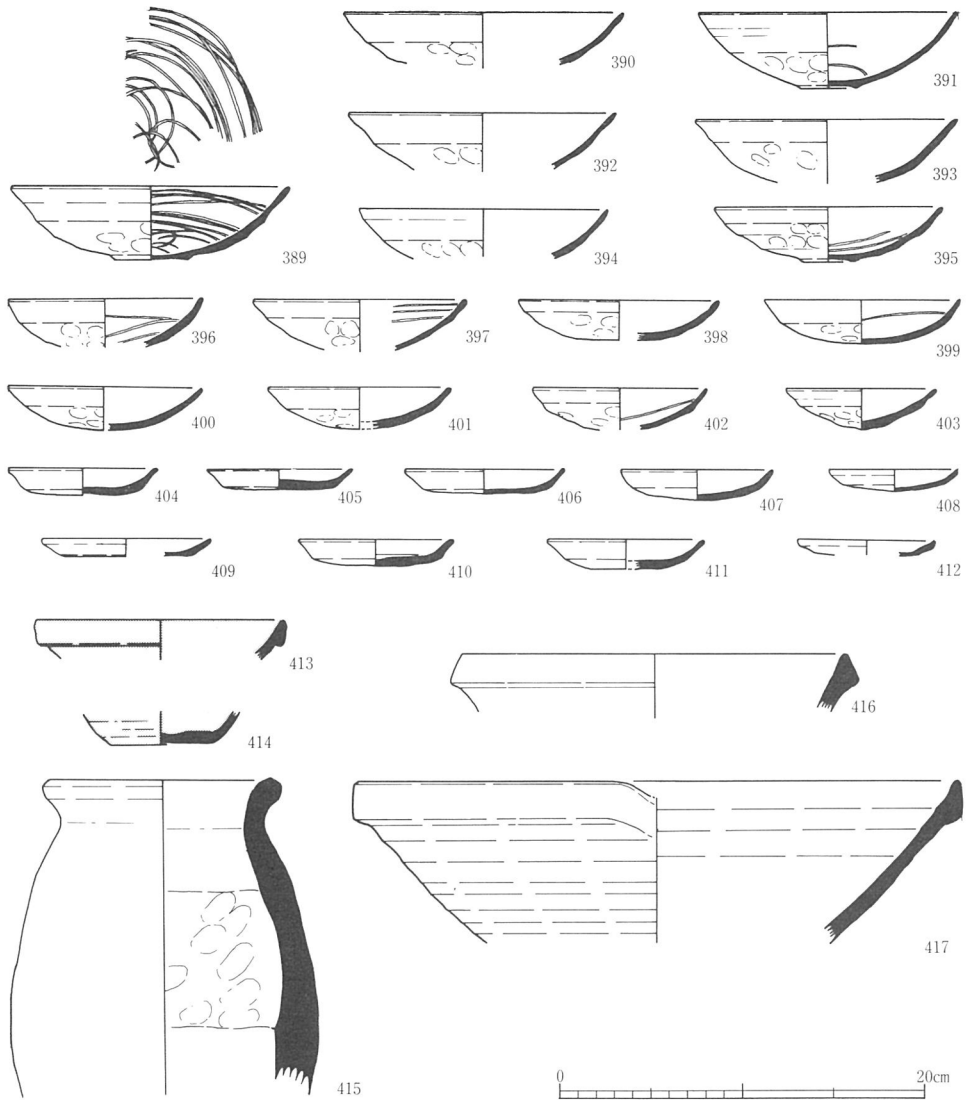


第217図 858・867・869-OS、861・870-OO、868-OX

平面図・断面図 (1/40、1/80)



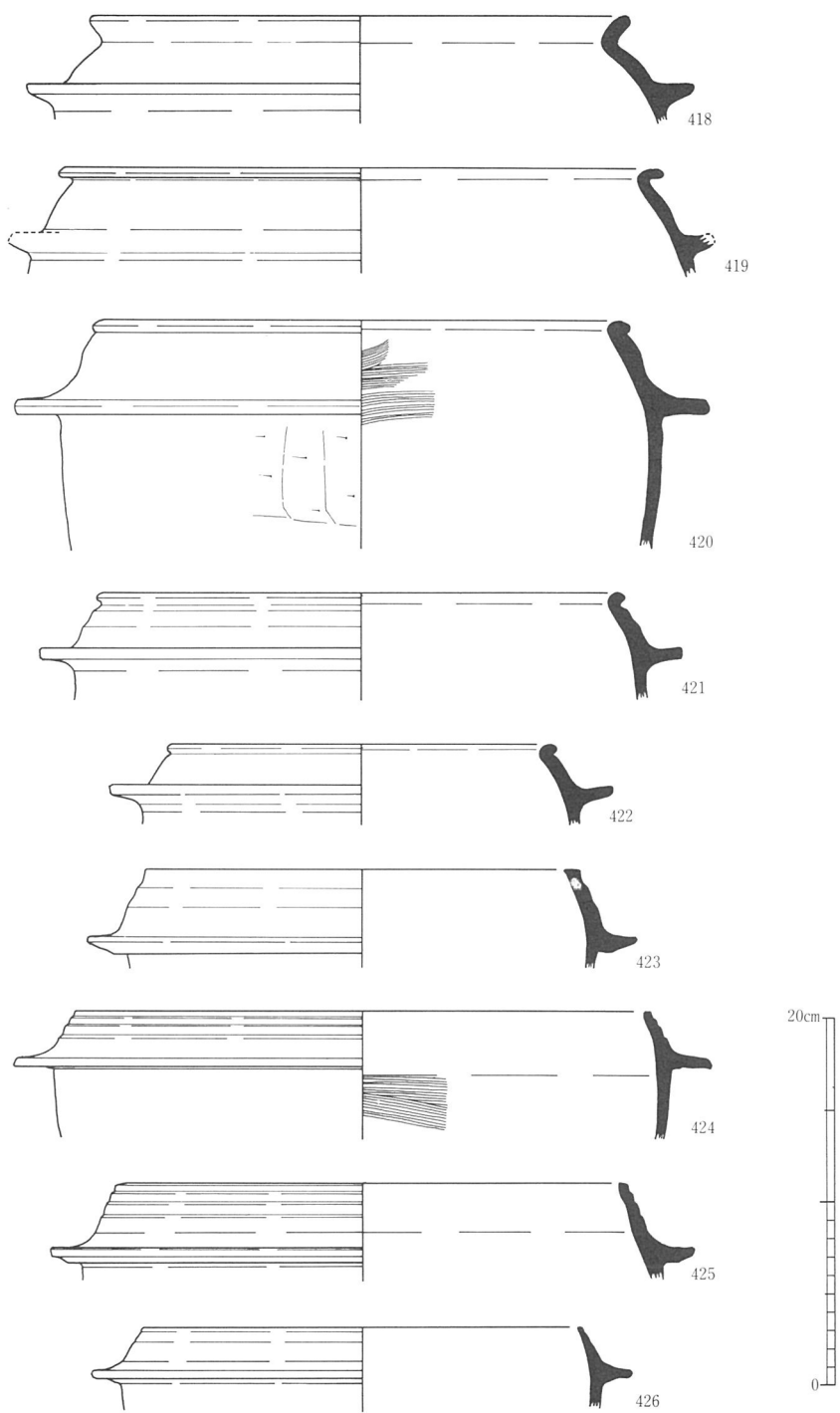
第218図 858・869-OS 出土遺物実測図 (1/4)



第219図 867-OS 出土遺物実測図(1)(1/4)

黄色細砂の1層である。遺物は第219・220図に示した物が出土しているが、この出土遺物には時期差が認められ、瓦質釜(423~426)、瓦器椀(399~403)、土師質蛤壺(415)等が、当遺構の廃絶時期を示すものと考えられる。またA 01 OB 東側肩部では直径0.05~0.1m前後の河原石を敷いた状況で検出されている。

869-OS (第217・218図、図版45) D 05 LY~A 01 LA にかけて位置する、東西溝である。西側は調査区外に延び、東側は858-OS、861-OO に切られている。断面形は緩いU字状を呈する。検出全長6.3m、幅0.54m、深さ0.09mを測る。埋土は2.5Y 7/3浅黄色細



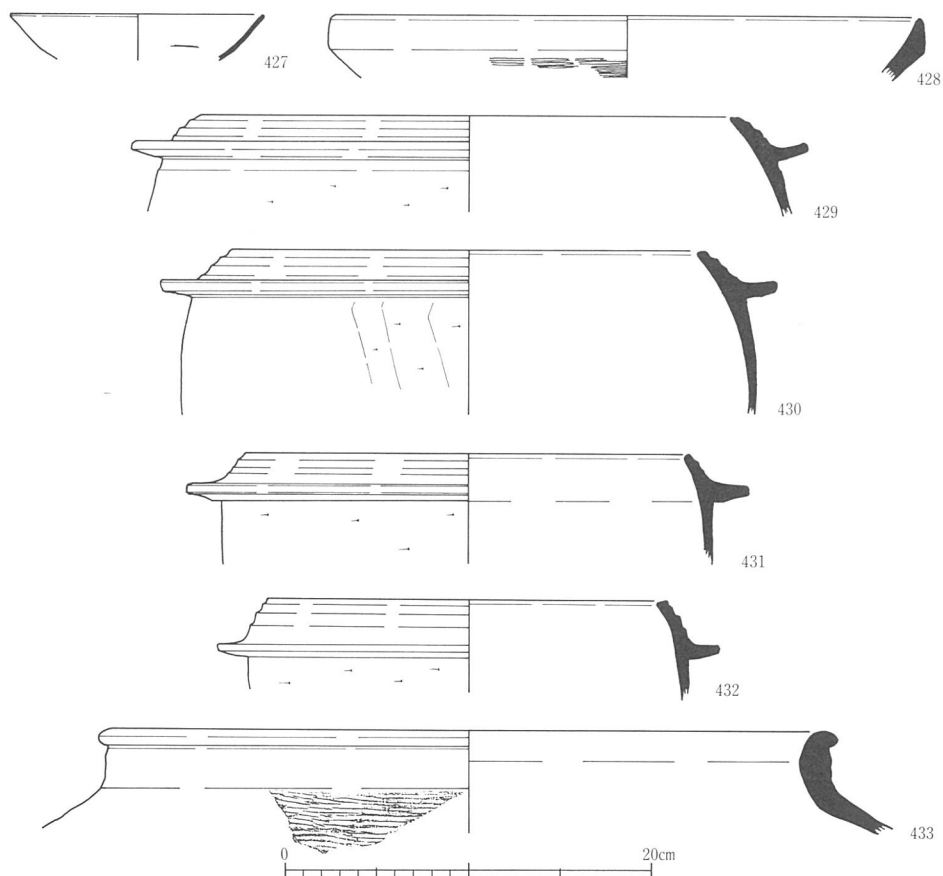
第220図 867-OS 出土遺物実測図(2)(1/4)

砂、10YR 6/2灰黄褐色粘質シルトの2層である。遺物は土師質釜(388)、瓦器椀等の小片が出土しているが、この土器は整地層の遺物の可能性がある。

876-OS (第222図) A 01 QF~SH に位置し、北西~南東に走る。検出全長13.3m、幅0.3~0.65m、深さ0.05mを測る。断面形は逆台形を呈する。埋土は、N 6/1灰色細砂1層である。瓦質釜、瓦質甕、土師質釜、土師質甕、備前焼、瓦等の小片が出土している。

877-OS (第222・223図) A 01 QG~RH に位置し、876-OS とほぼ平行に走る。検出全長7.1m、幅0.3~0.5m、深さ0.05~0.1mを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は、7.5 Y 6/2灰オリブ粘土1層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質鉢、瓦質甕(440)、須恵質甕、土師質土器、瓦等の小片が出土している。

878-OS (第222図) A 01 PD~SG に位置する。PD~RG にかけて北西~南東に走り、RG で直角に屈曲し、北東~南西に走る。両端部は調査区外に延びている。検出全長



第221図 868-OS 出土遺物実測図 (1/4)

16m、幅0.15～0.3m、深さ0.05mを測る。断面形は逆台形を呈する。埋土は、10G 6/1緑灰色砂質シルト1層である。土師質小皿、土師質土器の小・細片が少量出土している。

879-OS (第222図) A 01 QF～RGに位置する。876・877-OS同様に、北西～南東に走るが、RGでやや屈曲し、876-OSに切られている。検出全長9.2m、幅0.15～0.3m以上、深さ0.1m前後を測る。幅は南東側で広がっている。断面形はU字状を呈する。埋土は、N 5/1灰色シルトと、5BG 6/1青灰色シルトの2層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質鉢、土師質釜、土師質鉢、備前焼鉢、瓦等の小片が出土している。

885-OS (第116図) D 05 HWに位置する。西側は後世の攪乱によって検出し得なかった。断面形はU字状を呈する。検出全長1.4m、幅0.73m、深さ0.24mを測る。埋土は、2.5 Y 6/3にぶい黄色細砂、10YR 4/3にぶい黄褐色細砂の2層である。遺物は出土しなかった。

887-OS (第222・223図、図版67) A 01 QF～SHに位置する。北西～南東に877-OSとほぼ平行に走る。検出全長12.4m、幅0.6～0.95m、深さ0.1m前後を測る。埋土は、10YR 5/6黄褐色粘質シルト1層である。瓦器椀(434)、瓦質釜、瓦質甕、土師質小皿、土師質釜、土師質甕、土師質鉢、瓦等の小片が出土している。

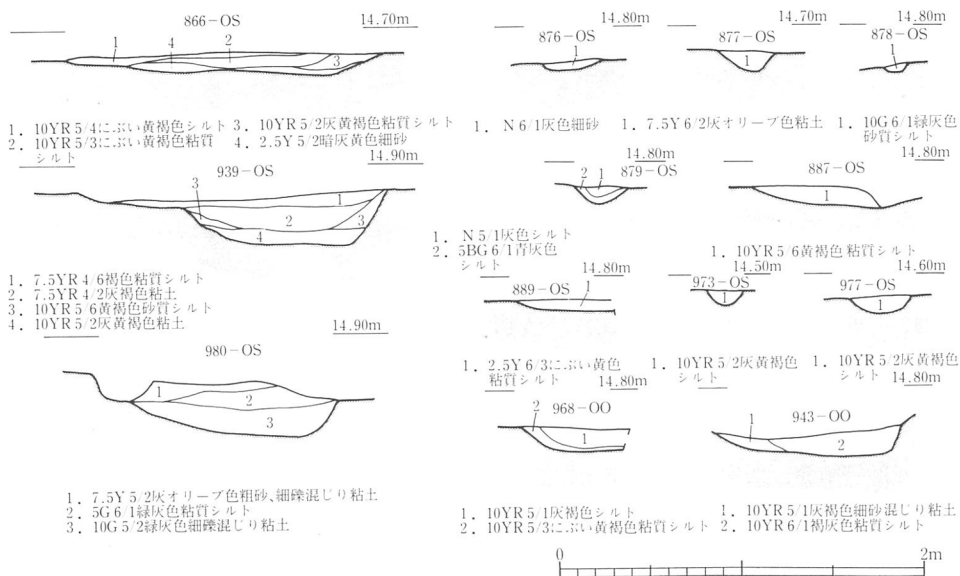
889-OS (第222・223図、図版76・77) A 01 RF・RGに位置する。北東側が879-OSに切られており、本来の幅は明らかでない。北西～南東に走り、検出全長5.0m、幅0.7m以上、深さ0.05mを測る。断面形は逆台形を呈する。瓦器椀、瓦質釜、瓦質甕、土師質釜、土師質甕、土師質鉢、白磁小皿(437)等の小片と鉄釘1が出土している。

891-OS (第193～195図) A 01 QE・QFに位置する。北側に水路が存在するため北壁は確認できていない。土坑状の遺構であった可能性もあるが、ここでは、溝として報告しておく。検出全長4.0m、幅1.0m以上、深さ0.05mを測る。埋土は、10YR 4/1褐灰色粘土と、2.5Y 5/4黄褐色シルトの2層である。拳大の多量の礫とともに、瓦器椀、瓦質釜(315)、瓦質甕、瓦質鉢、土師質釜(314・316・317)、青磁碗、陶器等の破片が出土している。

904-OS (第203図) D 05 DQ～ERに位置する。EQ区中央部を交点として北西、北東、南西の三方向に延びる。北東側はER区に到って終わっているが、北西側は1011-ORに切れ、南西側は調査区外に延びている。検出全長7.7m、幅0.2～0.35m、深さ0.1m前後を測る。断面形はU字状を呈する。埋土は、10YR 5/2灰黄褐色砂質シルト1層である。土師質小皿、土師質甕の小・細片が少量出土している。

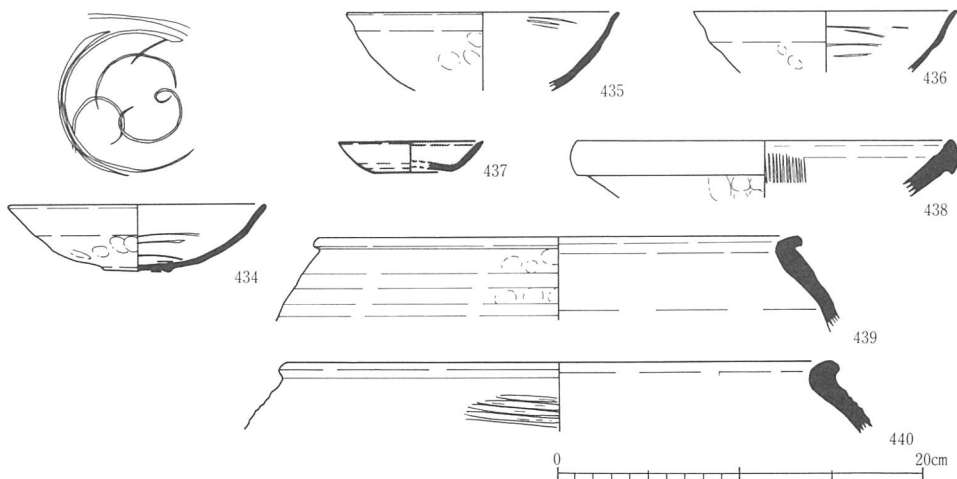
905-OS (第203図) D 05 EQ に位置し、やや湾曲しながら北東～南西に走る。南西側は調査区外に延びている。検出全長1.65m、幅0.35～0.4m、深さ0.05mを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は、10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルト1層である。瓦器椀、土師質小皿の小片が少量出土している。

939-OS (第222図) A 01 RE～SH に位置する。北西～南東に走り、多くの土坑及び



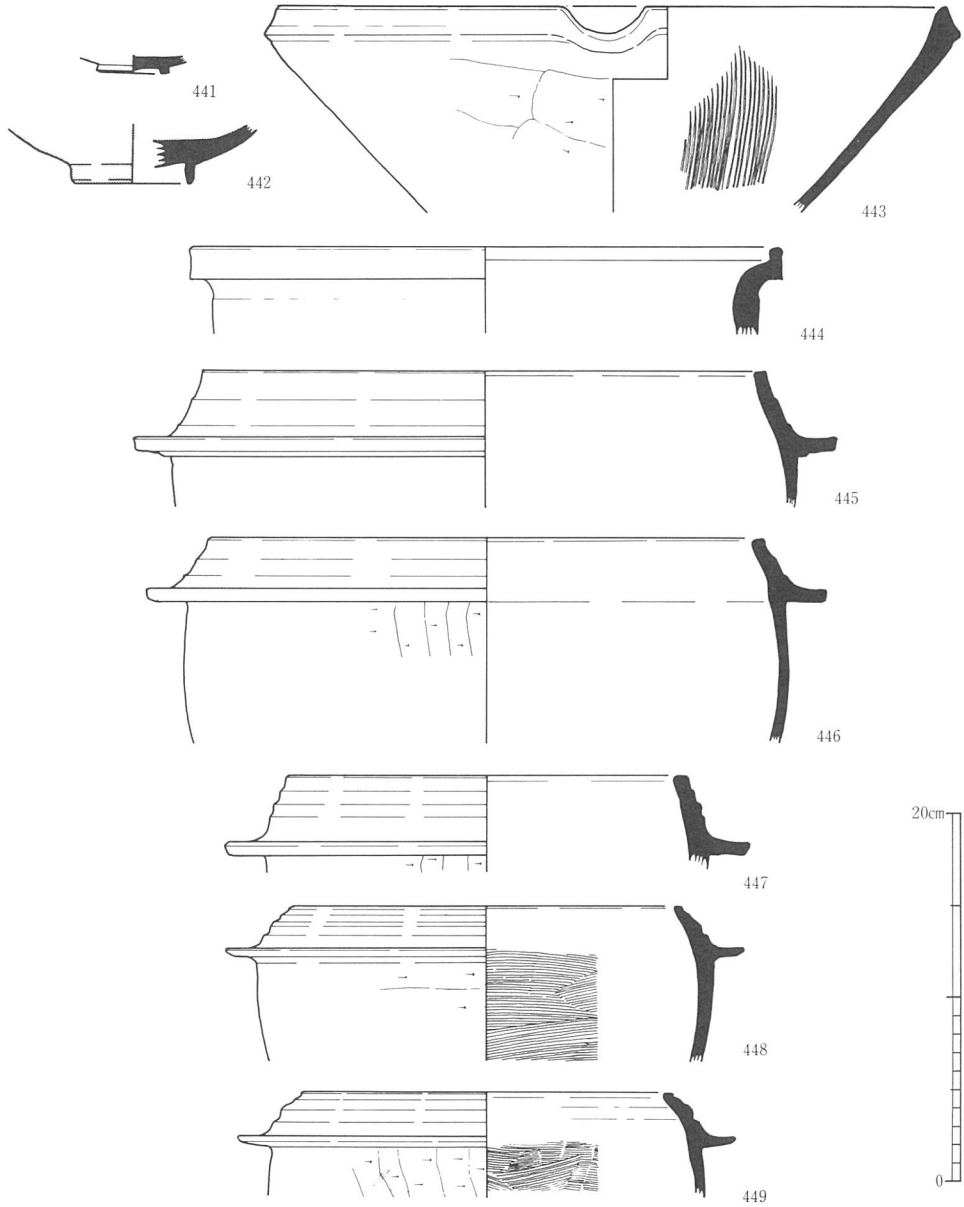
第222図 866・876～879・887・889・939・973・977

・980-OS、943・968-OO 断面図 (1/40)



第223図 877・887・889・973・980-OS 出土遺物実測図 (1/4)

溝に切られているが、南東側は調査区外に延び、北西側は RE で終わっている。断面形は逆台形を呈する。埋土は、7.5YR 4/6褐色粘質シルト、7.5YR 4/2灰褐色粘土、10YR 5/6黄褐色砂質シルト、10YR 5/2灰黄褐色粘土の 4 層である。瓦器椀、瓦器小皿、瓦質釜、土師質小皿、土師質釜等の小片が出土している。



第224図 866-OS 出土遺物実測図 (1/4)

973-OS (第222・223図) A 01 NA～MA にかけて位置する。南北溝である。南側は調査区外に延び、一部を945-OW に切られている。断面形はU字状を呈する。検出全長5.6m、幅0.19m、深さ0.09mを測る。埋土は、10YR 5/2灰黄褐色シルトの1層で、瓦器椀(435・436)、土師質釜、土師質土器の小片が出土している。

977-OS (第222図) A 01 NA に位置する小溝である。西側は調査区外に延び、東側は973-OS に切られている。断面形はU字状を呈し、検出全長0.6m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色シルトの1層である。遺物は出土しなかった。

980-OS (第222・223図) A 01 QF～RH に位置し、877・887-OS とほぼ平行して走る。両側壁の上部を877・887-OS に削平されており、2箇所のサブトレンチで確認したにすぎない。幅1.1m、深さ0.3mを測り、断面形は幅広のU字状を呈する。埋土は、多量の粗砂、細礫混じりの7.5Y 5/2灰オリーブ粘土、5 G 6/1緑灰色粘質シルト、細礫混じりの10 G 5/1緑灰色粘土の3層である。瓦器椀、瓦質鉢(438)、瓦質甕、土師質釜(439)、須恵質甕等の小片が少量出土している。

1003-OS (第215・216図) A 01 ME～MH に位置する。MH・LH でやや湾曲しながら南東～北西に走ったのち、屈曲して北東～南西に走る。途中で469・508-OS、602-OO に切られ、ME区では、北西側を599-OX に切られている。なお、470・770-OOの一部を切っている。検出全長14.9m、幅0.5～0.9m、深さ0.15～0.25mを測る。断面形はV字状に近い。埋土は2.5Y 7/3浅黄色シルトと2.5Y 6/8明黄褐色粘土の混合層と、7.5Y 5/1灰色粘土の2層である。埋土中から総数608点の土器片が出土しているが、小・細片が大半を占め完形品は存在しなかった。内訳は以下の通りである。瓦器椀253片、瓦質釜7片、瓦質鉢5片、瓦質甕6片、瓦器小皿1片、土師質小皿37片、土師質釜236片、紀伊産土師質釜4片、須恵質鉢8片、須恵質甕9片、陶器4片、瓦6片、その他不明32片。

第5項 ピット

今回の調査で検出されたピットは、前述の掘立柱建物址・柵列址を構成しているものも含め総数458個を数える。個別ピットの詳細は巻末の計測表に譲ることとし、ここでは、特に注意される点について述べておきたい。なお、本節では鎌倉～江戸時代に属する遺構を報告しているが、ピットについては編集の都合上、より古い時期のものもここで報告する。さらに、ピットには遺物を出土していないものや、出土していても細片のために時期の比定が困難なものが少なくないが、層位関係から弥生時代後期～古墳時代前期に属すること

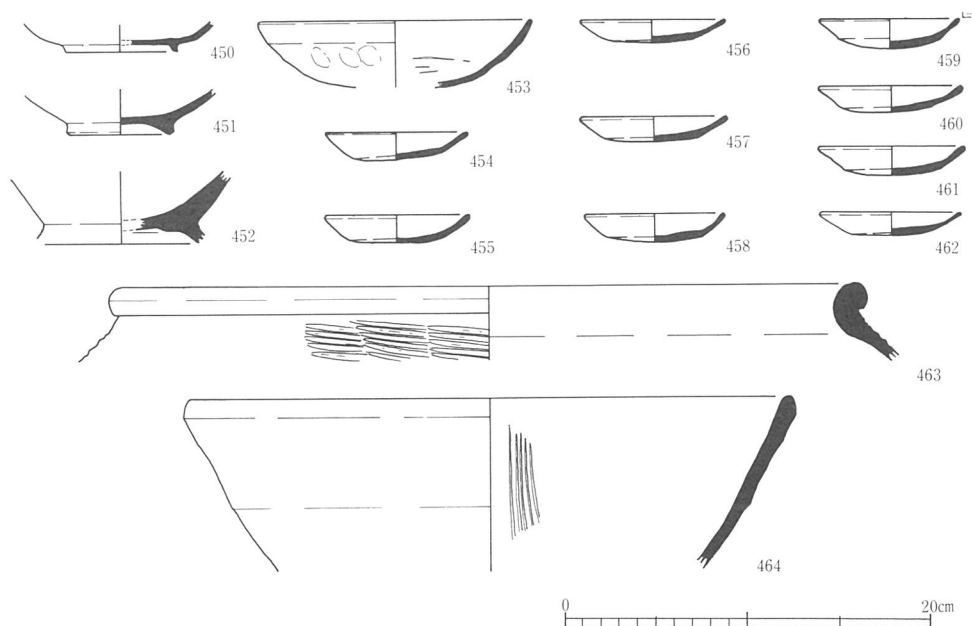
の明らかなもの以外は、埋土や遺跡全体の状況から鎌倉～江戸時代という大枠の中にほぼ収まるものと考えている。この点については、前項までに報告した土坑・溝についても同様である。

A 07 PK～QL 区付近の第X層上面で検出された12個のピットは、遺物を出土したものは存在しないが、層位関係からすべて弥生時代後期～古墳時代前期に属することの明らかなものである。当該時期のピットは他の地区では検出されておらず、前項の土坑の分布域と一致している。

鎌倉～江戸時代に属すると考えられるピットのなかでは、土師質小皿（454～462、図版68）を9枚一括出土した851-OPが注意され、920・922-OPについては出土遺物から平安時代に遡る可能性も考えられる。

掘立柱建物址や柵列址の一部を成すものを除き、検出されたピットの4割に近い162個のピットで柱痕が確認され、232・295・374-OPでは柱根が遺存していた。また、343・347・524・794・797・800・926・928・937-OPでは根石の一部と考えられる拳大～人頭の河原石や平瓦片が検出されている。

これらの例から、調査区内には第1項で報告した以外にも、掘立柱建物址等の存在していた可能性が強いが、ピット群の形態からはそれらを確認することはできなかった。



第225図 ピット出土遺物実測図 (1/4)

第6項 池

487-OL (第226～242図、図版48～50・68～79) X = -169.528km～X = -169.552km
にかけて位置し、6基の池が小溝でつながれ大規模な池群を形成している。

487-OL (a) は D 05 IW・JW～HY・IY にかけて位置する。平面形は不整形な楕円形を呈する。長径12.1m、短径2.65～3.6m、深さ0.5mを測る。埋土は大きく3層に分けられ、最下層に10YR 6/1褐灰色粘土、その上層には10YR 6/2灰黄褐色粘質シルト、10YR 5/6黄褐色砂質シルトがほぼ水平に堆積し、最上層には10YR 5/4にぶい黄褐色粘質シルトが0.2～0.3m厚で堆積している。遺物は第228・229図に示した瓦器椀(465～476)、瓦器小椀(477)、瓦器小皿(478～480)、土師質小皿(481～484)、土師質釜(486～490)、須恵質鉢(493)、瓦質鉢(494)、陶器鉢(495)、青磁碗(485)等が出土している。

487-OL (b) は A 01 HA・HB に位置する。平面形は不整形な長方形を呈する。長軸3.5m、短軸0.9～1.8m、深さ0.15mを測る。埋土は下層より2.5Y 7/3浅黄色砂質シルト、2.5Y 5/2暗灰黄色粘土、2.5Y 6/2灰黄色砂質シルトの3層である。遺物は瓦器椀、土師質釜、土師質小皿等が出土している。

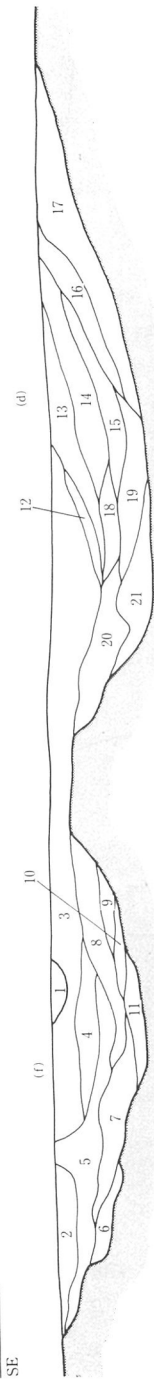
487-OL (c) は A 01 HB に位置する。平面形は不整形な楕円形を呈すると考えられ、北東側は調査区外に延びる。長径4.6m以上、短径2.3m、深さ0.45mを測る。埋土は大きく4層に分けられ、最下層には10YR 5/1褐灰色粘土が堆積し、それより上層は10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルト、7.5YR 4/4褐色粘質シルト、10YR 5/4にぶい黄褐色砂質シルトがほぼ水平に堆積している。また最上層の10YR 5/4にぶい黄褐色砂質シルトは、後述の**d**と同一堆積である。遺物は瓦器椀、土師質釜、須恵質鉢、須恵質甕をはじめ、瓦器小皿、土師質小皿等が出土している。

487-OL (d) は A 01 JA・KA～HC・ID にかけて位置する。平面形は不整形な長方形を呈し、北東側は調査区外に延びる。長軸12.2m、短軸4.4～9.5m、深さ0.5～0.9mを測り、A 01 JA 付近が最も深い。埋土は北東部分と南東部分で異なる。北東部分は大きく4層に分けられ、最下層は2.5Y 5/2暗灰黄色粘土が堆積し、それより上層は5 Y 7/1灰白色砂質シルト、10YR 4/6褐色粘質シルト、10YR 5/4にぶい黄褐色砂質シルトがほぼ水平に堆積している。南東側は、最下層より2.5Y 6/1黄灰色粘土、10YR 6/1褐灰色粘土、2.5Y 6/2灰黄色粗砂等がレンズ状に堆積し、最上層には10YR 5/4にぶい黄褐色砂質シルトがほぼ水平に堆積している。また最上層は、**c**および**f**のそれと同一堆積である。遺物は第230～233



第226図 487-OL 平面図 (1/200)

14.80m NW



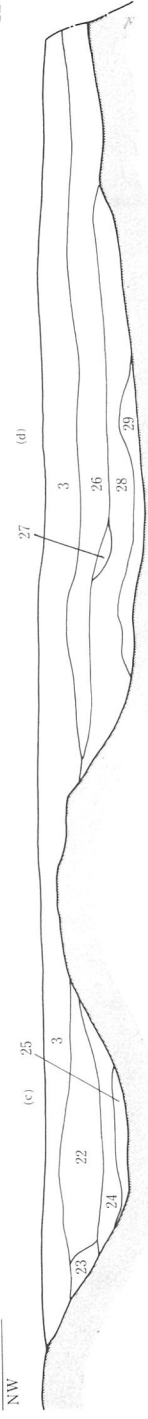
- 1. 2.5Y6/2灰黄色粘土
- 2. 2.5Y6/2に多い黄褐色砂質シルト
- 3. 10YR5/4に多い黄褐色砂質シルト
- 4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト
- 5. 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
- 6. 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト
- 7. 10YR6/1暗灰色粘質シルト
- 8. 2.5Y5/1黄灰色細砂
- 9. 10YR6/4に多い黄褐色粘土
- 10. 10YR5/1暗灰色粗砂
- 11. 10YR5/1暗灰色粘土
- 12. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
- 13. 10YR6/1暗灰色砂質シルト
- 14. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 15. 10YR6/1暗灰色粘土
- 16. 10YR4/4褐色粘質シルト
- 17. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト
- 18. 10YR5/6黄褐色粘質シルト
- 19. 10YR6/2灰黄色粘質シルト
- 20. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 21. 2.5Y6/1暗灰色粘土

- 12. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
- 13. 10YR6/1暗灰色砂質シルト
- 14. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 15. 10YR6/1暗灰色粘土
- 16. 10YR4/4褐色粘質シルト

- 7. 10YR6/1暗灰色粘質シルト
- 8. 2.5Y5/1黄灰色細砂
- 9. 10YR6/4に多い黄褐色粘土
- 10. 10YR5/1暗灰色粗砂
- 11. 10YR5/1暗灰色粘土

- 1. 2.5Y6/2灰黄色粘土
- 2. 2.5Y6/2に多い黄褐色砂質シルト
- 3. 10YR5/4に多い黄褐色砂質シルト
- 4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト
- 5. 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
- 6. 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト

14.80m SE



- 22. 7.5YR4/4褐色粘質シルト
- 23. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 24. 10YR5/3に多い黄褐色砂質シルト
- 25. 10YR5/1褐色粘質シルト
- 26. 10YR4/6褐色粘質シルト
- 27. 10YR4/3に多い黄褐色粘質シルト
- 28. 5 Y7/1灰白色砂質シルト
- 29. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土
- 30. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト
- 31. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 32. 10YR6/2灰黄色粘質シルト
- 33. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
- 34. 10YR6/1暗灰色粘質シルト
- 35. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 36. 5 Y7/1暗灰色粘質シルト
- 37. 2.5Y7/3黄褐色砂質シルト

- 30. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト
- 31. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 32. 10YR6/2灰黄色粘質シルト
- 33. 10YR5/6黄褐色砂質シルト

- 26. 10YR4/6褐色粘質シルト
- 27. 10YR4/3に多い黄褐色粘質シルト
- 28. 5 Y7/1灰白色砂質シルト
- 29. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土

- 22. 7.5YR4/4褐色粘質シルト
- 23. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
- 24. 10YR5/3に多い黄褐色砂質シルト
- 25. 10YR5/1褐色粘質シルト

14.80m SE

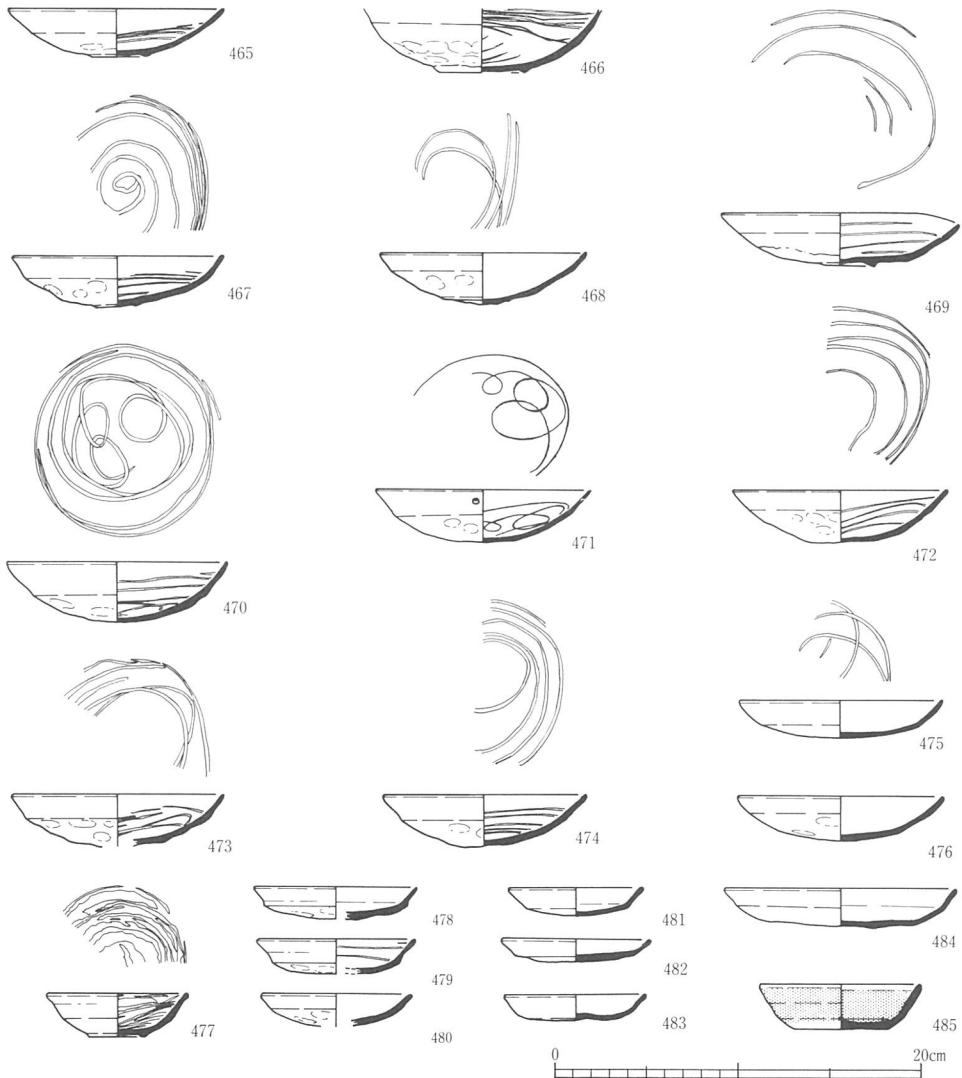


0 2m

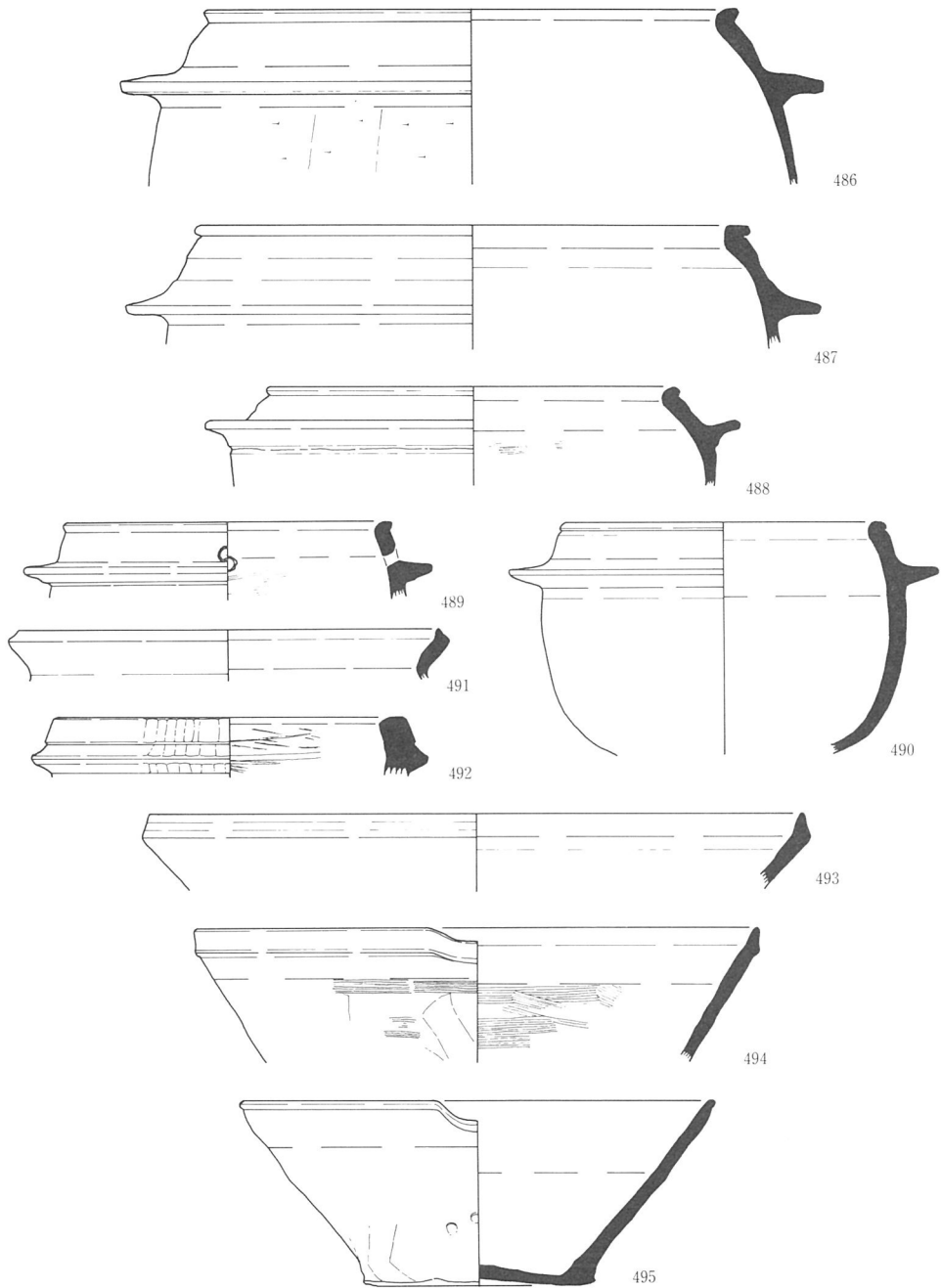
第227図 487-OL 断面図 (1/40)

図に示した瓦器碗 (496~513)、瓦器小皿 (514~518)、土師質小皿 (519・520)、土師質釜 (525~532)、瓦質釜 (533~535)、須恵質鉢 (536~538) をはじめ常滑焼甕 (539)、白磁碗 (522・523)、青磁碗 (521) 等が出土している。

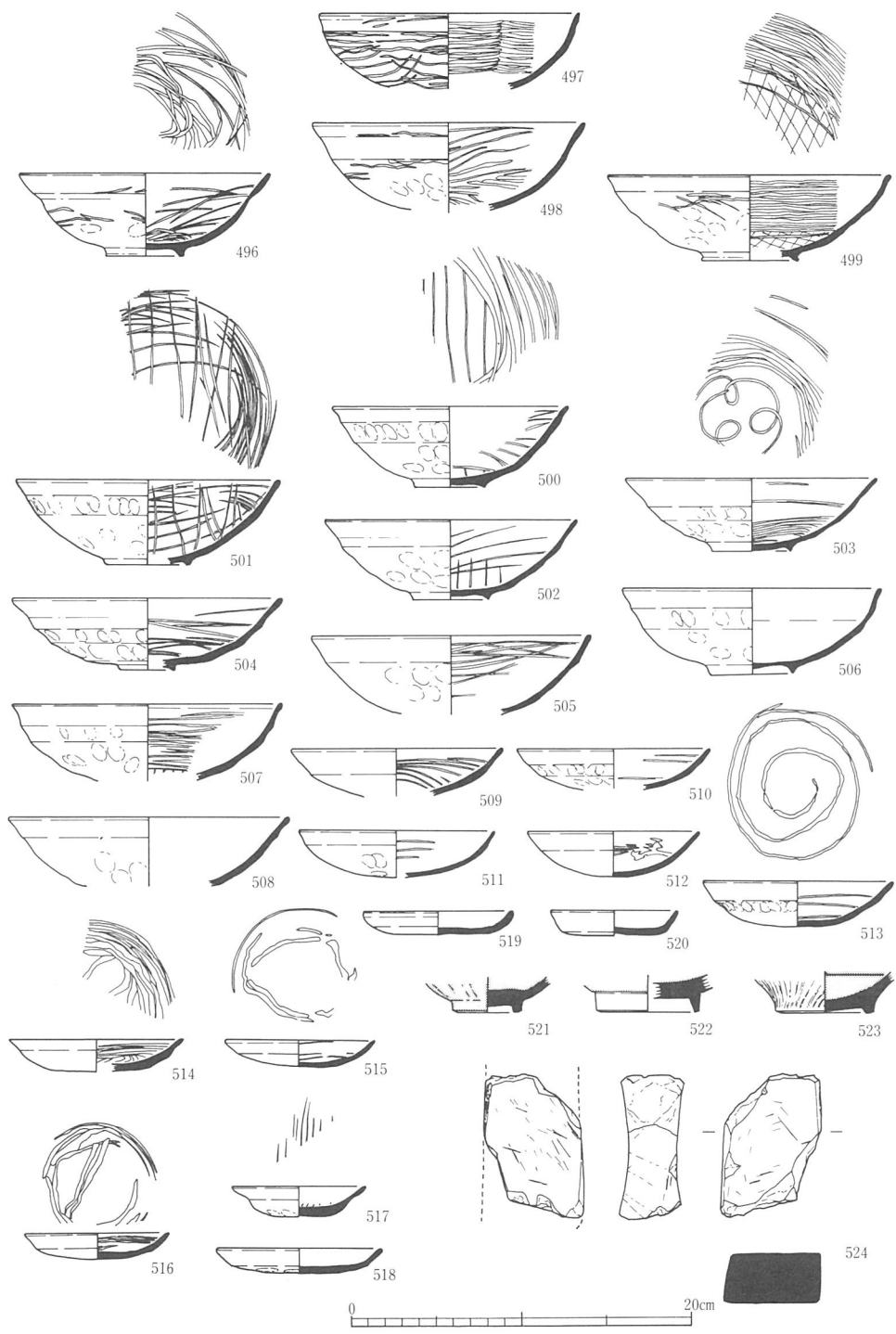
487-OL (e) は D 05 JW・JX・JY~A 01 JA にかけて位置する。平面形は不定形を呈し、西側は調査区外に延びる。長軸9.1m、短軸8 m 前後、深さ0.6~0.8m を測り、A 01 JA 付近が最も深い。埋土は最下層に青灰色粘土が堆積し、それより上層は2.5Y 4/1黄灰色粘土、10YR 4/6褐色粘質シルト、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、2.5Y 5/3黄褐色シルト、



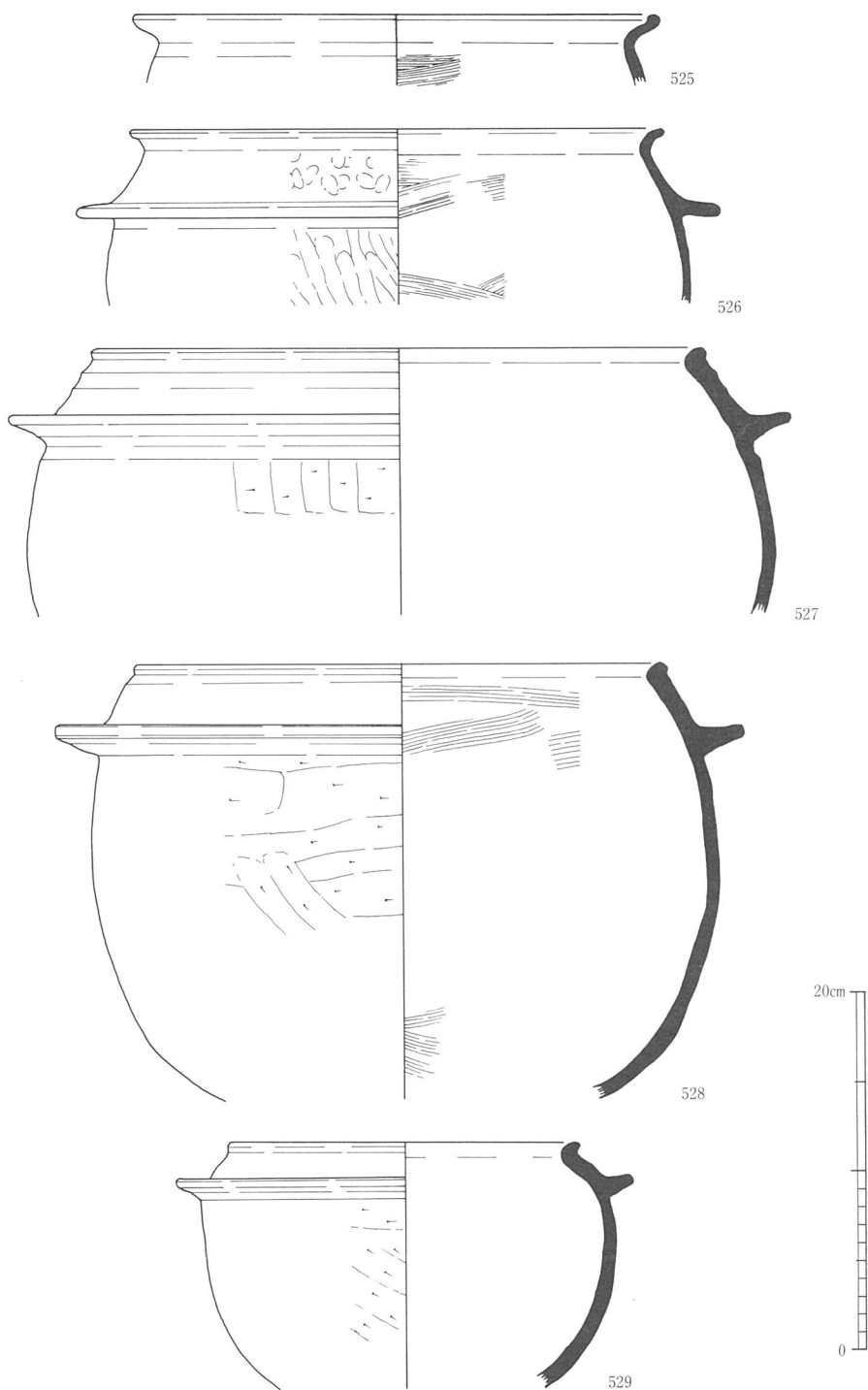
第228図 487-OL (a) 出土遺物実測図 (1) (1/4)



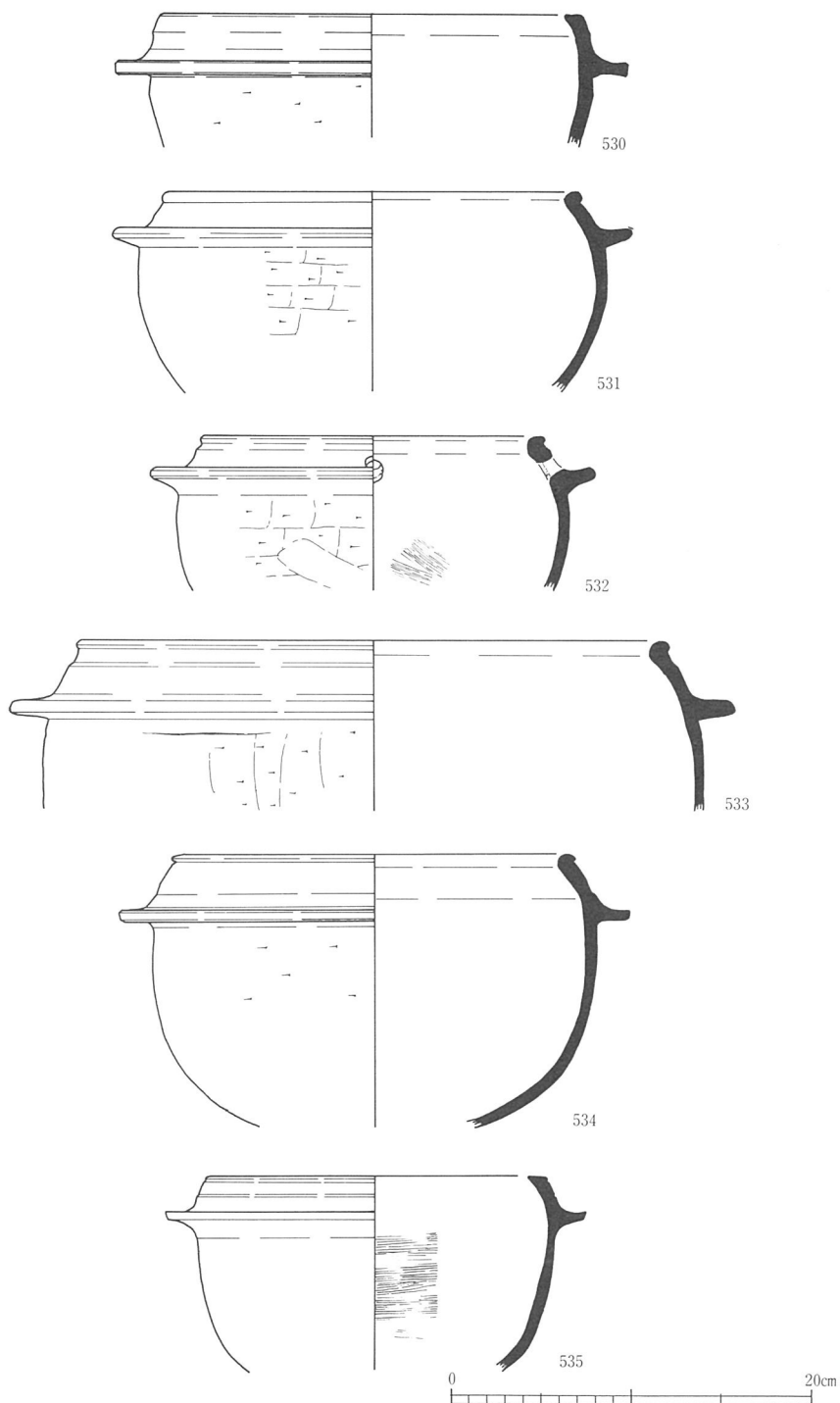
第229图 487-OL (a) 出土遺物実測図(2)(1/4)



第230図 487-OL (d) 出土遺物実測図 (1) (1/4)



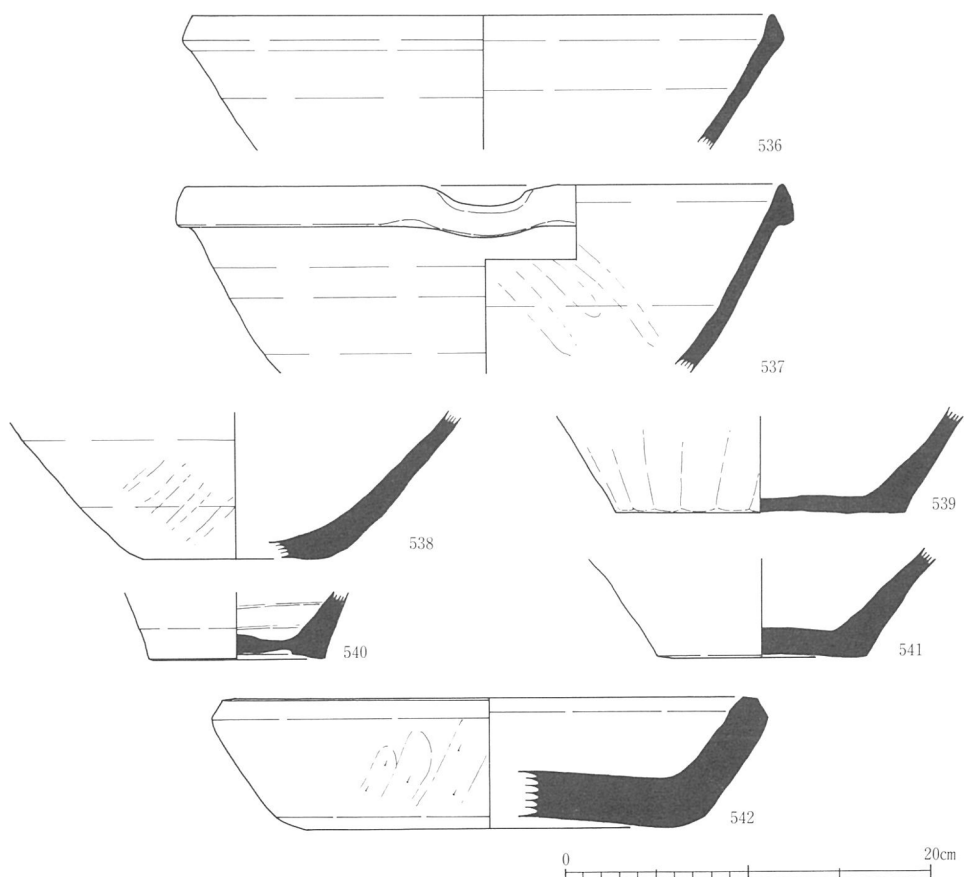
第231図 487-OL (d) 出土遺物実測図(2)(1/4)



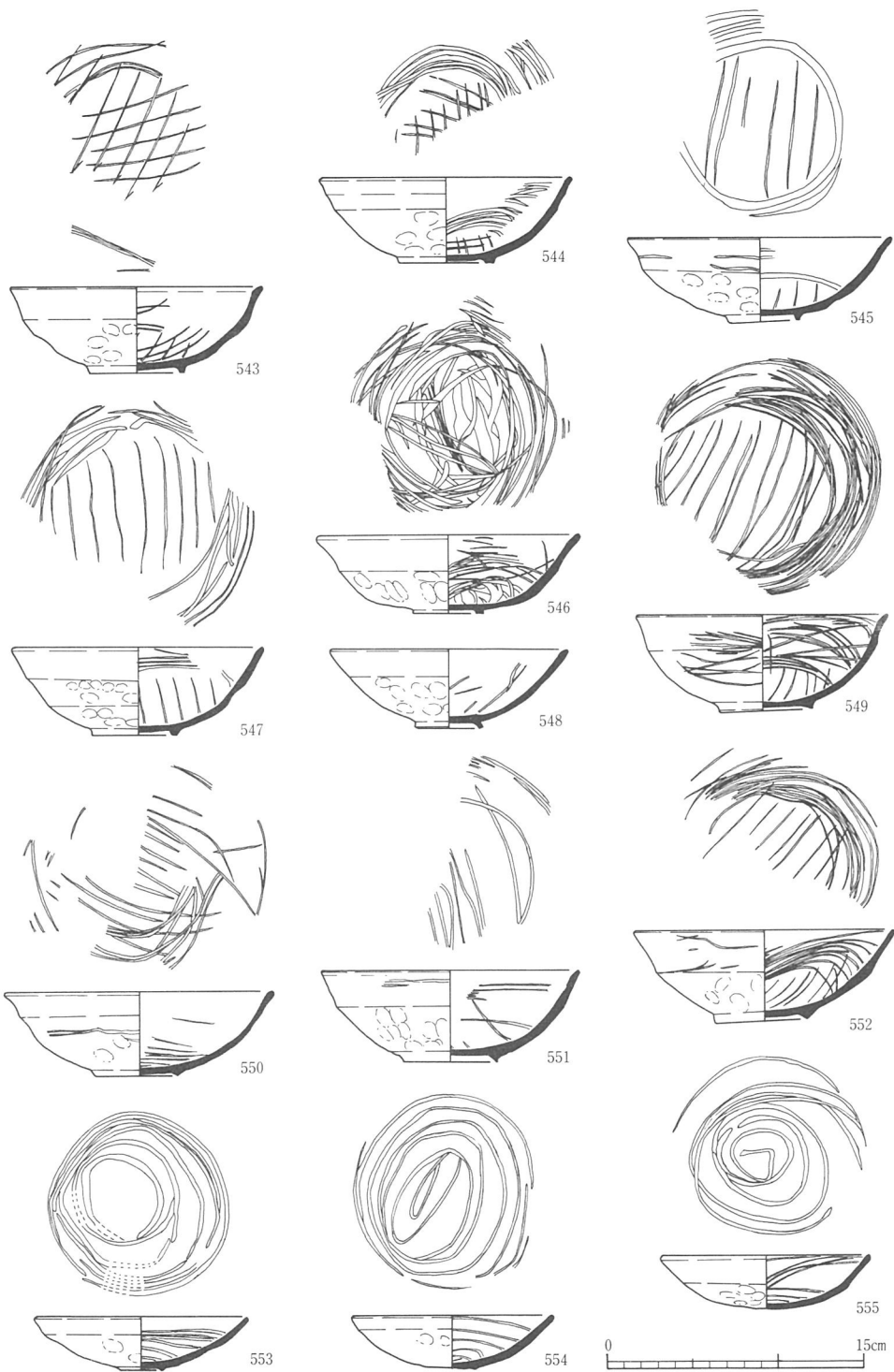
第232図 487-OL (d) 出土遺物実測図 (3) (1/4)

2.5Y 5/2黄褐色粘質シルトがほぼ水平に堆積している。遺物は第234～236図に示した瓦器碗 (543～555)、瓦器小皿 (556～559)、土師質小皿 (560～563)、土師質釜 (571～575・577～579)、瓦質釜 (576・580～582)、須恵質鉢 (566～568) をはじめ、白磁碗 (564・565)、砥石 (570) 等が出土している。

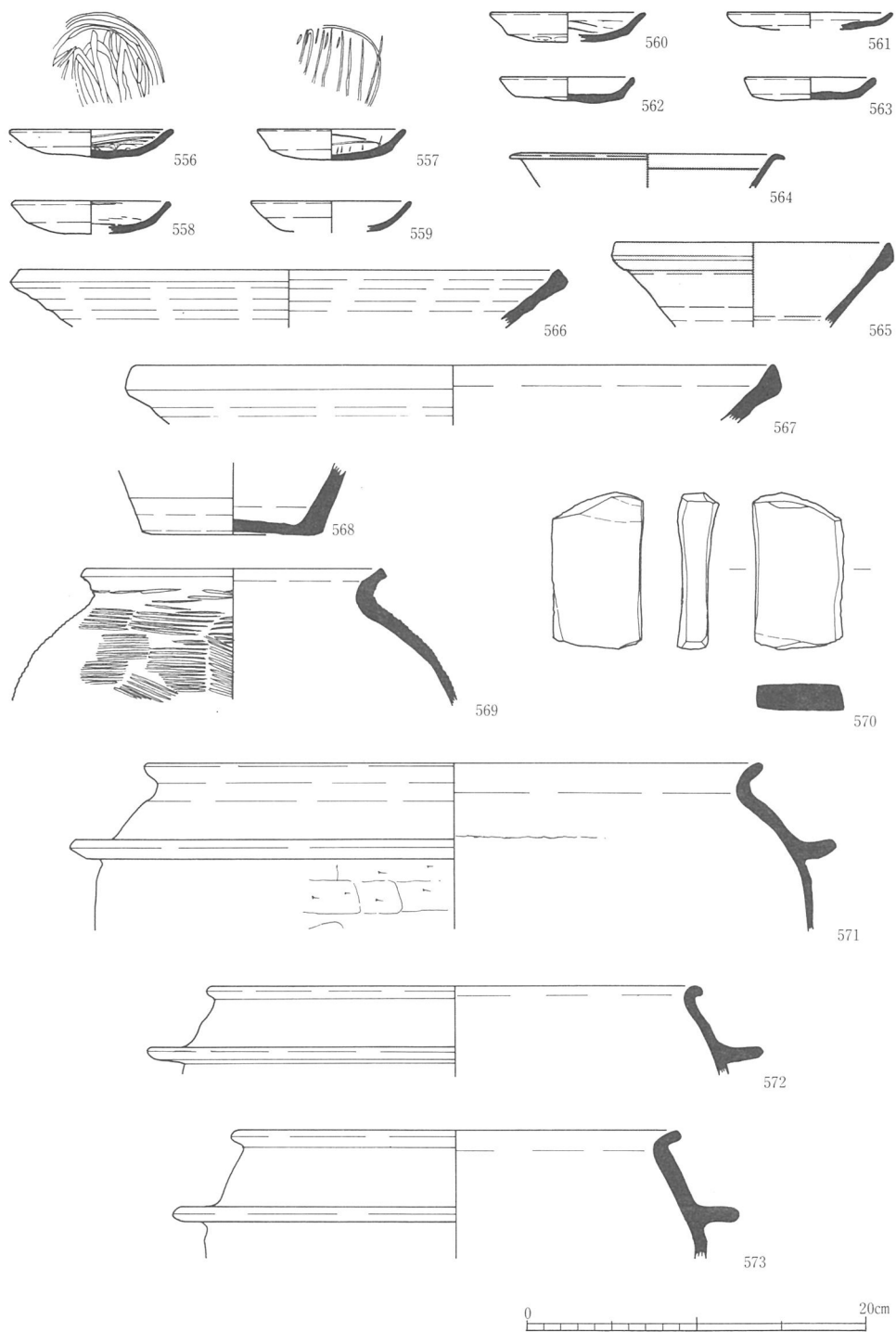
487-OL (f) は A 01 LE・ME～MA にかけて位置し、A 01 MB 付近で池部分と溝部分に分かれる。池部分の平面形は不整形な長方形を呈する。長軸11.1m、短軸3.5～4.5m、深さ0.3m～0.45mを測り、A 01 LL 付近が最も深い。埋土は最下層より10YR 5/1褐灰色粘土、10YR 6/1褐灰色粘質シルト、2.5Y 5/1黄灰色細砂、10YR 5/2暗灰黄褐色粘質シルトがレンズ状に堆積し、最上層には10YR 5/4にぶい黄褐色砂質シルトがほぼ水平に堆積している。溝部分西側は調査区外に延び、幅1.35～2.25m、深さ0.2mを測る。埋土は最下層より2.5Y 5/1黄灰色粘土、10YR 4/6褐色粘質シルト、2.5Y 5/2暗灰黄色シルト等が堆積して



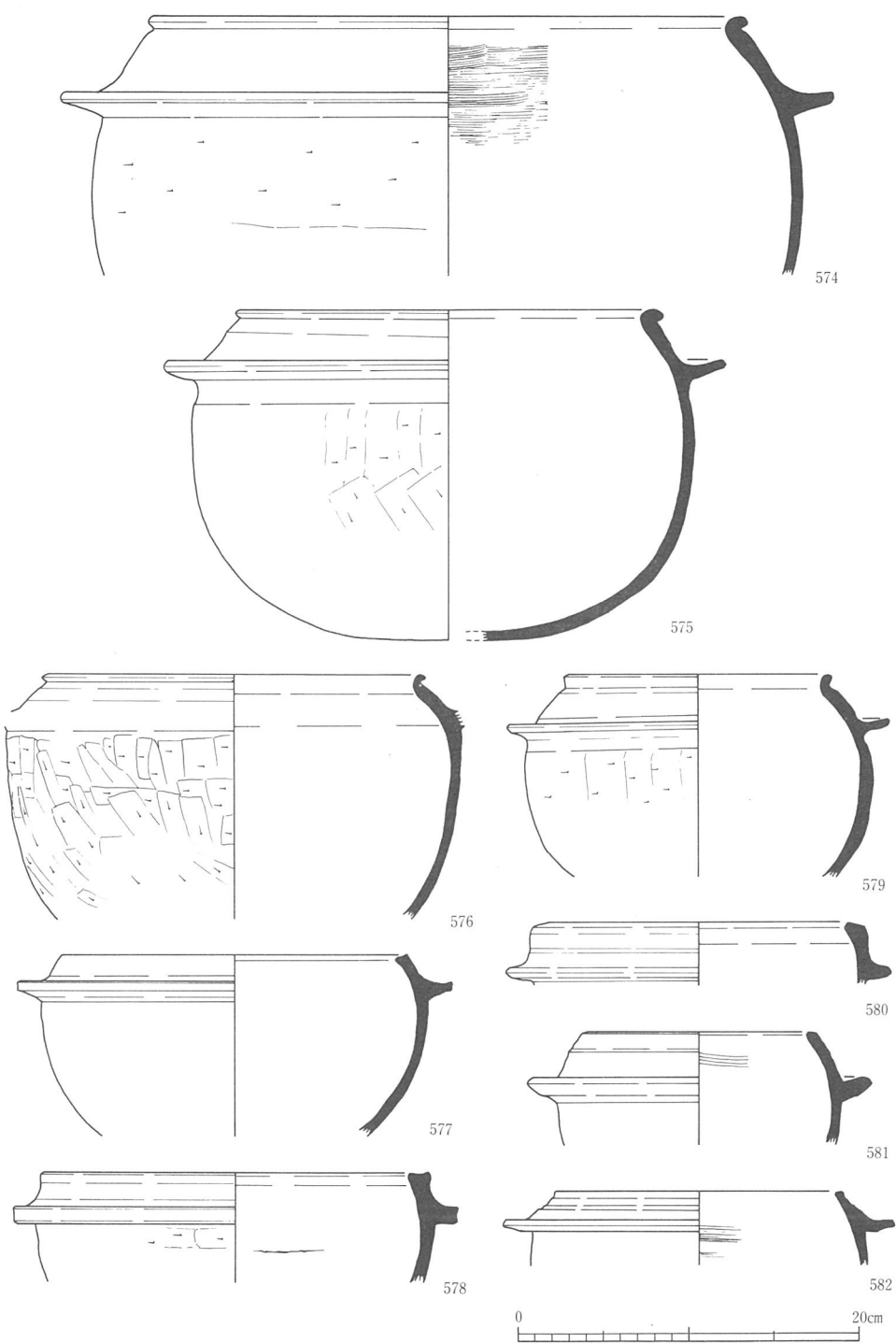
第233図 487-OL (d) 出土遺物実測図 (4) (1/4)



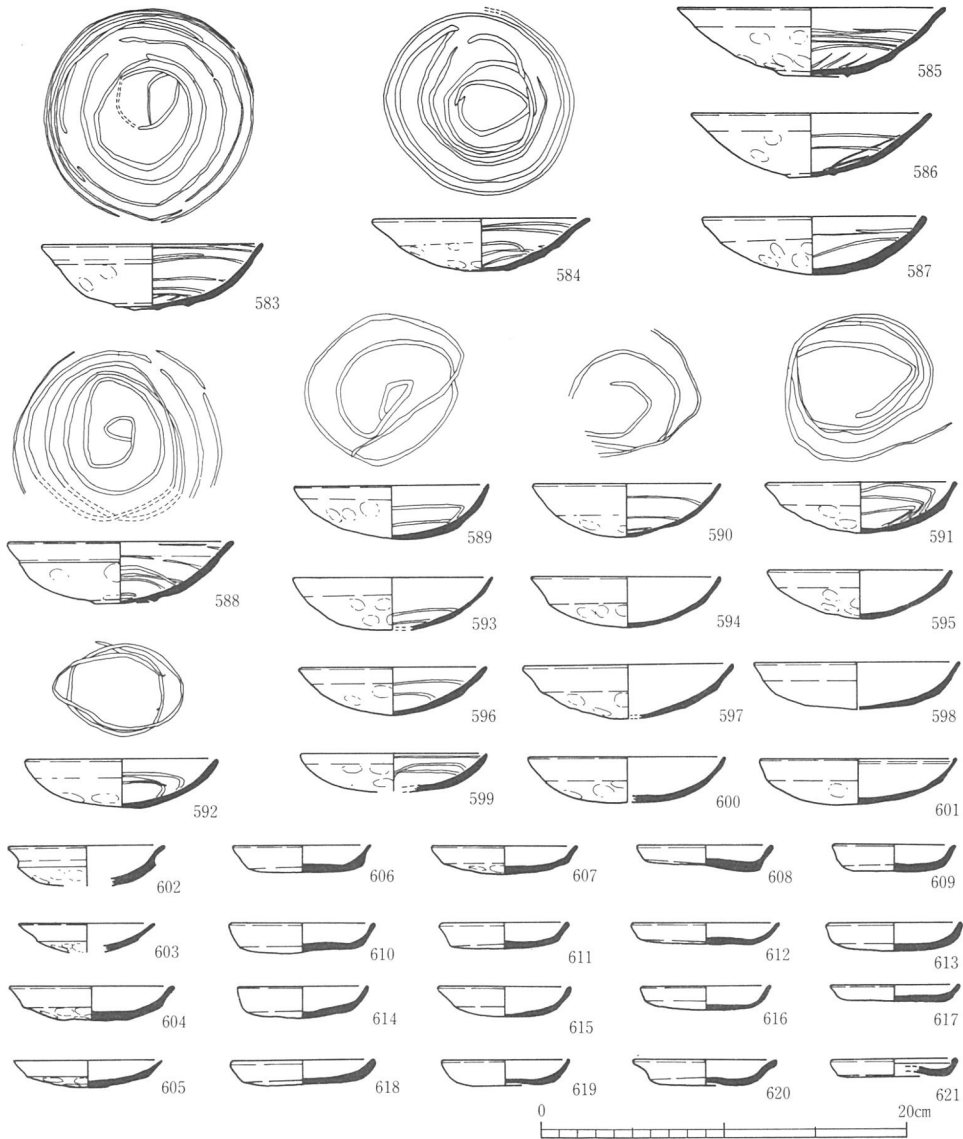
第234图 487-OL (e) 出土遺物実測図 (1) (1/4)



第235图 487-OL (e) 出土遺物実測図(2)(1/4)



第236图 487-OL (e) 出土遺物実測図 (3) 1/4)

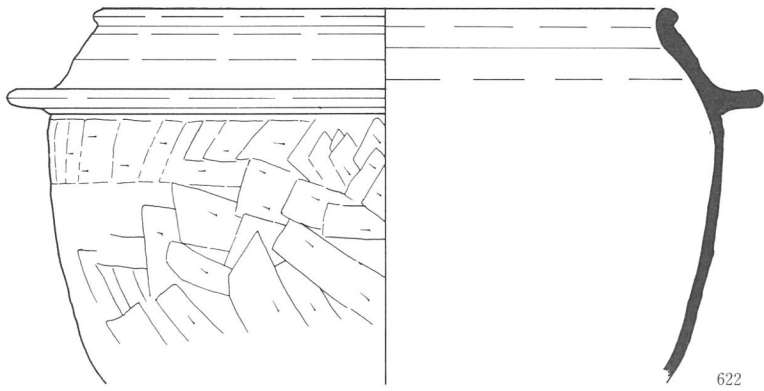


第237図 487-OL (f) 出土遺物実測図 (1) (1/4)

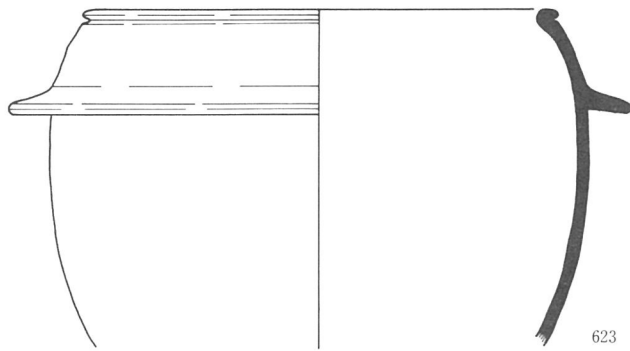
いる。遺物は第237～241図に示した瓦器椀 (583～601)、瓦器小皿 (602～605)、土師質小皿 (606～621)、土師質釜 (622～627)、瓦質釜 (628～634) をはじめ瓦質鍋 (635)、須恵質鉢 (642)、瓦質鉢 (641) 等が出土している。

池と池とをつなぐ小溝は幅0.3～0.6m、深さ0.2～0.3mを測り、池の肩部上面より派生する。断面形はU字状を呈する。

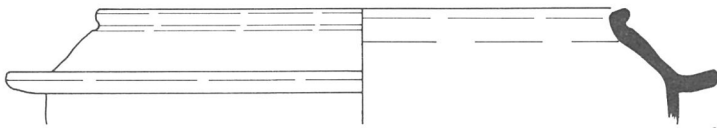
以上、個々の池についての概略を述べたが、池群を一遺構ととらえた上で少しまとめて



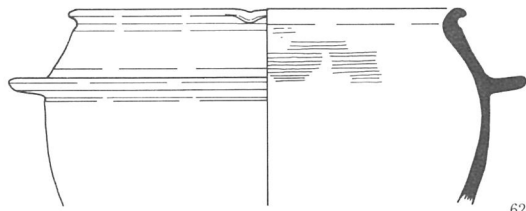
622



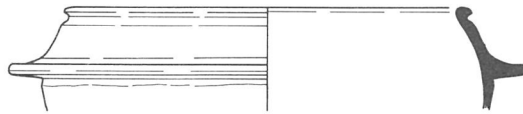
623



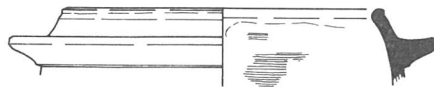
624



625



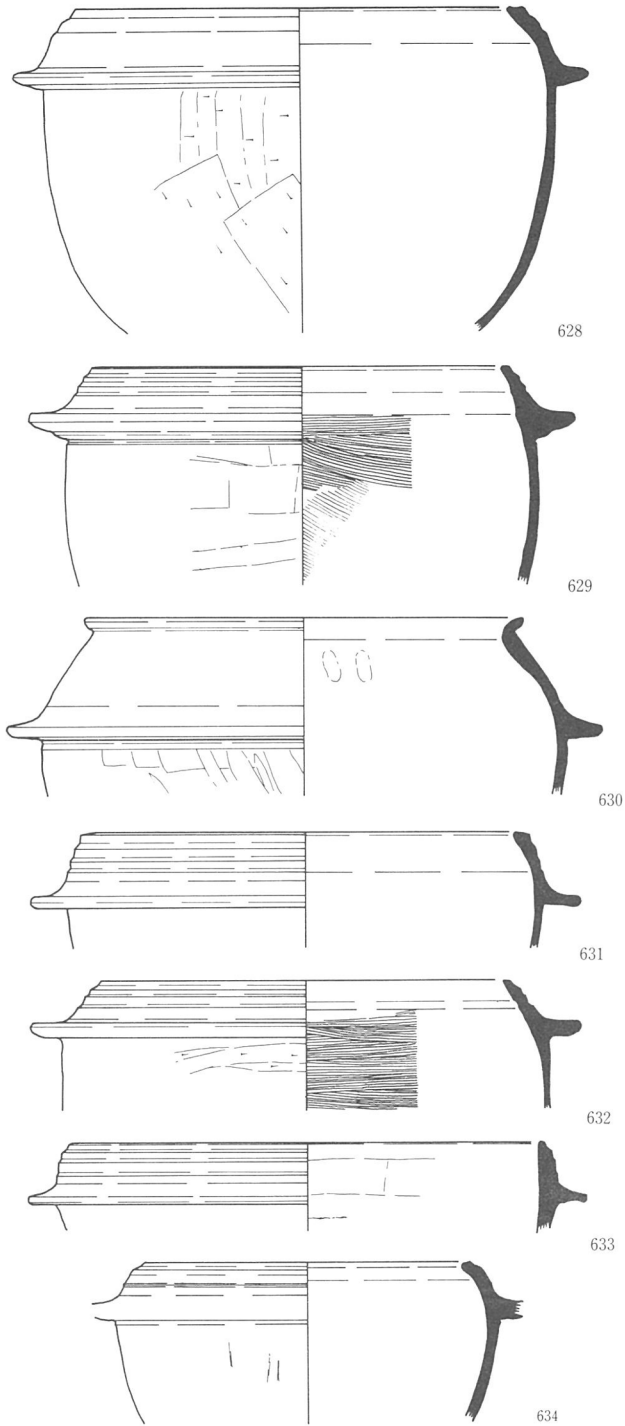
626



627



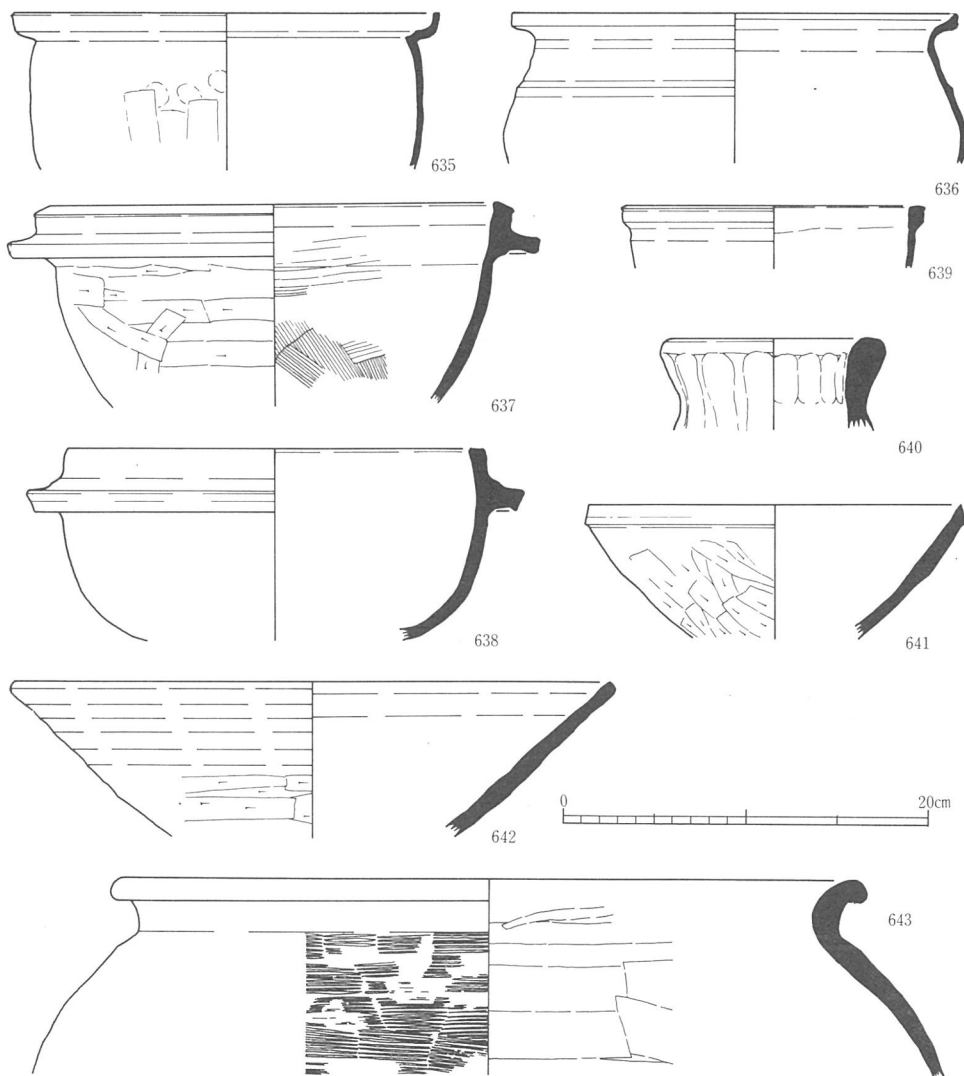
第238图 487-OL (f) 出土遺物実測図(2)(1/4)



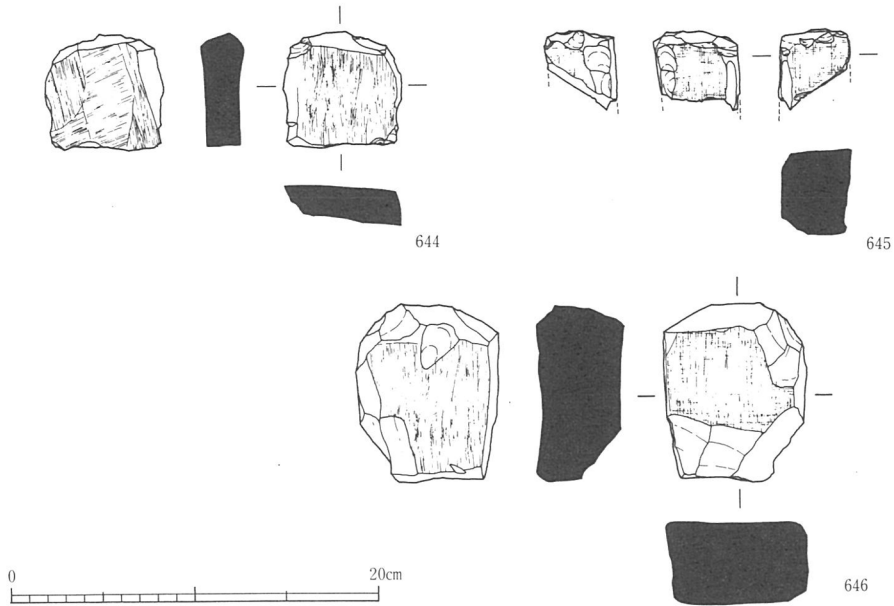
第239図 487-OL (f) 出土遺物実測図(3)(1/4)

おきたい。まず、埋土からこれらの池の関係を見ると、cとd、dとf、eとfはそれぞれ下層は単独堆積であるが、最上層では同一堆積層がほぼ水平に0.1~0.2m厚で認められ、人為的に埋められた土である可能性が非常に高い。またこの同一堆積層は比較的広い範囲で認められ、整地の目的によるものと考えられる。

次に出土遺物であるが、この池群の中で最も新しい土器を出土する遺構はfであり、口径10cm前後、高さ2.5cm前後を測り、ラセン暗文を施す瓦器碗や口縁部を玉縁状に肥大化させる土師質釜、口縁部に段を有する瓦質釜が主なものである。aはfの遺物より一段階古い

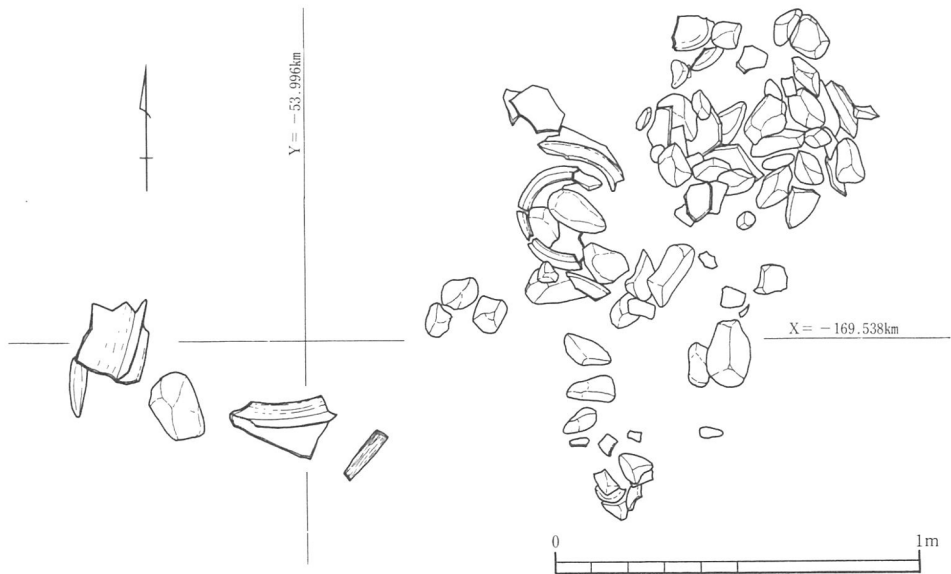


第240図 487-OL (f) 出土遺物実測図(4)(1/4)



第241図 487-OL (f) 出土遺物実測図 (5) (1/4)

と考えられる、口径11cm前後、高さ3cm前後の瓦器碗や口縁部を玉縁状に肥大化させる土師質釜が主なもので、fで出土する瓦器碗、瓦質釜は出土していない。d・eではa・fと同時期の瓦器碗や釜と、これらより古いと考えられる土器とが共伴して出土し、d・eが最も先行し、d・eとa・d・eとfが同時に機能し、d・eがこの池群の中心であっ

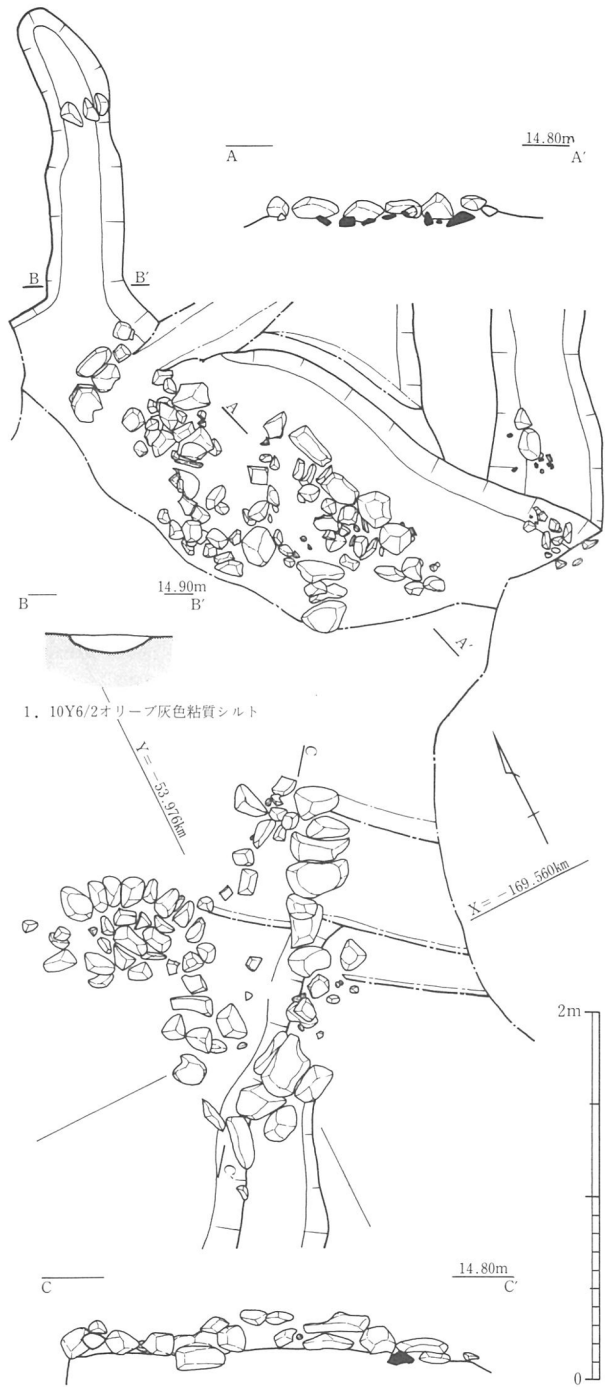


第242図 487-OL (d) 遺物出土状況平面図 (1/20)

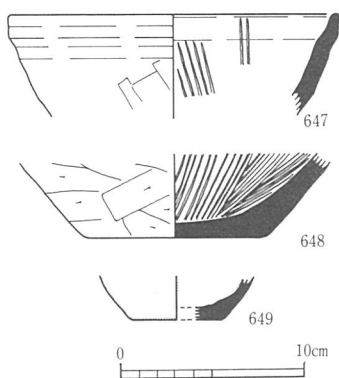
たことがうかがえる。また規模等から判断しても $d \cdot e$ がこの池群の中心と考えられ、東西両サイドに配される $a \cdot f$ は $d \cdot e$ に比べ浅いこと等も考え合わせると付属的な施設ではないかと考えられよう。

第7項 その他

423-OX (第243・244図、図版54) A 01 NG・OF・OG・PF に位置する石積み遺構である。中央部が試掘トレンチによって破壊されているが、石積みの残存部の長さは4.5mを測る。試掘トレンチの左右で方向を異にしており、南西側では北東～南西に、北東側では南北方向に延びている。石積みは、北東側に存在する高さ0.1m前後の段の内側に築かれている。この段は、北側で石積み部分から北東に延びる幅0.3～0.4m、深さ10cm前後の溝の存在からすると、本来溝状のものであった可能性が考えられるが、確認するには到らなかった。なお、この溝の先端から0.6m付近には、溝を横切って長径10～15cmの河原石が3つ並んでいた。石積みの最下段



第243図 423-OX 平面図・立面図・断面図 (1/40)

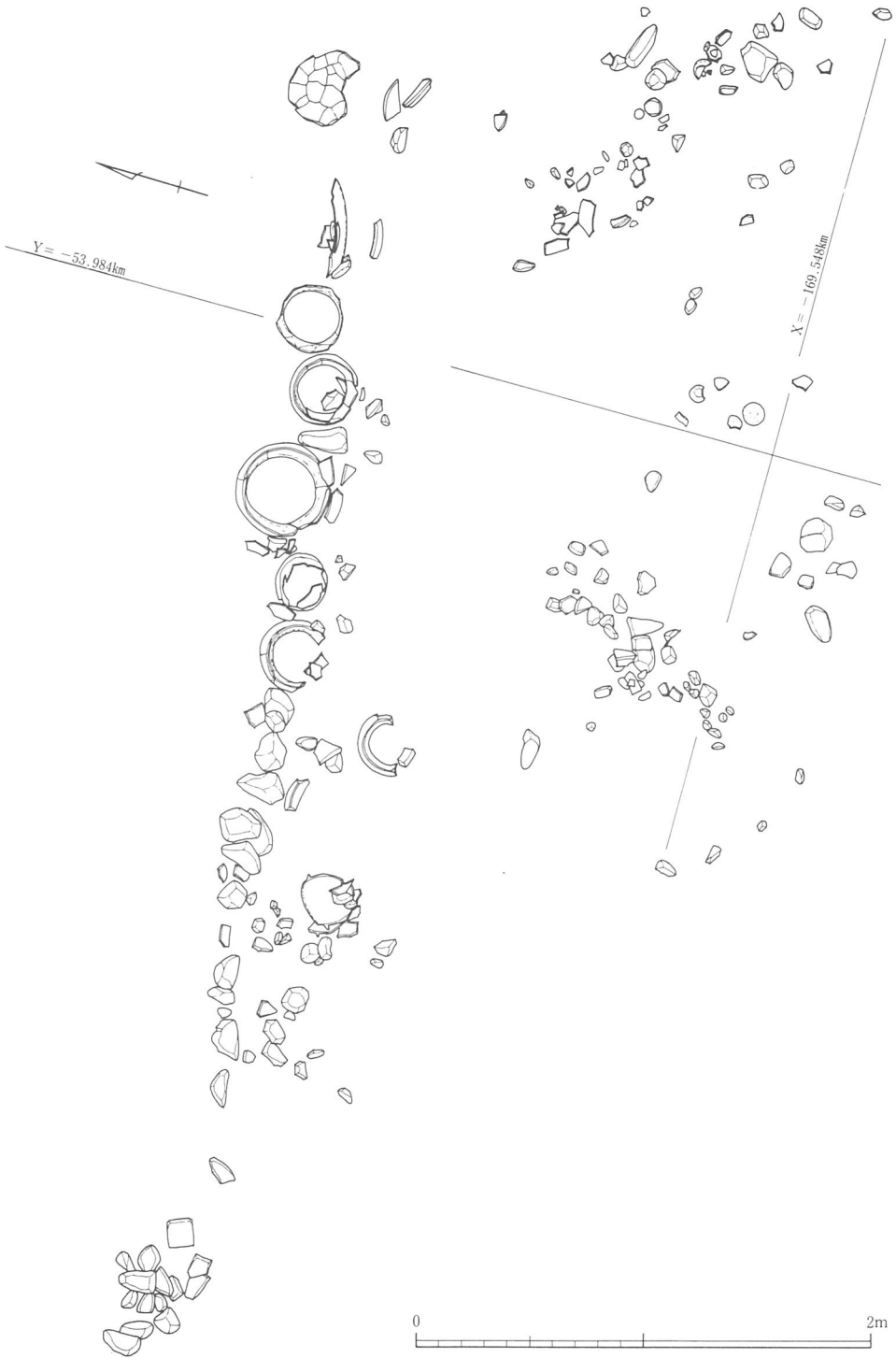


第244図 423-OX 出土遺物
実測図 (1/4)

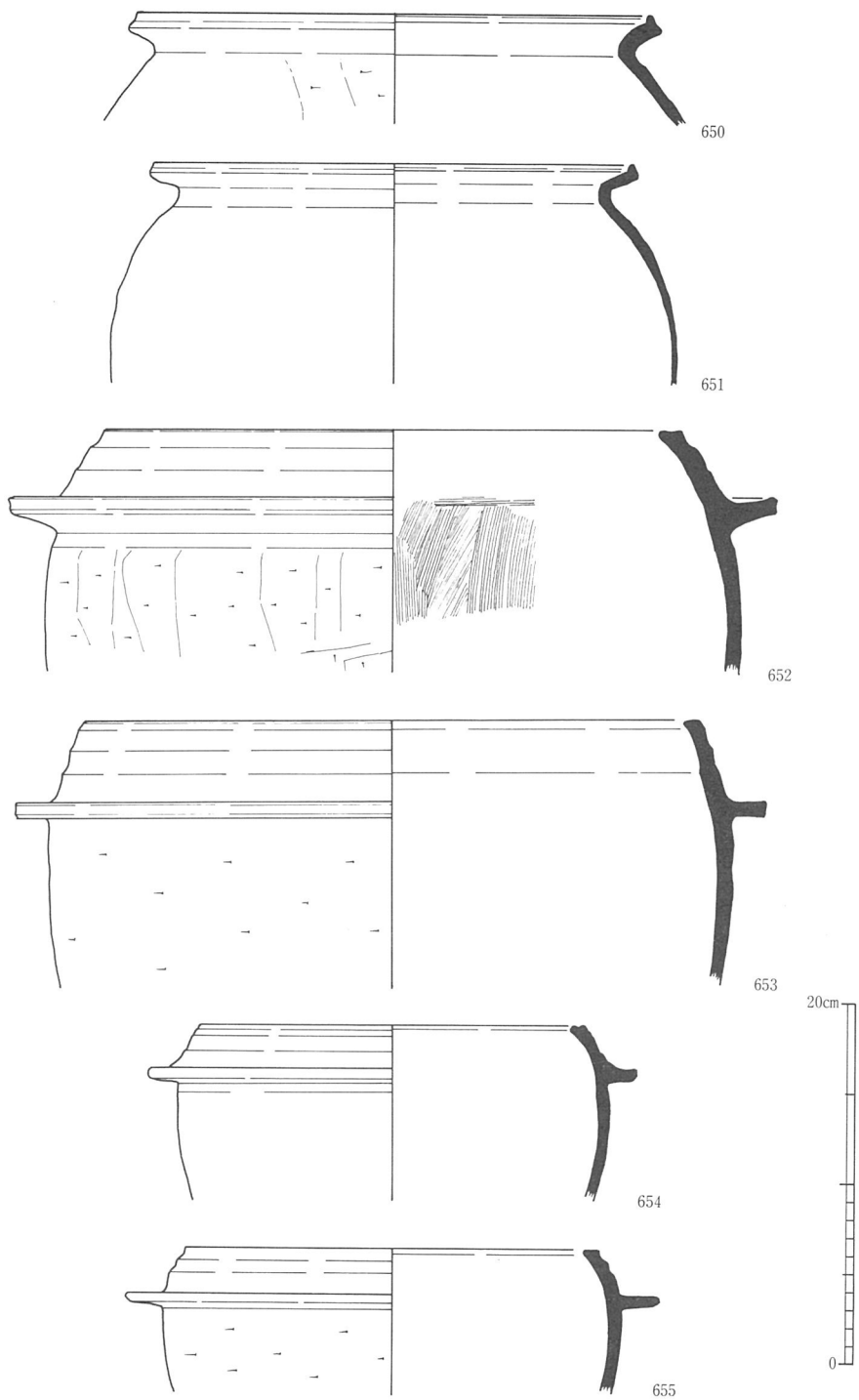
には、根石として、長径20cm前後の河原石が側面を揃えて並べられている。根石の上部には礫混じりの砂質シルトが積まれ、さらに、その上部に径5～10cmの河原石が積まれている。上部の石積みは最も残存状態の良好な部分で3段を数え、部分的に瓦も使用されている。根石を含めた石積みの高さは0.4m前後を測る。石積み内及び石積みからの転落と考えられる礫群中から、土師質鉢 (648)、須恵質鉢 (647)、施釉陶器 (649)、備前焼鉢、染付・瓦等の破片が出土している。なお、PF 区の石積み南西端部から南西部にも段が続いているが、この部分からは、根石と考え

られる河原石は全く出土しておらず、石積みは本来検出部付近で終わっていたものと考えられる。

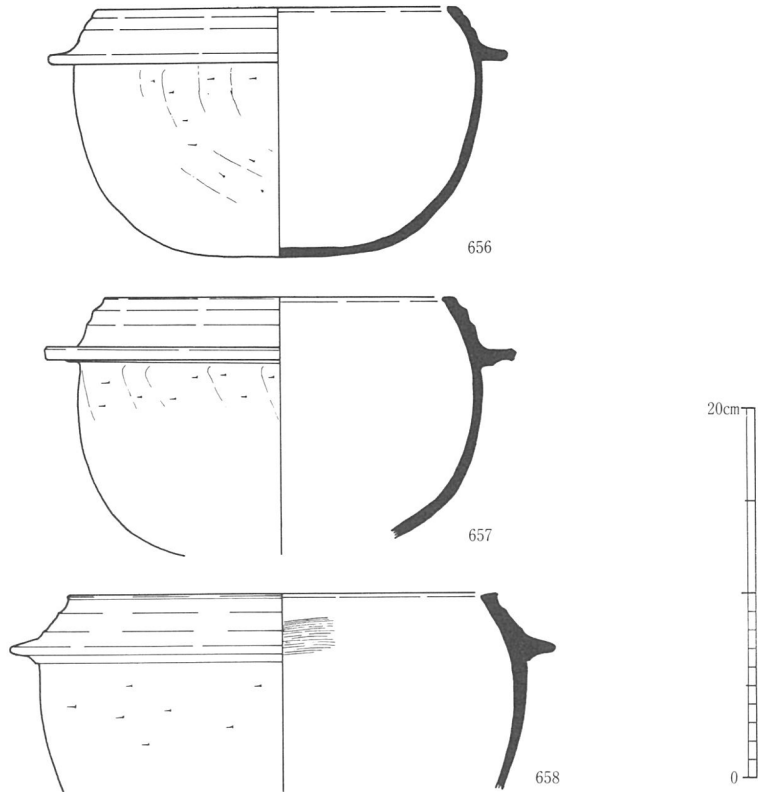
599-OX (第245～247図、図版51・74) A 01 LC～MH に位置する。直線状に並んだ遺物等の列を伴う、浅い落ち込み状の遺構である。平面形は不整長方形を呈するが、南西部は試掘坑で切られている。長軸8.0m、短軸4.0m以上、深さ0.1mを測る。試掘坑以西の遺構の範囲は把握できなかったが、同一レベルにおいて試掘坑より以西では遺物が殆ど出土しなかった事から、概ね遺構は平面的に確認できた範囲で収まると思われる。輪郭は第IX層上面の砂礫層をベースとして形成されているが、底面は487-OL (f) の最終堆積層上面がベースとなっていて、上端ではこの両者を区別する事はできない。検出時点の最上面では、遺構の輪郭は不明瞭で、14世紀後半に整地されたと考えられる第VI層が一面に覆っていた。同層の除去と共に土師質釜、瓦質釜等の遺物群が検出され、また輪郭もある程度明確になってきた。この箇所での第VI層は10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルトである。遺物は瓦質釜、土師質釜、平瓦、及び河原石がほぼ東西方向に直線的に配置された出土状況を呈し、これらの間には瓦器椀、土師質小皿の細片が僅かに認められる部分があった。遺物、及び河原石からなる列は、遺構の落ち込みの北部に偏って検出され、方位はN-83°-E、検出全長は5.8mを測る。出土状態からこの位置に溝等の施設の存在する可能性が想定されたが、土層断面観察の結果、溝は確認されなかった。釜は大半が上下を逆転して口縁部を下面に向けており、重ねる事なく並べて設置されているが、正立、あるいは横転した個体も僅かに含まれていた。東半では瓦質釜 (652～658)、紀伊産と思われる土師質釜 (650・651)等が、また西半では大きさ20cm以下の河原石が並んでおり、最西端では完形品を含む平瓦数点が集合していた。釜の残存状況は口縁部が下面に接している事で、上半の残りが



第245图 599-OX 遺物出土状況図



第246图 599-OX 出土遺物実測図 (1) (1/4)



第247図 599-OX 出土遺物実測図(2)(1/4)

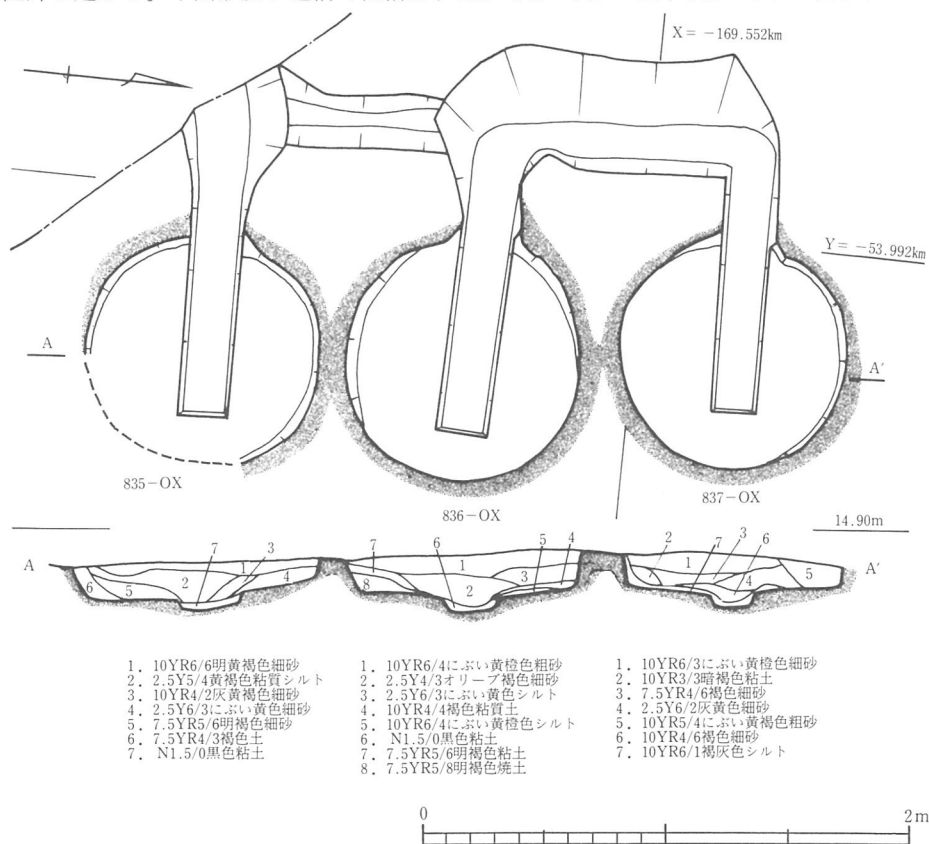
良好であるが、大半の個体が胴部以下を欠失する。同一レベルにおいて主としてこの釜列の南側で、瓦器椀、土師質小皿等の遺物が検出されているが、釜列との関係は把握できなかった。遺物の出土状況は一つの面の存在を示しており、ここでは別個の遺構として記載したが、599-OX は487-OL (f) と不可分の関係にあると思われる。487-OL (f) が埋没する際の最終段階の過程を示している可能性は十分に考えられるが、具体的な遺構の性格付けを行う事はできなかった。

762-OX (第176図) A 01 KC~LD に位置する。平面形は不定形であるが、北側の一部を438-OO に、南側を487-OL (f) に切られている。長軸4.4m 以上、短軸4.6m 以上、深さ0.3m を測る。埋土は7層が観察されたが、10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト、10YR 6/3 に黄橙色砂質シルト等、大別すると4層である。遺物は出土しなかった。1011-OR の堆積層である第IX層の部分的な堆積の変化を遺構と誤認したおそれがある。

835・836・837-OX (第248図、図版54) A 01' MC・NC に位置し、焚口部分を西側に向ける三連の円形かまどで、基本層序第V層を遺構構築ベースとする。かまど焼成部の3

基の土坑はそれぞれ直径0.9~1.0mを測り、0.1~0.15mの間隔で南北一列に構築され、この掘り残し部分を壁体としている。壁体は固く焼きしまっている。焼成部土坑中央は、焚口から連続して幅0.2m、深さ0.02~0.07m程、長方形に掘り込み周囲より一段低くする。また、この掘り込みはそれぞれ焚口から焼成部奥に向かって徐々に深くなり、わずかながら傾斜をつけている。3基の土坑焚口部の西側には幅0.2~0.4m程の溝や不定形な土坑を掘り込み、灰落し部分を形成する。かまどの上部構造は、後世の攪乱のため不明である。焼成部土坑中央掘り込み部分には黒色粘土の灰層が厚さ0.02m程堆積し、それより上層は黄橙色細砂、黄褐色細砂、褐色シルト等が堆積している。また835-OXでは焼土塊を含む層も確認されている。灰落し部分は灰黄色細砂、浅黄色細砂等が堆積し、顕著な灰層は認められない。焼成部土坑内より、江戸時代の染付碗、平瓦等の小片が出土している。

868-OX (第217・221図、図版45) A 01 MA・MB・NA・NBに位置し、南側は調査区外に延びる。平面形及び遺構の性格は、858・867・867-OS、861-OOに切られている



第248図 835~837-OX 平面図・断面図 (1/30)

ため不明であるが、溝の可能性が高い。検出長6.5m、幅1.06m以上、深さ0.14mを測る。埋土は、10YR5/2灰黄褐色細砂、10YR6/1褐灰色細砂、2.5Y5/2暗灰黄色粘土、2.5Y5/1黄灰色粘土の4層である。遺物は瓦質釜（429～432）、瓦質鉢（428）、瓦器椀（427）、瓦質甕（433）等が出土している。

178-OZ（付図2、図版3） A 01 QM～XO に位置する。II区ではA 01 XP～US にかけて、南東から北西へ約0.5m下がる段差が設けられている。この段差は近世に形成されたと考えられ、現在の耕作地の地割にも継承されている。段差の下段にあたるII区北西半部では近世の形成になる4面の水田面が検出された。これを178-OZ と総称し、北東から南西にかけて（a）～（d）と呼称して分別する。耕作土層は2.5Y 5/2暗灰黄色砂質シルト、2.5Y 6/2灰黄色粘質シルト、2.5Y 6/1黄灰色砂質シルト等で、それに対応する床土層は、5 YR 5/6明赤褐色粘質シルト、10YR 6/8明黄褐色粘質シルト等である。部分的には耕土層と床土層の数枚の重なりが観察された。これらは第IV層に相当する。段の直下には区画の溝と解される42-OS が走行している。水田は北西から南東の方向に走行する畦畔185-OA と、南西から東北の方向に走行する畦畔174-OA によって区画されていて、周辺地形に残る条里地割の畦畔と一致した方向性を示している。検出された畦畔は溝を伴っている。

42-OS はA 01 YN～UR にかけて検出された。検出全長24.0m、幅0.4～0.8m、深さ0.1mを測り、埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトの1層で、染付碗、瓦等の細片が出土している。

185-OA は178-OZ（a）と（b）、及び（c）と（d）を区画し、直線的に延びる畦畔である。北西部は調査区域外に及び、南東部は194-OO に切られている。検出全長21.0m、幅0.5～0.6m、高さ0.15mを測る。この北東側に沿って**184-OS** が走行する。この溝は設定の当初は185-OA と等しい全長を測るが、南東半は後の耕作地の作り替えに伴って埋没され、長さを減じている。幅0.3m、深さ0.05mを測り、埋土は2.5Y 5/1黄灰色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。この溝の北東側の一部に**188-OS** が並んでおり、検出全長4.0m、幅0.3m、深さ0.05mを測る。埋土は184-OS と同一で、平瓦、染付碗の破片が出土している。

174-OA は178-OZ（b）と（d）を区画するが、（a）と（c）では僅かな段差を認めただけで、明瞭な畦畔は確認されなかった。幅0.7m、高さ0.1m、検出全長3.1mを測る。この南東側に沿って**175-OS** が走行する。これは区画の溝らしく、北東部で185-OA を直角に切ってから南東へ折れ、185-OA に沿って走行する。南西部を176-OO に、南東部を

194-00 に、また一部を177-00 に切られており、検出全長14.0m、幅0.5m、深さ0.2m を測り、埋土は 5 Y 5/1 灰色粘土の 1 層である。土師質土器、須恵質土器、陶器等の小片が出土している。この溝の北東辺は、184-OS の南東半を埋没して185-OA を拡幅した後に設定されている。

床土層上面には「スキ溝」と通称される小溝群が残存していたが、水田区画ごとに小溝群の走行方向は異なる。178-OZ (d) では小溝群の上に畝が形成されており、水田経営後に畑作地として機能していた事が伺える。

江戸時代の水田経営後に形成された、時期の下る遺構に176・177・194-00 がある。

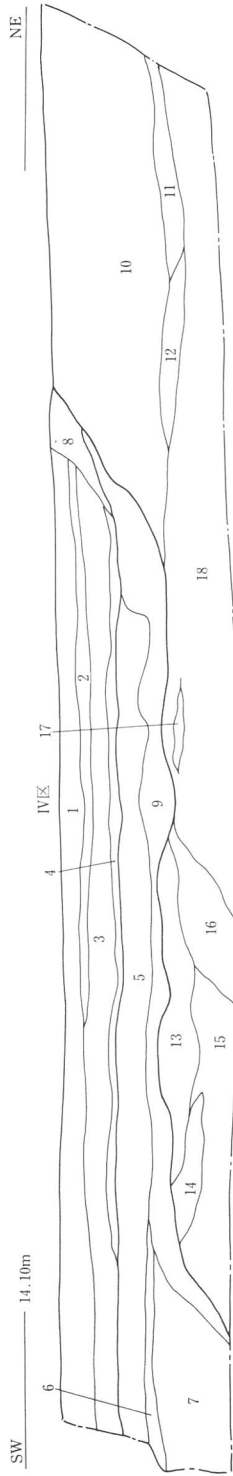
176-00 は A 01 UM～VN に位置する。平面形は長方形を呈するが、南西側は調査区域外に及んでいる。長軸4.3m 以上、短軸4.2m、深さ0.2m を測る。埋土は、大別して7.5YR 5/1 褐灰色粘質シルト、7.5YR 6/2 灰褐色砂質シルト等の 3 層で、瓦質土器、陶器、染付碗等の小片のほか、平瓦、丸瓦の破片が多量に出土している。

177-00 は A 01 TN～UO に位置する。平面形は不定形である。長軸4.0m、短軸3.7m、深さ0.08m を測る。埋土は10YR 4/4 細砂混じり褐色粘質シルトの 1 層で、土師質土器、瓦質土器、染付碗、瓦の細片等が出土している。

194-00 は A 01 UP～VQ に位置する。平面形は不定形である。長軸4.3m、短軸4.0m、深さ0.3m を測る。埋土は大別して10YR 6/6 明黄褐色粘質シルト、10YR 5/1 褐灰色粘質シルト等の 3 層で、瓦等の細片が僅かに出土している。

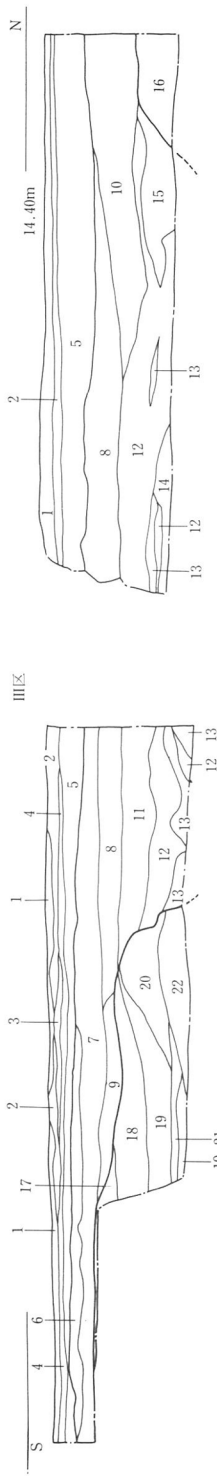
213-OZ (付図 1) III区 Y = -53.972km ライン以西、X = -16.9524km ライン以南の第Ⅲ層中、Ⅲ区 7 層上面で検出された水田遺構である。7 層上面で検出された遺構は、土坑 (317～319-00)・溝 (316-OS)・畦畔 (189-OA)・段等である。本章第 1 節で述べたように、Ⅲ区 7 層は 6 層を耕作土とする水田の床土層と判断される土層で、上記の遺構についても、土坑を除いて、6 層を耕作土とする水田に伴う遺構と判断される。なお、土坑については水田との関係を明らかにできていないが、便宜上ここで説明を加えておく。

189-OA は、A 01 KF～PF に位置する。やや湾曲しながら南北に走る。方向が下層の流路1011-OR 右岸のそれとほぼ一致することは前述した通りである。7 層をベースとして、下から2.5Y 6/2 灰黄色シルト、2.5Y 7/6 明黄褐色粘土、2.5Y 6/8 明黄褐色粘土と2.5Y 7/2 灰黄色シルトの混合層の 3 層を、水平に積んで築いている。検出全長19.5m、底部幅1.0～1.2m、上部幅0.3～0.4m、高さ0.1～0.15m を測り、北側で徐々に幅、高さを減じている。なお、この畦畔の東・西両側では 7 層上面の高さが異なっており、東側が西側に比して0.05



- 1. 10YR5/2底黄褐色細礫混じり粗砂
- 2. 2.5Y6/4オリーブ黄褐色粘質シルト
- 3. 10YR6/1稀灰褐色粘質シルト
- 4. 10YR6/1稀灰褐色粘質シルト
- 5. 7.5YR7/6底黄褐色細礫混じり粗砂
- 6. 10YR5/1稀灰褐色粘質シルト
- 7. 2.5Y6/2底黄褐色小礫混じり粗砂
- 8. 10YR6/1稀灰褐色粘質シルト
- 9. 2.5Y5/1黄灰褐色粘質シルト
- 10. 2.5Y7/3浅黄褐色粘質シルト
- 11. 5 Y5/1灰褐色極細砂
- 12. 2.5Y6/1黄灰褐色粘質シルト
- 13. 5 Y6/1灰褐色細礫混じり粗砂
- 14. 7.5YR6/2底黄褐色粘質シルト
- 15. 5 Y6/1灰褐色粘質シルト
- 16. 7.5YR6/2底黄褐色粘質シルト
- 17. 2.5Y2/3浅黄褐色粘質シルト
- 18. 2.5Y6/1青灰褐色粘質シルト

(註) 1~4.....整地層
10~18.....10I1-OR堆積層 (第IX層)



- 1. 5 Y6/4オリーブ黄褐色粘質シルト
- 2. 2.5Y6/4にs.v.黄褐色粘質シルト
- 3. 5 X5/1灰褐色粘質シルト
- 4. 10YR5/6底黄褐色粘質シルト
- 5. 5 Y6/1灰褐色粘質シルト
- 6. 10YR6/1稀灰褐色多量の細礫混じり粘質シルト
- 7. 4.5Y6/1オリーブ黄褐色粘質シルト
- 8. 7.5YR7/1底黄褐色粘質シルト
- 9. 7.5YR7/1底黄褐色粘質シルト
- 10. 極細砂~粗砂の互層
- 11. 7.5Y5/1灰褐色粘質シルト
- 12. 10YR4/6褐色粗砂~中礫 (7.5Y5/1灰褐色粘土の裏層挟正)
- 13. 2.5GY5/1オリーブ灰褐色粘質シルト
- 14. 10BG6/1青灰褐色粘質シルト
- 15. 5 G5/1緑灰褐色粘質シルト
- 16. 10C6/1緑灰褐色粘質シルト
- 17. 10C6/1粘質シルト
- 18. 2.5GY6/4オリーブ灰褐色粘質シルト
- 19. N7/1灰褐色粘質シルト
- 20. N7/1灰褐色粘質シルト
- 21. 2.5Y6/4にs.v.黄褐色粘質シルト
- 22. N5/1灰褐色粘質シルト

(註) 1~5.....整地層
17~22.....10I1-OR堆積層 (第IX層)



第249図 10I0-OR 断面図 (1/50)

～0.1m高い。

316-OS は、A 01 KD～JF に位置し、東西に走った後、屈曲して北東方向で調査区外に去っている。検出全長9.3m、幅0.4～0.7m、深さ0.1m前後を測る。

上記2遺構以外に、本水田に伴うと考えられる遺構に、A 01 LC～KF・KB・KC・IA・JA、D 05 HX～A 01 GB の4ヶ所で検出された段がある。これらの段は、最も西側に位置するものを除き高さ0.05m程を測り、西側のものは0.1m程を測る。最も東側の段の形状から、これらは水田区画に伴う遺構と考えられるが、検出範囲が狭く、区画毎の規模、形状については明らかにできない。

6層及び7層中からは、少量の染付・陶器・瓦等の小片が出土している。

317-OO は、A 01 HC に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径0.4m、短径0.35m、深さ0.05mを測る。

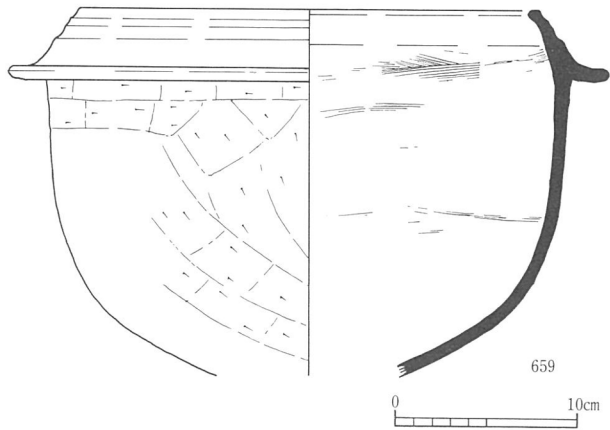
318-OO は、A 01 GA に位置し、上記の段の一部を切っている。平面形は楕円形を呈し、長径0.6m、短径0.35m、深さ0.1mを測る。

319-OO は、D 05 GX に位置し、平面形は円形を呈する。径1.1m、深さ0.1～0.2mを測る。埋土はすべて5 Y 6/1灰色シルト1層で、遺物は出土していない。

424-OZ (付図2、図版53・76・77) III区 Y = -53.980kmライン以西、Y = -54.002kmライン以東の第V層中、III区11層上面で検出された水田遺構である。畦畔は検出されていないが、東西方向に走る多数の小溝が検出された。これらの小溝群は「スキ溝」と通称される耕作時の痕跡と考えられるものである。幅0.1～0.15m、深さ0.05m前後を測る。III区10・11層中からは、瓦器椀・瓦質釜・瓦質甕・土師質釜・白磁碗(680・681)・瓦等の小片及び古銭(674・675)等が出土している。

1010-OR (第249・250図、図版52・67) III区西端部に近い Y = -54.028kmラインから西側に位置する流路である。III区 D 05 ER～D 05 CN にかけて左岸が、IV区 L 25 XN～L25 RJ にかけて右岸が検出された。III区 D 05 AP で、左岸の立ち上がりの一部が検出されたが、両岸を検出できた部分はない。III区では左岸の南側にもかなりの範囲で堆積層のオーバーフローが認められた。検出全長59m。III区では最大幅9m以上、IV区では16m以上を測る。ただし、III区北東半部で本流路の右岸が検出されていないところから、III区では ER・DQ 区付近で最大幅が7mを、CO 区付近でも12mを超えることは無い。このため、本流路は当該部分で急激に幅を広げているものと考えられる。深さが1.2m以上に達することは確実であるが、湧水が激しく河床の確認はできなかった。埋土は、最大10層に細分

でき粘土、シルト、細砂～粗砂が複雑に互層を成している。なお、本流路の堆積層の上には、4～5層に細分される耕地化に伴う整地層と考えられる土層が乗っている。埋土中からは弥生時代から中世までの各種土器片が出土しているが、それらのなかで最も所属時期の下がるものに、瓦質釜



第250図 1010-OR 出土遺物実測図 (1/4)

(659)・瓦質鉢がある。(659) は D 05 AP から単独出土したものである。

第IV章 総括

第1節 箕土路遺跡出土の中世土器について

今回の調査で出土した遺物は弥生時代から江戸時代までにわたるが、特に中世の良好な資料がえられた。

箕土路遺跡出土の中世土器には、瓦器椀、土師質皿、土師質釜、瓦質釜、須恵質鉢、瓦質鉢、土師質鉢、須恵質甕、瓦質甕、土師質甕等があるが、ここでは、出土量の最も多い瓦器椀を中心に変遷をたどり、釜、鉢、甕との共伴関係についても考えてみたい。

時期設定

I 期





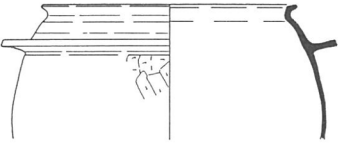



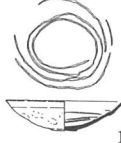
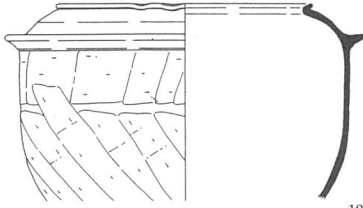





瓦器椀は口径15cm前後、器高6cm前後を測る。体部は内彎しながら立ち上がるが、口縁部は外面横なで調整により外反する。内面体部には密なラセン状のヘラミガキ、見込み部分には平行暗文及び、斜格子暗文を施す。高台は断面台形のものと同三角形のものが混在する。釜、鉢、甕については良好な資料が得られなかった。700-00 下層出土遺物が代表例である。

II 期


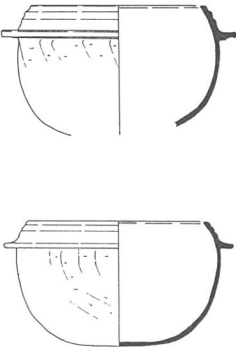
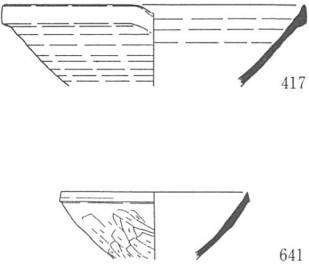

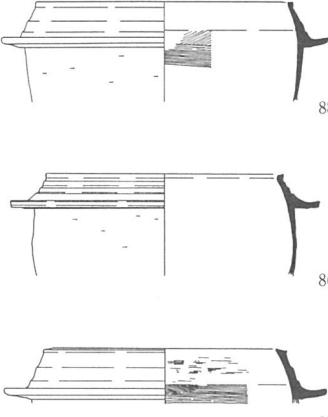
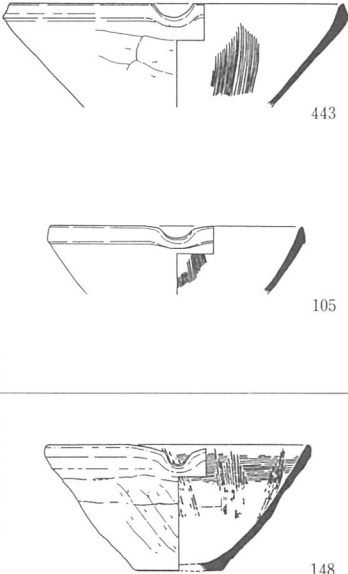
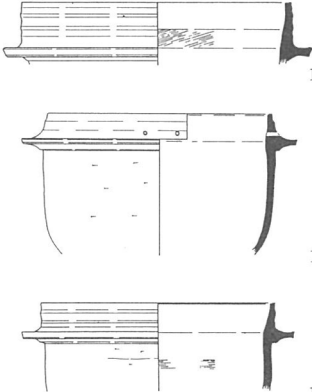
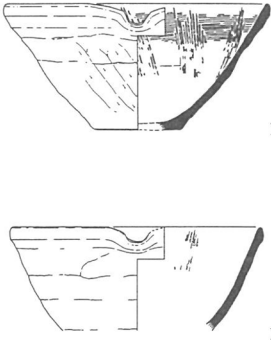
瓦器椀は口径15cm前後、器高4cm前後を測り、器高が低下する。内面体部にはラセン状のヘラミガキ、見込み部分には平行暗文も若干残るがほとんどのものには連結輪状暗文を施す。高台断面形は三角形のものが主流である。釜は瓦質製品は見当らず土師質製品のみである。土師質釜は口縁部に横ナデ調整を施し、端部はくの字状に外反させる。鏝部は横ナデ調整を施し薄く仕上げ、胴部もヘラケズリにより薄く仕上げる。鉢は須恵質製品が主流である。700-00 上層、727-OW 出土遺物が代表例である。

III 期

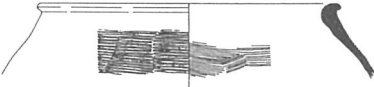
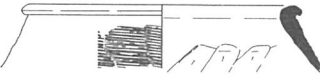
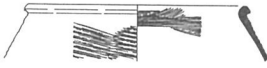

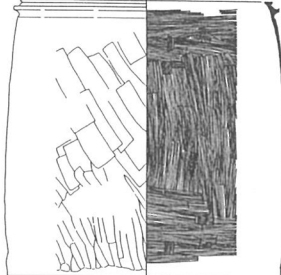


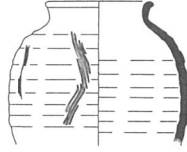


瓦器椀は口径13cm前後、器高3.5cm前後測り、小型化する。内面体部にはラセン状のヘラミガキ、見込み部分にはラセン状暗文、あるいは粗い連結輪状暗文を施す。高台は粘土紐を貼りつけ粗く指ナデしただけで、高台としての機能は失われ始める。釜は瓦質製品は見当たらぬ土師質製品のみである。土師質釜は口縁部に粗い横ナデ、指オサエ調整を施し、

器種 時期	瓦器 椀	釜	鉢
I	 <p>251</p>		
II	 <p>270</p>  <p>272</p>  <p>269</p>	 <p>75</p>  <p>286</p>	 <p>285</p>
III	 <p>116</p>  <p>117</p>	 <p>126</p>	
IV	 <p>470</p>  <p>467</p>	 <p>488</p>  <p>489</p>  <p>490</p>	<p>S=1/8</p>

第251図 土器変遷図(1)

器種 時期	瓦器 椀	釜	鉢
V	 <p>589 592 596</p>	 <p>657 656</p>	 <p>417 641</p>
VI	 <p>99</p>	 <p>88 86 87</p>	 <p>443 105 148</p>
VII	<p>S=1/8</p>	 <p>167 169 166</p>	 <p>148 149</p>

第252図 土器変遷図(2)

甕	その他 (陶器含)
 <p>108</p>  <p>109</p>  <p>111</p>	 <p>96</p>  <p>112 (S=1/16)</p>
 <p>218</p>  <p>(S=1/16) 219</p>	 <p>154</p>  <p>155</p>  <p>161</p>

端部は玉縁状に折り返す。胴部はヘラケズリ調整を施す。鉢は須恵質製品が主流である。824-OW 出土遺物が代表例である。

IV期

瓦器碗は口径12cm前後、器高2.5cm前後を測り、より小型化が進む。口縁部はやや内彎ぎみに立ち上がる。内面体部には粗いラセン状のヘラミガキ、見込み部分には粗い連結輪状暗文、ラセン状暗文を施し、体部ヘラミガキと見込み部分暗文の一体化傾向が始まる。高台はIII期のもより退化が進み痕跡程度に残る。また完全に高台の無くなったものも出現し始める。釜は瓦質製品も出現するが主流は土師質製品である。土師質釜は口縁部に横ナデ調整を施し、端部は玉縁状に肥大させる。鏝部は横ナデ調整を施し端部を丸くおさめ、胴部はヘラケズリ調整で仕上げている。瓦質釜も土師質釜と同様の特徴を持つものである。鉢は須恵質製品が主流である。487-OL (a) 出土遺物が代表例である。

V期

瓦器碗は口径10cm前後、器高2.5cm前後を測り、最も小型化したタイプであり、口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。内面体部部分のヘラミガキと見込み部分のラセン状暗文は完全に一体化する。高台は完全に失われる。釜は瓦質製品が主流となる。口縁部は内彎しながら立ち上がり、外面には段を巡らし、端部は平らに仕上げる。鏝部は横ナデ調整により端部を丸く仕上げるものと平らに仕上げるものがある。胴部はヘラケズリを施し薄く仕上げる。鉢は須恵質製品と瓦質製品が共存する可能性が高く、甕は良好な資料が得られなかった。487-OL (f)、599-OX、867-OS 出土遺物が代表例である。

VI期

瓦器碗は存在しないが瓦器碗の系統を受け継ぐと考えられる瓦質皿がある。釜は土師質製品は見当たらず瓦質製品のみである。口縁部はやや内彎しながら立ち上がり、外面には段を巡らし、端部は平らに仕上げる。鏝部は横ナデ調整により端部を平らに仕上げるものが大半である。胴部はヘラケズリ調整を施し薄く仕上げる。鉢、甕も須恵質、土師質製品は見当たらず、瓦質製品のみである。瓦質鉢は体部がやや開きぎみに立ち上がり、口縁部外側を断面三角形に肥大させる。口縁部は横ナデ、体部はヘラケズリ調整を施す。瓦質甕は口縁部を外側に折り曲げ肥大させる。またその他にも瓦質製品の湯釜、井筒等が出現する。582-OO、822-OW、866-OS 出土遺物が代表例である。

VII期

瓦器碗は存在しない。釜は瓦質製品と土師質製品とが混在するが、土師質釜が主流であ

る。土師質釜は口縁部が直立あるいはやや外反ぎみに立ち上げ、外面に段をめぐらす。鍔部はナデ調整を施し、端部は平らに仕上げるが、Ⅲ期－Ⅳ期のものに比べ短く肥大化する。胴部は粗いヘラケズリ調整を施す。胎土はⅡ－Ⅳ期の土師質釜に比べると粗く、焼成もあまい。鉢は土師質製品が主流であり、体部はやや内彎ぎみに立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。口縁部は横ナデ調整、体部は粗いナデ及びケズリ調整を施す。甕も土師質製品が主流であり、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。肩部はあまり張り出さず、底部は平底である。367-00、383-00、621-OS、548-00、624-00、882-00 出土遺物が代表例である。

以上簡単に変遷を述べたが年代について少し触れておく。Ⅰ期からⅤ期にかけての瓦器碗を中心とした時期は泉州地域には年代の基準となりうる資料はなく、南河内の資料ではあるが尾上氏⁽¹⁾の研究にしたがえばⅠ期は13世紀前葉から中葉、Ⅱ期は13世紀中葉から後葉⁽²⁾、Ⅲ期は14世紀前葉、Ⅳ期は14世紀中葉、Ⅴ期は14世紀後葉から14世紀末の年代が与えられよう。Ⅵ期の資料は堺環濠都市遺跡の第1次焼土上面出土資料⁽³⁾が基準になる。この第一次焼土面は1399年の応永の大火によるものあり、これらの土器と酷似するⅥ期の土器群には15世紀を境としてその前後の年代が与えられよう。Ⅶ期も堺環濠都市遺跡の資料⁽⁴⁾によるところが大きく15世紀後半から16世紀の年代が与えられる。

画期と共伴関係

次に箕土路遺跡の中世土器の変遷の中で認められるいくつかの画期について、瓦器碗、釜、鉢、甕等の共存関係も合わせて触れておきたい。Ⅰ期からⅣ期までは瓦器碗は和泉型で、紀伊型、大和型のはみうけられない。釜は和泉型⁽⁵⁾の土師質製品が主流で、若干紀伊型等の他地域のものが含まれる。鉢は東播系の須恵質製品が主流で瓦質製品はほとんど見当たらない⁽⁶⁾。甕は良好な資料に恵まれなかったがⅠ期段階では須恵質製品が主流をなすことは確実である。Ⅴ期になると釜の形態に大きな変化が見られる。前段階までは一般的な釜は土師質製品が主流であったが、この段階で口縁部に段を巡らす瓦質釜が主流となる⁽⁷⁾。鉢も瓦質製品と須恵質製品とが共伴するが、まだ東播系の須恵質製品が主流である。甕は良好な資料にめぐまれなかったが、瓦質製品が増加する傾向があるものと考えられる。全体的に見てもⅤ期は瓦質製品が増加し始める段階で、瓦質製品への移行期と言える。

Ⅵ期になると瓦器碗が消失するだけでなく、東播系の須恵質製品も姿を消し、土師質製品も小皿のみで釜、鉢、甕等の日常雑器のほとんどは在地産と考えられる瓦質製品で構成

され、瓦質製品の品種も増加し、第一の画期として捉えることができる。また常滑焼の壺、甕は出土量は僅かであるがV期段階で共伴することは確実である。

VII期になると再び釜、鉢、甕は土師質製品が増加し第二の画期として捉えることができる。この時期の土師質製品はI-IV期段階のものより胎土は粗く、焼成もあまく、瓦質製品からの系譜を引くものと考えられる。またこの段階以降は常滑焼の壺、甕のほかに備前焼の鉢、壺、甕が共伴する。この現象は他地域の集落遺跡でも一般的に認められるが、堺環濠都市遺跡や東大阪市所在の神並・西ノ辻遺跡等に比べその出土量は少なく様相を異にしている。また神並遺跡等では備前焼製品は箕土路遺跡VI期段階に出現するようであるが、⁽⁸⁾箕土路遺跡ではVII期段階出現するようである。

以上土器変遷を考える上で二つの画期を設定し得たが、第一の画期までは供膳用土器の椀、皿、煮沸用土器の釜、調理用土器の鉢のそれぞれが瓦器、土師質、須恵質と个性的であったが、第一の画期以降VI期では瓦器椀は消失し、日常雑器のほとんどは瓦質製品一色となり、在地性の強い土器で日常雑器（釜、鉢、甕）のほとんどが構成され、箕土路遺跡の中世土器変遷の中で最も大きな変革時期であると言えよう。

註

- (1) 尾上 実「南河内の瓦器椀」 『藤沢一夫先生古稀記念文化論叢』 1983
- (2) 尾上 実「大阪南部の中世土器－和泉型瓦器椀」 『中近世土器の基礎研究』 日本中世土器研究会 1985
- (3) 樋口吉文「堺中近世環濠都市遺跡発掘調査報告－関西電力営業所用地」 『堺市文化財調査報告第6集』 堺市教育委員会 1980
- (4) 野田芳正「堺環濠都市遺跡発掘調査報告－市之町東4丁 SKT 19地点」 『堺市文化財調査報告書第20集』 1984
- (5) 菅原正明「畿内における土釜の製作と流通」 『文化財論叢』 奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 1983
- (6) 森田 稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯址群を中心に－」 『神戸市立博物館研究紀要』 第3号 1986
- (7) V期において瓦質釜が主流になることは河内長野市所在の三日市遺跡袋状土坑でも確認されている。
尾谷雅彦他『三日市遺跡調査概要II』 三日市遺跡調査会 1986
- (8) 西口陽一 宮崎泰史他『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要・II』 大阪府教育委員会 1986

第2節 中世集落の変遷

箕土路遺跡の集落を考える上で、犬飼堂廃寺との関係は重要であるが、今回の調査では平安時代末の黒色土器片や瓦片が若干出土しているものの、明確な平安時代の遺構は検出されず詳細には把握できなかった。しかし鎌倉時代から江戸時代にかけての遺構についての変遷は、ある程度の範囲で把握できたのでここで簡単にまとめておきたい。

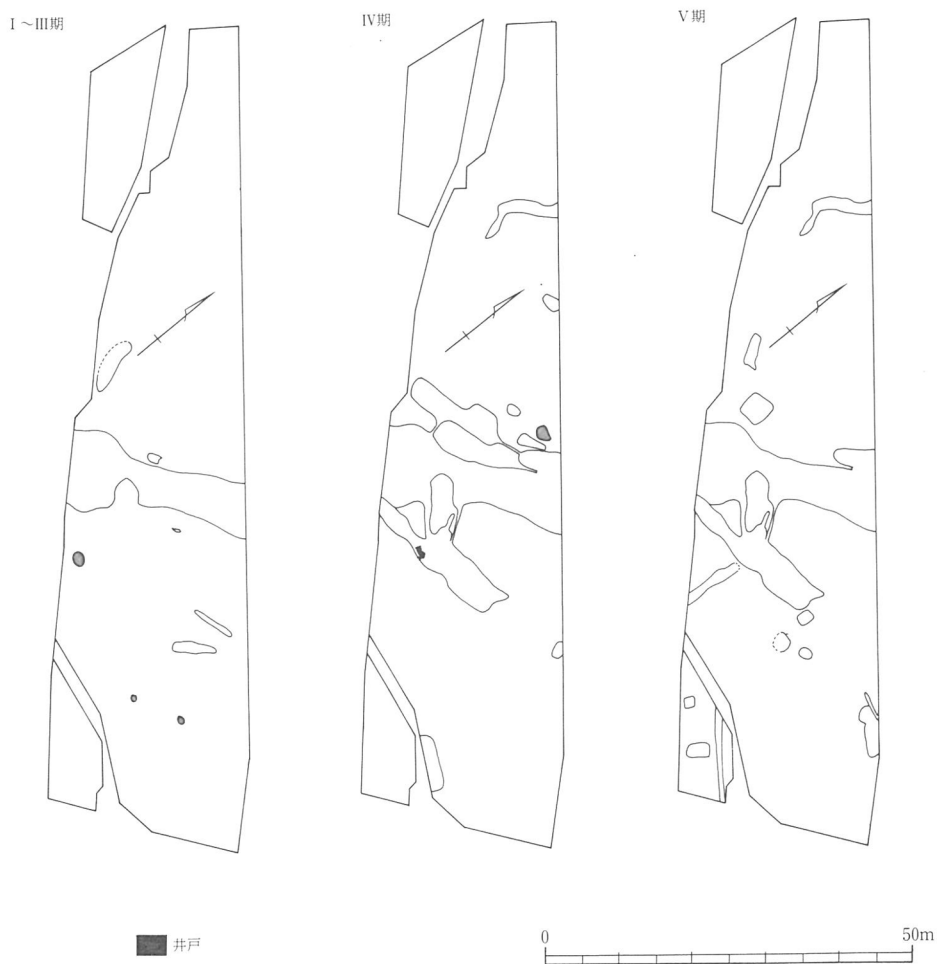
I-V期までの遺構は比較的標高の高い、I-II区でこの時期の遺構の存在は確認されおらず、III区のY=-53.960km~Y=-54.024kmにかけての比較的狭い範囲に集中する、この集中する地区は弥生時代の河川堆積層で湧水層が浅く、水の便を考えた上での選地が予測される。実際に井戸は浅く、曲物を利用したものが多くVI期以降の石組みものに比べて構築は容易であるし、大規模な池群(487-OL)の存在もこのことを物語っている。また487-OLは変遷図に示した通りI-V期の全期に渡り規模を拡大、縮小しながら存在し、この時期の中心的な施設であったことがうかがえる。

次にVI期にはいると、III区では前段階期の遺構群(487-OL等)の集中する地区はV-VI期の間で整地が施され、その上面にこの期の遺構が形成される他、調査区ほぼ全域に渡って遺構が確認されており、集落が拡大していく傾向がうかがえるが、その中心は井戸の集中するII区西端からIII区東端にかけての地域であると考えられる。また調査区の西端IV区では、旧天の川と考えられる河川が確認されており集落をとりまく環境も少しずつ変化していくようである。VI期においては土器変遷の上で大きな画期であることは先に述べたが、井戸構造も井筒に石組みを用いるなどして、前段階とは構造が大きく変化するなど集落変遷の上でも大きな画期として捉えることができよう。さらに井戸廃棄時における祭祀形態をみるとI~V期では廃棄時に完形の瓦器碗を数点入れた物が見られるが、VI期段階では完形の土器を意図的に入れた物はみられず、822-OW例のようにごみ捨場のごとく多数の土器の小片を伴うもの、606-OW例のように竹を突き刺し息抜きとしているもの等があり祭祀形態にも変化がみられるようである。

VII期の集落は調査区内ではVI期と重なり合う部分が多く、さほどの変化はないものと考えられるが、III区中央部付近が水田化(424-OZ)し、II区東南部で区画的性格を持つと考えられる溝が検出されていることなどを考慮すれば集落としては全体的に調査区外に拡大していくことが予測されよう。またこの時期から土師質の甕を利用した埋甕遺構が出現する。

江戸時代（18C代）になるとIII区中央部から西側は水田化していたと考えられるが、中心はII区中央部付近の井戸等の遺構が集中する地域であろう。この遺構が集中する地域では井戸（550-OW）と水桶と考えられる円形土坑（551-OO）が隣接する他、埋め桶が並列して存在しており集落と言うより屋敷地と言うべきものであろう。

以上簡単に箕土路遺跡中世集落変遷について述べたが、この地域の中世集落はV期段階までは和気遺跡等で確認されていたが、VI期段階の集落がある程度把握できた例は今回の調査を除いてほとんど皆無であり、この時期以降の集落は現在の集落の立地と重なりあっている可能性が非常に高いものと考えられよう。



第253図 遺構変遷図（1）



第254図 遺構変遷図 (2)

第3節 井戸の変遷

今回の箕土路遺跡の調査では合計21基の井戸が検出された。井戸の検出範囲は A 01 GA から A 06 ES までの、直線距離にして約120m の範囲内にあり、II 区南東半より山側、III 区北西半より海側では確認されなかった。時代的には鎌倉時代から江戸時代までの井戸が大半を占め、最も新しいものは近年まで使用されている。ここでは井戸の構造上の変遷を中心にまとめることにしたい。

遺跡が段丘辺縁部の標高の低い地点に位置している立地条件によって、地表下の比較的浅い所で涌水層に達することができたと思われ、極端に深く掘り込んだ井戸は認められなかった。基本的に井戸は検出面下において、掘方の最下部に貯水部としての機能を果たす井筒を据え、その上部に井側を設けて水を汲み出す作業上に必要な空間を確保するという構造をとっている。また地上部分には井桁を設けて事故を防ぎ、汲み出し作業用の設備を取り付けたりする。調査において確認できる遺構は検出面下の部分に限られるため、井桁の構造は殆ど知りえない。検出面下では井側以下の構造物が、構築部材の抜き取り、或は破損等によって必ずしも完存せず、また井戸の作り替えの可能性も考えられるため、構築当初の形態を留めているとは限らない。本遺跡検出井戸の構造分類表を掲げたが（第1表～第3表）、これは検出時点の状況から判断したもので、構築当初の構造を必ずしもそのまま反映するものではない。構造の区分はまず検出面下の構造物を井筒と井側に二分し、それぞれを使用材料によって細分した。井筒の材料は曲物側、土師質釜、桶側、石材である。

			477	727	824	945
井	石組	高				
		中				
		低			○	
側	桶側					
	板組	○	○			
井筒	石組					
	桶側					
	曲物側	○	○	○		
	釜				○	

井側の材料は桶側、板材、石材で、石組みについてはその高さを便宜的に0.5m以下を低、0.5m～1.0mを中、それ以上を高とした。井戸の時代について、埋土検出遺物の示す年代は少なくとも井戸の廃絶時期に近いものを含んでいる可能性が高いと考えられるが、構築時期の決定は困難である。ここでは埋土出土の遺物をもとに井戸の下限に近い時期を推定した。大きく中世として包括される時期の井戸には、鎌倉時代後期を中心とした時代（第IV章第1節に述べるI～IV期）と、室町時代

第1表 井戸構造分類表（鎌倉時代）

を中心とした時代（同節のVI～VIII期）との間に構造上の画期が認められた。しかし、遺物量が少なく細かい時期決定が困難な井戸も存在するため、細分を避けて二分するにとどめ、便宜的に鎌倉時代、室町時代と呼び分けた。これに江戸時代以降の時代を加えて三時期に大別した。

鎌倉時代に属すると考えられる井戸は477・727・824・945-OWの4基を数え（第1表）、III区に集中して検出されている。曲物井筒と木製、或は石製井側を用いるのが基本的構造で、掘方内に土師質釜1点を用いて井筒にする例も認められた。477-OWを除いて井戸は比較的小規模である。これは検出された区域が、周辺地域と比較して標高が若干低く、ベースは弥生時代の流路内堆積土（第IX層）で、湧水層が特に浅い部分に存在しているという理由によると思われる。井筒には曲物を使用する例が3基、井側には調整した木製構築部材を組む例が2基確認され、全体的にみてこの時期の井戸は木質の構築材を主として用いていることが分かる。石材の使用は井側の一部に認められる例があるものの、あくまでも付随的に用いられている。477-OWでは井側の部材が意図的に抜き取られていると解される検出状況を示し、利用の可能な板材等は再使用に供されたと思われる。

これらの井戸と周辺遺構との関連は明確には把握し難いが、池遺構487-OLの周辺にのみ集中して検出されていて、当時の生活圏の中心地がIII区の付近に存在している事を伺わせる。

室町時代を中心とした時代に属すると思われる井戸は数量的に最も多く、276・353・370・420・436・437・464・465・563・642・822・825-OWの12基が検出された（第2表）。825-OWは上面のみの検出のため、また563-OWは損壊していると考えられるため、表から除外した。この時期の井戸は位置的にはII区北西半からIII区南東端に分布している。構造的には、桶側井筒の発生や、主として井側に石組みが用いられる等、鎌倉時代の井戸と比較してかなりの変化を遂げている。石組み井側の高さは井戸設定箇所における湧水層の深度にも左右されると思われるが、井戸によって高さにばらつきがある。石組みはいずれも円形に順次積み上げられるが、壁面がほぼ垂直に形成されるものと、下部から上部へ徐々に直径を広げるものがある。前者は主として壁高が1mを越える井戸、後者は主としてそれ以下の井戸にその例が多い。石組み井側の高いものでは、上部が方形を意図して組まれたと推定される例があった。井筒の構造物としては曲物に加えて桶側の使用例が認められ、いずれも本来は容器として機能していた桶の底を抜いたものと思われる。桶側の井筒と石組みの井側を有する例は4基を数えるが、全体的な形状はそれぞれ異なっている。曲

物を井筒に使用する事例は3基に認められたが、そのうち353-OWは前代の系統を継承した井戸と思われる、構造上は鎌倉時代のものと同様に変化が認められない。他の2基は保存状態が不良で詳細は不明ながら、出土状況から石組み井側の内面底部に曲物井筒が据え置かれたと解釈され、鎌倉時代の井筒とは異なった設置方法がとられている。このほか、遺構として設置された状況では検出されなかったが、370-OWの裏込め土、822-OWの埋土中から瓦質井戸枠破片が検出されており、この2基にはこうした既製の井筒もしくは井側が本来は備えられていたとみられ、また前者の場合には、井戸の作り替えの可能性を考える余地がある。

			276	353	370	420	436	437	464	465	642	822
井	石組	高				○	○					○
		中	○					○	○		○	
		低		○							○	
側	桶側											
	板組											
井	石組			○								
	桶側	○						○			○	○
筒	曲物側		○				○		○			
	釜											

第2表 井戸構造分類表（室町時代）

この時期の井戸は前代と比して山側へ拡散し、検出数も増加している。井戸と周辺遺構との関連は明確にし難いが、付属施設として井戸の横に水桶を伴う可能性が考えられる例があった。370-OWの北東には356・375-OOが並び、埋土から板材、炭化物が検出され、本来は木桶が埋め込まれた施設で、また共通する埋土を持つ事から同時期に存在していたと解される。この井戸と桶との間には有機的な関係があり、井戸から汲み出した水を一時的に溜めたと思われる。642-OWは、今回の検出例のうちで掘方の規模も大きく、桶側井筒の上部にテラス状に石材を組むなど、形態的に最も整備されている。

この時期の井戸の特徴は、結桶の発生、及び石組みの発達にある。曲物井筒の使用は一部に残存するも衰退し、桶側の使用が開始される。井側の構築は木質部材のみに頼らなくなり、代わって石組みが積極的に採用されるようになる。こうした構築材の上での変化に伴って井戸の形状も多様化の傾向をみせている。

江戸時代以降の井戸は307・550・606・625・830-OWの5基で(第3表)、出土遺物からいずれも18世紀以後の時期と思われるが、830-OWは比較的最近まで使用されていたらしい。分布範囲は室町時代の井戸と概ね重なっている。構造上で共通の要素がみられるのは550・625・830-OWの3基である。これらの井戸の掘方はほぼ垂直に近く掘り抜かれ、掘方底面に桶側を据えた後に石組みの井側を構築する。

			307	550	606	625	830
井	石組	高			○		
		中		○		○	○
		低					
側	桶側		○	○	○	○	○
	板組						
井筒	石組						
	桶側			○			
	曲物側						
	釜						

第3表 井戸構造分類表(江戸時代)

桶側はいずれも大形で側板が垂直に立ち上がっているのが特徴であり、底板を取り付けた形跡が認められない。当初から井戸専用の構築素材を意図して製作されたと考えられ、井戸の構築は専門的な井戸職人の製作になる可能性が強いと思われる。また、桶側の井側のみが残っていた307-OWの桶側も、形態上はほかの近世井戸と同類とみなす事ができ、本来は桶側の上部に石組み井側を伴っていた可能性も残している。石組みはいずれも中程度である。606-OWは他例と比較して深く、桶側と石組みで構成された井側の下部に、桶側の井筒を有する点で異なっている。桶側は大形ながらも上部が広がる通常の形態を示し、調査では明らかにできなかったが、容器の転用品の可能性を残している。この井戸も桶と石組みとを同等に用いて井側を構成する点において、基本的には他例と共通点が見いだせ、形状の相違点は涌水層の深度、及び桶側を容器から転用するか否かに起因していると思われる。地表部分については830-OWの内部に落ち込んでいた井桁の破片から、これらのタイプの井戸は円形の石製井桁を上部構造に持っていた可能性が強い。なお、河内地方の近世井戸では普遍的に検出される、井側に井戸砕瓦を用いた井戸は検出されず、井戸砕瓦も確認されなかった。瓦の使用については井側として積極的に建造物の中に組み込んだ形跡は認められないが、裏込め土内に破片を混入して補強を図る例があった。また埋土中より瓦の破片または完形品が出土する例が認められ、上部構造の一部に瓦が用いられていた可能性は残している。

江戸時代の井戸の形態は、桶側の大型化によって、形態上は桶側が井側の一部を構成するようになるが、基本的には前代に成立した構築法のひとつを踏襲しつつ、より定形化する

る傾向が伺える。

井戸の廃絶に際しての祭礼の痕跡を顕著に留めていたのは埋土に竹筒を刺してある井戸で、606-OW と642-OW の合計2基が確認された。竹筒はほぼ垂直に立てられており、良好な状態で残存していた606-OW では竹の節が抜いてある事が確認された。民俗学的に「息抜きの竹」として知られる風習と解釈され、少なくとも中世の後半から近世において当地にも存在していた風習である事が伺え、聞き取りによれば岸和田市周辺では同様の習慣が近年まで存続していたという。埋土から竹管の破片が出土した625-OW でもこの風習が行われた可能性がある。

なお、隣接する河内地方の井戸では普遍的な、鎌倉時代において土師質釜を数段に組んで井筒を構成する事例、江戸時代において井戸椀瓦を使用する事例は、今回の調査では検出されなかった。これが地域差、若しくは集落の性格の差異を反映しているのかという問題は今後の課題である。

第4節 まとめ

今回の調査で検出された遺構・遺物は多岐にわたっている。それらの個々については前章で報告し、また、本章第1～3節では今回の調査の中心となった中・近世の遺構・遺物のなかから、中世土器と井戸を取り上げ若干の考察を加えるとともに、中世集落の変遷についても見通しを述べた。ここでは、今回の調査結果を中心に、既往の調査の成果をも踏まえつつ、本遺跡の変遷について大まかな見通しを述べまとめにかえたい。

箕土路遺跡が縄文時代中期にまで遡ることは、第1章でも触れた瓜形文土器の存在から明らかであるが、それ以後、弥生時代後期までの間を埋める遺構・遺物は、現在までのところほとんど認められていない。弥生時代中期の土器が出土することは知られているが、遺構は確認されておらず、遺物の出土も散発的と言わざるを得ない。ただ、今回の調査で出土した土器についても、器壁の磨滅等はほとんど認められず本遺跡内あるいはごく近くに、同時期の遺跡の存在する可能性は強いと考えられる。今回の調査区の南西には、天の川の開折した谷を挟んで、中・後期の大集落である下池田遺跡が存在しており、同遺跡との関係も含め今後の課題である。

本遺跡内において一定のまとまりをもって遺構・遺物が検出されるのは、弥生時代後期になってのことである。弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡は、今回の調査では範囲は狭

いものの I 区で良好な遺物包含層を伴って検出されており、調査区東南部に当該時期の集落が存在することは確実である。古墳時代前期の遺構・遺物は、本遺跡の西部域、字犬飼堂付近においても認められており、この時期には本遺跡内に幾つかの集落が点在していた可能性も考えられる。

古墳時代前期以後平安時代後期までの間は、現在までの調査による限り、遺跡の変遷に断絶があったとさえ考えられるような状況にある。古墳時代後期の遺物を含む土層が、今回の調査区内の I 区で検出されているが、遺物量は少なく、遺構も検出されていない。また、既往の調査によっても、この間の時期の遺構・遺物が検出されたという事実は知られていないのである。

本遺跡内で再び遺構・遺物が顕著に認められるようになるのは、平安時代後期以後のことである。この時期以降、本遺跡内では継続的に集落活動が営まれたものと考えられ、江戸時代までの間に、大規模な断絶現象は認め難い。この点は、本章第 2 節で述べている通りである。

ただし、今回の調査区内では明瞭な平安時代の遺構は検出されておらず、遺物も極めて少ない。この時期の集落の中心は、かつての調査で平安時代後期の瓦溜や、平安時代後期～鎌倉時代と考えられる瓦窯の検出された字犬飼堂付近に求められるものと考えられる。このことは、本章第 2 節で述べられている中世集落の拡大や中心部の移動といった現象も平安時代後期以来の集落変遷の大きな流れのなかで理解すべきものであることを物語っているといえよう。さらに、この字犬飼堂付近は平安時代後期創建と伝えられる犬飼堂廃寺の推定地にあたっており、前述の瓦溜や瓦窯の存在も、当地に寺院址の存在したことを裏付けているともいえる。この点で、本遺跡における平安時代後期以来の集落の変遷は、この中世寺院の動向と無関係ではあり得ず、今回の調査で検出された遺構のなかにも、ミニチュアの花瓶を出土した土坑547-00のように、寺院との関連を想起させるものがある。また、大規模な池跡487-OLの掘削や、検出された井戸には素掘りのものが認められなかったというような事柄も、上述のような環境を考慮に入れて、はじめて理解できるものかもしれない。

鎌倉時代以後の集落変遷は本章第 2 節で論じられており、ここでは再論しない。

今回の調査面積は約7,000m²に及ぶが、これも遺跡全体からみれば極く一部にすぎないことは明らかである。このため、今回の調査の中心となった鎌倉時代以後についても、各時期の集落の広がりについては不明な部分が多い。さらに、検出された遺構には、出土遺物

が細片であったり遺物の出土をみていないために、その詳細な所属時期の比定が困難なものや、その性格を明らかにし難いものも少なくない。それ故、各時期の集落の構造といった面についてもほとんど明らかにできていない。今後、同時期の遺跡との比較検討作業を通して、今回検出された遺構群も再度検討されるべき内容を含んでいると考える。

本報告書は、調査を担当したものの最低の責務として既に失われてしまっている遺構の事実報告に力点を置いて作成してきた。このため、遺物の詳細な分析や、上述した遺跡の構造論・性格論といった点については、極めて不十分なものとなっている。それらを課題として、今後に期したいと思う。

第4表 ピット計測表

No.	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱痕径(cm)	備 考
7	A 07 IH	33×40	14	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
8	A 07 JH	25×26	7	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
9	A 07 IG	22	14	10YR 6/6明黄褐色細砂		
10	A 07 JQ	31×34	11	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質シルト		
11	A 07 KF	40×56	13	7.5Y 6/2 灰オリブ色粘質シルト		
12	A 07 KF	58×66	10	7.5YR 6/2 灰褐色粘質シルト		
13	A 07 KF	34×40	7	7.5YR 6/2 灰褐色粘質シルト		
14	A 07 KF	21×23	8	7.5YR 6/2 灰褐色粘質シルト		
15	A 07 KF	21	6	7.5YR 6/2 灰褐色粘質シルト		
19	A 07 HE	21×26	7	10YR 6/6 明黄褐色粘質シルト	10	
21	A 07 GD	23	10	10YR 6/6 明黄褐色粘質シルト		
25	A 07 GC・HC	52×59	22	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
26	A 07 GC	51×60	15	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
28	A 07 FC	46	9	5Y 7/3浅黄色粘質シルト		
29	A 07 FC	17	4	10YR 4/3暗褐色粘土		
30	A 07 FB	21	11	10YR 4/3暗褐色粘土		
31	A 07 FB	28	18	2.5Y 6/3 にぶい黄色粘質シルト		
32	A 07 FB	17×27	4	10YR 4/3暗褐色粘土		
39	A 06 DY	44×47	16	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質シルト		
40	A 06 EY	46×60	7			
45	A 06 BT	40×52	17	10YR 4/6褐色粘土		
50	A 06 BU	43×47	8	10YR 5/6黄褐色粘土	17×19	
51	A 06 BU	32×42	8	10YR 5/8黄褐色粘土	10	
53	A 06 BU	30×35	4	10YR 5/6黄褐色粘土	15	
55	A 06 AU	25×28	13	10YR 5/6黄褐色粘土	12×16	

No.	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱径径(cm)	備 考
56	A 06 AU	28×33	12	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	12	56-OB の柱穴
57	A 06 AU	25×36	19	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	15×18	56-OB の柱穴
58	A 06 AX	30×32	10	10YR 4/6褐色粘土	10×14	
59	A 06 AV	24×34	13	10YR 4/6褐色粘土	15	56-OB の柱穴
61	A 06 BV	39	14	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土	20	
62	A 06 BV	37	29	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	14×19	56-OB の柱穴
64	A 06 BV	49	6	2.5Y 6/2灰黄色粘土		
65	A 06 BV	33×40	3	10YR 5/2灰黄褐色粘土		
66	A 06 CV	43×69	3	10YR 5/2灰黄褐色粘土		
74	A 06 BV・BW	19×23	13	10YR 5/6黄褐色粘土	15	
76	A 06 BV・BW	42×49	13	10YR 5/6黄褐色粘土	23×28	
78	A 06 BV	25×35	10	10YR 5/2灰黄褐色粘土	10×15	
80	A 06 BV	21×30	16	10YR 4/6褐色粘土	12×13	
81	A 06 AV	28×31	21	10YR 4/6褐色粘土	15	56-OB の柱穴
82	A 06 AV	25×33	14	10YR 4/4褐色粘土	12	
83	A 06 AV	30×35	18	10YR 5/6黄褐色粘土	13×17	56-OB の柱穴
84	A 06 AV	21×32	12	10YR 4/4褐色粘土		
87	A 06 AV	47×51		5Y 5/2灰オリーブ色粘土		
88	A 06 AV	32×42	15	10YR 4/6褐色粘土	17×21	
89	A 06 AV	23×31	9	10YR 5/6黄褐色粘土	13	
91	A 06 AW	25×29	16	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土	11×13	
93	A 06 AV・AW	45	15	10YR 3/1黒褐色粘土	13×15	
94	A 06 AW	41	13	5Y 5/2灰オリーブ色粘土		
95	A 06 AW	26×30	15	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	14	
96	A 06 AW	43	16	7.5YR 3/2 黒褐色粘土		
97	A 06 AV	54×56	21	10YR 4/6褐色粘土		

No	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱痕径(cm)	備 考
98	A 06 AV・AW	47	17	10YR4/4褐色粘土		
99	A 06 AW	29×32	17	10YR 3/4暗褐色粘土		
100	A 06 AV	11以上	7	7.5YR 4/4褐色粘土		
101	A 06 AV	17×31	6	10YR 4/6褐色粘土	12×17	
102	A 06 AV・BV	28×37	12	10YR 5/8黄褐色粘土	12×16	
103	A06AV・AW・BV・BW	57×61	15	10YR 5/6黄褐色粘土		
104	A 06 BV・BW	45	10	10YR 4/6褐色粘土		
105	A 06 AV・BV	27	13	10YR 2/3黒褐色粘土	14	
106	A 06 BW	43×51	19	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	17×20	
107	A 06 BW	53×60	15	10YR 4/6褐色粘土	19×23	
108	A 06 BW	29	15	10YR 3/4暗褐色粘土		
109	A 06 BW	30	13	10YR 4/2灰黄褐色粘土	10	
110	A 06 BW	37×39	21	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土	14×25	
111	A 06 BW	19×35	15	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
112	A 06 BW	45	12	10YR 4/4褐色粘土		
115	A 01 YV	20×26	10	7.5YR 4/4褐色粘土	8	
116	A01 YV・A06 AV	33×60	14	10YR 3/4暗褐色粘土	10	
117	A 06 AV	23×26	16	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土	12	
119	A 06 AW	24	15	10YR 5/6黄褐色粘土	14	
120	A 06 AW	25	20	10YR 4/6褐色粘土	16	
121	A 06 AW	27	18	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	12	
122	A 06 AW	25	12	10YR 5/8黄褐色粘土	9×11	
123	A 06 AW	25×32	13	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	10×16	
124	A 06 AW	37	7	10YR 4/6褐色粘土		
125	A 06 AW・AX	30×47	7	7.5YR 5/6明褐色粘土		
126	A 06 BX	20×34	8	10YR 5/8黄褐色粘土		

No.	地区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋土	柱径 (cm)	備考
127	A 06 AX・BX	42×63	11	10YR 5/6黄褐色粘土		
128	A 06 BX	28×41	13	10YR 5/6黄褐色粘土	13×31	
129	A 06 BX	25×40	11	10YR 4/6褐色粘土		
130	A 06 BX	16×23	11	10YR 4/6褐色粘土		
131	A 06 BX	39×57	10	10YR 5/6黄褐色粘土		
132	A 06 BX	20	19	10YR 4/6褐色粘土		
133	A 06 BX	29×41	12	10YR 5/6黄褐色粘土	15×19	
134	A 06 BX	40×63	11	10YR 5/6黄褐色粘土		
135	A 06 BX	22	12	10YR 5/6黄褐色粘土	15	
139	A 01 YX	20×30	10	10YR 4/4褐色粘土		
141	A 06 AX	46×50	18	10YR 4/6褐色粘土	15×18	
142	A 06 AW	35×46	8	10YR 5/6黄褐色粘土	16	
143	A 06 AW	25×27	12	10YR 4/6褐色粘土	10	
144	A 06 AW	33×40	7	10YR 5/8黄褐色粘土		
145	A 06 AW	44×55	9	10YR 5/6黄褐色粘土		
146	A 06 AW	16×23	5	10YR 6/8明黄褐色粘土		
149	A 06 AW	29×32	12	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	16×18	
150	A 06 AW	28×42	16	10YR 5/6黄褐色粘土	18	
151	A 06 AW	20×32	13	10YR 4/6褐色粘土	10	
152	A 06 AW	39×43	10	10YR 4/6褐色粘土	17	
153	A 06 AW	39	13	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
154	A 01 YW	28	11	10YR 4/6褐色粘土	19	
155	A 01 YW	28×31	11	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土	12	
156	A 01 YX	22×30	19	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土	11	
157	A 01 YW・A 06 AW	35×47	9	7.5YR 4/6褐色粘土		
158	A 06 AW	37×48	12	7.5YR 4/6褐色粘土		

No	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
159	A 06 AV	22×27	27	10YR 4/4褐色粘土	13×15	56-OB の柱穴
160	A 06 AV	20	6	7.5YR 4/4褐色粘土		
161	A 06 AV・A01 YV	22	7	10YR 3/4暗褐色粘土		
162	A 01 YV	17	7	10YR 4/6褐色粘土		
163	A 01 YV	18	11			
164	A 06 AV	29×33	20	10YR 4/6褐色粘土	13×16	56-OB の柱穴
165	A 06 AU・AV	19	10	7.5YR 4/6褐色粘土		
167	A 06 AU	23	8	2.5Y 4/1黄灰色粘土		
168	A 06 AU	17	21	10YR 4/4褐色粘土		56-OB の柱穴
169	A 06 BW	27×33	19	10YR 4/6褐色粘土	16	
179	A 06 BV	22×25	6	10YR 4/4褐色粘土		
218	A 01 VT	28	16	10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト		埋土から瓦器腕片が出土
220	A 01 WT	19	13	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		埋土から土師質土器片が出土
221	A 01 WT	13×30	15	10YR 5/2灰黄褐色粘土		埋土から瓦質土器片が出土
222	A 01 WT	16×25	14	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土		埋土から瓦器腕片が出土
223	A 01 WT	9×12	10	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
224	A 01 WT	20×22	6	10YR 4/1褐灰色粘土		
225	A 01 WT	16	8	10YR 3/1 黒褐色粘質シルト		埋土から瓦器腕片が出土
226	A 01 WT	23×27	15	10YR 4/2灰黄褐色粘土	12	
227	A 01 WT	16×23	15	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト	8	
228	A 01 WT	18	8	10YR 4/6褐色粘土		埋土から土師質土器片が出土
229	A 01 WS	18×22	12	10YR 5/6黄褐色粘土	9	
230	A 01 WS	14	8	10YR 4/6褐色粘土		
231	A 01 VS	17	9	2.5Y 5/3黄褐色粘土	13	
232	A 01 WS	25	41	10YR 4/6褐色粘土	10	柱根が炭化して残存
233	A 01 WS	21	32	10YR 7/1灰白色粘土	14	埋土から瓦器腕片が出土

No	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
234	A 01 WS	21	26	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土	12	
237	A 01 WS	29	14	10YR 5/1褐灰色粘質シルト		
238	A 01 WS	17	6	10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト		埋土から瓦器碗片が出土
239	A 01 WS	17	18	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト	9	
240	A 01 WS	23×29	8	10YR 4/1褐灰色シルトと 10YR 4/4褐色粘土がまじる		
241	A 01 WS	23×27	21	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土	14×23	
242	A 01 WS	15	13	10YR 4/1褐灰色粘土		
244	A 01 WS	19	8	10YR 4/4褐色粘土	13	
245	A 01 WS	18×29	5	10YR 5/2 にぶい黄褐色粘土		
246	A 01 WS	16	8	10YR 5/1褐灰色粘土	12	
247	A 01 XS	21×25	14	10YR 5/6黄褐色粘土	11	埋土から瓦器碗片が出土
248	A 01 XS	11×13	7	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
249	A 01 XS	12×15	9	10YR 4/1褐灰色粘質シルト		
250	A 01 XS	13×25	8	10YR 5/1褐灰色粘土		
251	A 01 XS	20	10	10YR 5/2灰黄褐色粘土		
252	A 01 XS	20×31	8	10YR 4/2灰黄褐色粘土	12	
255	A 01 XT	20	9	10YR 4/2 灰黄褐色粘質シルト		
256	A 01 XT	14×19	10	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
257	A 01 XT	13×17	5	10YR 4/1褐灰色粘質シルト		
258	A 01 XT	15×30	7	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
259	A 01 XT	18×24	10	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
260	A 01 XT	23	10	10YR 4/2 灰黄褐色粘質シルト		
262	A 01 WU	27×40	4	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土	13×18	
263	A 01 WU	24×27	30	10YR 5/6黄褐色粘土	10	
264	A 01 XU	41×43	9	10YR 3/2黒褐色粘土		
265	A 01 XU	21×24	15	10YR 2/3黒褐色粘土		

No.	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
266	A 01 XU	14	8	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
267	A 01 XV	26×29	5	10YR 4/4褐色粘土	17	
268	A 01 XU	19	8	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質シルト		
270	A 01 XU	13	11	10YR 4/2灰黄褐色粘土		
271	A 01 XU	16×20	9	10YR 4/2灰黄褐色粘土		
272	A 01 XU	21×32	13	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土	14×19	
273	A 01 XU	31×34	15	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
278	A 01 XR	23	6	2.5Y 5/2暗灰黄色粘土		
279	A 01 VR	15×20	28	10YR 4/1黄灰色粘土		
280	A 01 WR	32×33	35	10YR 7/1灰白色粘土	13×15	
281	A 01 VR	20×31	18	10YR 4/2灰黄褐色粘土	11	埋土から土師質土器片が出土
282	A 01 VR	18×25	不明	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
283	A 01 WR	23×31	19	10YR 4/1褐灰色粘土	9×17	
284	A 01 WR	29×41	20	2.5Y 6/1黄灰色粘土	21×26	埋土から陶器片が出土
287	A 01 XQ	25×33	17	10YR 4/2灰黄褐色粘土		
294	A 01 XS	16×20	7	10YR 4/1褐灰色粘質シルト		
295	A 01 VT	22×26	43	10YR 4/2灰黄褐色粘土 10YR 5/3にぶい黄褐色粘土	8	柱根が一部炭化状態で残存。 掘方埋土から、瓦器碗片、 瓦質土器片、土師質皿片、 陶器片出土
296	A 01 SO	31×35	3			
306	A 01 YQ	41	14	10YR 4/4褐色粘土		
309	A 01 XT	12×29	4	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト	11	
320	A 01 XT	23×28	6	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
324	A 01 TL	38×53	19	10YR 5/2 灰黄褐色砂質シルト		
325	A 01 TL	17×25	5	10YR 5/2 灰黄褐色砂質シルト		
326	A 01 TL	21×31	5	2.5Y 6/2 灰黄色砂質シルト		
327	A 01 TL	24×26	7	10YR 5/2 灰黄褐色砂質シルト		
328	A 01 TL	24	15	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		

No	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
329	A 01 TL	10×16	4	10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト		
330	A 01 TL	19×21	13	10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト		
331	A 01 TL	17	6	10YR 4/4褐色粘質シルト		
332	A 01 TL	16	8	10YR 5/8黄褐色粘土		
333	A 01 TL	17×20	6	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質シルト		
334	A 01 TL	23	9	10YR 6/6 明黄褐色粘質シルト		
335	A 01 TM	30×45	19	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘土		
336	A 01 TM	28	11	10YR 6/6 明黄褐色粘質シルト		
337	A 01 TM	13×17	7	5Y 6/2 灰オリーブ色粘質シルト		
339	A 01 TL	19×27	10	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘土		
340	A 01 TL・TM	16×20	4	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘土		
341	A 01 SL	19	4	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘土		
343	A 01 SL	27×33	8	10YR 5/2 灰黄褐色砂質シルト		大きさ10cm程度の河原石を掘方底部に据える
347	A 01 SK	17×20	7	10YR 4/6褐色粘土		大きさ10cm程度の河原石を掘方底部に据える
350	A 01 UM	18	5	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
351	A 01 UM・UN	17×19	10	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
352	A 01 UN	24×27	5	2.5Y 6/3 にぶい黄色砂質シルト		
355	A 01 SN	34×38	15	10YR 6/2 灰黄褐色砂質シルト		56-OB の柱穴
357	A 01 VN	16	3	10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト		
361	A 01 TM	20×24	3			
362	A 01 UN	19×21	6	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土		
364	A 01 UO	30×35	9	10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト		
365	A 01 UO	20×27	7	10YR 5/3 にぶい黄褐色砂質シルト		
366	A 01 UN	23×25	23	10YR 6/6明黄褐色粘土	10	355-OB の柱穴。柱根が炭化して残存
368	A 01 SL・TL	19×22	8	10YR 3/4暗褐色粘土		
371	A 01 TN	23×35	5	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質シルト		

No	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱痕径(cm)	備 考
374	A 01 SN	25×37	4	10YR 6/6明黄褐色粘土		
381	A 01 SM	28	26	2.5Y 5/1黄灰色粘土	10	355-OBの柱穴。柱根が炭化して残存。埋土から染付片が出土
384	A 01 QN	9×11	3	10YR 5/2灰黄褐色砂質土		
385	A 01 QN	10×11	2	10YR 5/2灰黄褐色砂質土		
386	A 01 QN	15×20	4	10YR 5/2灰黄褐色砂質土		
387	A 01 RN	18×21	7	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
388	A 01 QN	13×18	5	10YR 5/6黄褐色粘土		埋土から瓦質釜片、土師質甕片が出土
389	A 01 QN	12×21	7	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
390	A 01 QN	11×18	4	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
391	A 01 QN	13	6	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
392	A 01 QN	20×36	4	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
393	A 01 QN	31×37	16	10YR 5/8黄褐色砂質土		
394	A 01 QN	15×22	3	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
395	A 01 QN	15	11	7.5YR 5/8明褐色粘土		
396	A 01 QN	17×20	3	7.5YR 5/8明褐色粘土		
397	A 01 QN	12×17	9	10YR 4/1褐灰色粘土		
398	A 01 QN	27	8	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土		
403	A 01 RM・RN	19×20	6	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
421	A 01 XT	12×14	3	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
422	A 01 YS	16	3	10YR 4/2灰黄褐色粘土		
427	A 01 HB	22×26	17	10YR 6/3 にぶい黄橙色粘質シルト		
428	A 01 IC	41×45	27	5Y 5/1灰色砂質シルト		428-OBの柱穴。大きき30cm程度の河原石を根石とする。埋土から土師質釜片が出土
429	A 01 ID	28	20	7.5Y 6/1灰色粘質シルトと 2.5Y 6/8明黄褐色粘質シルト の混合		428-OBの柱穴。埋土から瓦質釜片が出土
430	A 01 JD	50×52	33	2.5Y 6/1黄灰色粘質シルト		428-OBの柱穴。埋土から土師質皿片が出土
433	A 01 JD	26×31	24	5Y 6/1灰色砂質シルト 2.5Y 6/6明黄褐色弱い粘質シルト 10YR 7/6明黄褐色弱い粘質シルト	15	428-OBの柱穴。大きき30cm程度の河原石、2個を根石とする。埋土より瓦器碗片が出土
452	A 07 PH	30	3	2.5Y 7/2灰黄色細砂シルト		

No	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱痕径(cm)	備 考
374	A 01 SN	25×37	4	10YR 6/6明黄褐色粘土		
381	A 01 SM	28	26	2.5Y 5/1黄灰色粘土	10	355-OBの柱穴。柱根が炭化して残存。埋土から染付片が出土
384	A 01 QN	9×11	3	10YR 5/2灰黄褐色砂質土		
385	A 01 QN	10×11	2	10YR 5/2灰黄褐色砂質土		
386	A 01 QN	15×20	4	10YR 5/2灰黄褐色砂質土		
387	A 01 RN	18×21	7	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
388	A 01 QN	13×18	5	10YR 5/6黄褐色粘土		埋土から瓦質釜片、土師質甕片が出土
389	A 01 QN	12×21	7	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
390	A 01 QN	11×18	4	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
391	A 01 QN	13	6	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
392	A 01 QN	20×36	4	10YR 5/2 灰黄褐色砂質土		
393	A 01 QN	31×37	16	10YR 5/8黄褐色砂質土		
394	A 01 QN	15×22	3	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土		
395	A 01 QN	15	11	7.5YR 5/8明褐色粘土		
396	A 01 QN	17×20	3	7.5YR 5/8明褐色粘土		
397	A 01 QN	12×17	9	10YR 4/1褐灰色粘土		
398	A 01 QN	27	8	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土		
403	A 01 RM・RN	19×20	6	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
421	A 01 XT	12×14	3	10YR 4/1 褐灰色粘質シルト		
422	A 01 YS	16	3	10YR 4/2灰黄褐色粘土		
427	A 01 HB	22×26	17	10YR 6/3 にぶい黄橙色粘質シルト		
428	A 01 IC	41×45	27	5Y 5/1灰色砂質シルト		428-OBの柱穴。大きき30cm程度の河原石を根石とする。埋土から土師質釜片が出土
429	A 01 ID	28	20	7.5Y 6/1灰色粘質シルトと 2.5Y 6/8明黄褐色粘質シルトの 混合		428-OBの柱穴。埋土から瓦質釜片が出土
430	A 01 JD	50×52	33	2.5Y 6/1黄灰色粘質シルト		428-OBの柱穴。埋土から土師質皿片が出土
433	A 01 JD	26×31	24	5Y 6/1灰色砂質シルト 2.5Y 6/6明黄褐色弱い粘質シルト 10YR 7/6明黄褐色弱い粘質シルト	15	428-OBの柱穴。大きき30cm程度の河原石、2個を根石とする。埋土より瓦器椀片が出土
452	A 07 PH	30	3	2.5Y 7/2灰黄色細砂シルト		

No	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱径径 (cm)	備 考
455	A 07 QJ	27	2	10YR 6/2 灰黄褐色細砂		
456	A 07 QJ	31	3	2.5Y 7/3 にぶい黄色細砂		
458	A 07 PH	28	3	10YR 6/2 灰黄褐色細砂		
460	A 07 QI	32	3			
471	A 07 OG	30×38	4			
472	A 07 OG	33	5			
480	D 05 EW	35	16	10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト (2.5Y 6/8 明黄褐色シルト ブロック混り)	13	480-OF の柱穴
481	D 05 EV	36×38	18	10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト (2.5Y 6/8 明黄褐色シルト ブロック混り)	11	480-OF の柱穴
482	D 05 EV	35×44	12	10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト (2.5Y 6/8 明黄褐色シルト ブロック混り)	19×21	480-OF の柱穴
483	D 05 EU	33×38	12	10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト (2.5Y 6/8 明黄褐色シルト ブロック混り)	15	480-OF の柱穴
484	D 05 EU	40	14	10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト (2.5Y 6/8 明黄褐色シルト ブロック混り)	16	480-OF の柱穴
491	A 01 NF	20×22	10	5Y 6/1 灰色粘質シルト	7×8	
492	A 01 NF	20	4			
511	A 01 MC	11×28	9	5YR 6/1 褐灰色粘質シルト		埋土から瓦質釜片が出土
512	A 01 MC	23×26	12	2.5Y 7/2 灰黄色粘質シルト	5	
513	A 01 MC	23×25	10	2.5Y 7/2 灰黄色粘質シルト	11	埋土から瓦器碗片が出土
514	A 01 MC	24×35	15	5YR 6/1 褐灰色粘質シルト		
515	A 01 MC	20×24	11	5Y 7/4 浅黄色粘質シルト	15	
516	A 01 MC	21	5	5Y 5/1 灰色粘質シルト		
517	A 01 MC	17×26	8	7.5Y 6/2 灰褐色粘土		
518	A 01 MC	28×32	22	2.5Y 7/3 浅黄色粘土		
519	A 01 MC	24×27	15	2.5Y 6/1 黄灰色粘土 (細砂混り)		
520	A 01 MC	33×36	13	5Y 6/2 灰オリブ色粘土	9	
521	A 01 MC	12×15	7			
522	A 01 MC	18×19	10	10YR 7/1 明褐灰色シルト	8	
523	A 01 MC	20×22	13	2.5Y 6/1 黄灰色粘土	10	

No	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
524	A 01 MC	28×30	19	2.5Y 6/2灰黄色シルト	9	掘方底部に大きさ10cm程度の河原石を据えた上に、平瓦片をのせて根石とする。埋土から瓦片が出土
525	A 01 MC	27×44	12	7.5Y 6/1灰色砂質シルト		
526	A 01 MC	13	17	2.5Y 6/2灰黄色シルト (炭化物焼土ブロック混り)		
528	A 01 ND	17	12	10Y 6/1灰色シルト		埋土から瓦質釜片が出土
529	A 01 ND	22	14	5Y 5/1灰色シルト	10	
530	A 01 ND	27	16	5Y 6/2灰色粘質シルト	12	
531	A 01 ND	21×32	2			
532	A 01 NE	30×33	8	10YR 5/8黄褐色粘土と 10YR 5/1褐灰色シルトの混合		埋土から瓦器碗片、土師質皿片が出土
533	A 01 NE	22×30	7	5Y 6/1灰色シルト 10YR 6/6明黄褐色粘土		
534	A 01 NE	30×32	5			
535	A 01 NE	17×24	15	10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト	9	埋土から土師質釜片が出土
536	A 01 NE	20	7	2.5YR 6/1黄灰色粘土		
537	A 01 NE	30	2	5Y 6/1灰色粘土		
538	A 01 NE	17	8	5Y 4/1灰色粘土		
539	A 01 NE	17×27	3			
541	A 01 OD	13×15	11	5YR 5/2 灰褐色砂質シルト(細礫混り)		
542	A 01 OD	21	13	7.5YR 5/1褐灰色シルト		
543	A 01 OD	22×32	13	5Y 6/1灰色シルト		
544	A 01 OD	14	12	10YR 4/1褐灰色粘土 (焼土・炭化物混り)		
567	A 01 IC	22	23	10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト	11	
568	A 01 IC	22×24	16	10YR 5/2 灰黄褐色砂質シルト	8	
569	A 01 IC	22×27	16	10YR 6/4 にぶい黄橙色砂質シルト		
570	A 01 IC	18×20	10	10YR 6/3 にぶい黄橙色砂質シルト		
586	A 01 NE	32×37	4	5Y 6/2 灰オリーブ色砂質シルト	13×15	
587	A 01 NE	21	8	2.5Y 6/2灰黄色シルト	7×10	
589	A 01 NE	26×27	8	2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト	14	

No	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
590	A 01 NE	9	2			
591	A 01 NE・OE	29×33	10	7.5YR 5/3にぶい褐色シルト	12×15	
592	A 01 ND	17×18	10	5YR 5/2灰褐色シルト	12	
594	A 01 OD	27×31	10	2.5Y 5/1 黄灰色粘土 (細礫混り)	13	
595	A 01 ND	18	12	5Y 6/1灰色粘土	8	埋土から瓦質釜片が出土
610	A 06 HW	22	8	7.5YR 5/1褐灰色シルト	8	
612	A 06 HW	31×38	8	7.5YR 5/1 褐灰色粘質シルト	13	
614	A 06 GW	30×33	5	2.5Y 5/2明灰黄色細砂		
616	A 06 GW	25	5	2.5Y 7/2灰黄色シルト		
627	A 06 FV	34×40以上	9	7.5YR 7/1明褐灰色シルト		
630	A 06 EU	36×40	5			
631	A 06 EU	22	12	5YR 5/2灰褐色細砂		
632	A 06 DT	27	2	7.5YR 7/3にぶい橙色粘土		
643	A 06 DU	28×32	4	2.5Y 6/1黄灰色粘質シルト		
644	A 06 CU	35×38	4	2.5Y 6/1黄灰色粘質シルト		
645	A 06 CU	24×27	8	2.5Y 6/1黄灰色粘質シルト	10×15	
646	A 06 CU	26×30	10	2.5Y 6/1 黄灰色細礫混り粘質シルト	12	
647	A 06 CU	13×23	8	2.5Y 6/1黄灰色粗砂	10	
648	A 06 CU	28	8	2.5Y 6/2灰黄色粘質シルト		
649	A 06 CU	24	9	2.5Y 6/4 にぶい黄色粘質シルト	10	
670	A 06 CW	34×38	11	2.5Y 7/3浅黄色粘質シルト	12×14	
671	A 06 CV・CW	21×25	12	7.5YR 6/1褐灰色粘質シルト		
672	A 06 CV	25	13	7.5YR 6/1褐灰色粘質シルト	12	
673	A 06 CV・CW	23	10	7.5YR 6/1褐灰色粘質シルト	15	
677	A 07 PL	17×19	2	2.5Y 6/1黄灰色粘土		
678	A 07 PL	18	3	2.5Y 6/1黄灰色粘土		

No	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱径径(cm)	備 考
679	A 07 PL	42×44	7	10YR 4/2 灰黄褐色粘土 (炭化物合)		
680	A 07 PL	26×55	3	2.5Y 6/1黄灰色粘土		
681	A 07 PL	15×42	6	10YR 4/2 灰黄褐色粘土 (炭化物合)		
682	A 07 PK	17×25	6	2.5Y 6/1黄灰色粘土		
683	A 07 QK	15	8	10YR 5/1褐灰色粘質シルト		
684	A 07 QK	14	13	7.5YR 5/1褐灰色粘土 7.5YR 4/1褐灰色粘土		
685	A 07 PK	18×22	4			
686	A 07 PK	13×15	5	2.5Y 5/1黄灰色粘土		
687	A 07 PK	22	11	10YR 6/1褐灰色粘質シルト		
688	A 07 PK	22	12	10YR 5/1褐灰色粘質シルト		
690	A 01 LE	17	10	7.5Y 5/1 灰色粘土 (細礫混り)	8	埋土から土師質釜片、土師質甕片が出土
691	A 01 LF	45	12	2.5Y 6/1 黄灰色粘質シルト (細礫混り)	15	埋土から瓦片が出土
695	A 01 LF	25	8	10YR 5/2灰黄褐色粘土	10×13	
696	A 01 LG	22×23	7	7.5Y 5/1灰色シルト	8	埋土から土師質釜片、瓦器腕片が出土
698	A 07 PJ	12×14	5	7.5YR 5/1 褐灰色粘質シルト		
702	A 01 MC	26×35	21	2.5Y 6/1黄灰色砂質シルト		埋土から土師質釜片、瓦器腕片が出土
704	A 01 KC	52	10	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
705	A 01 KC	60	7	10YR 5/1褐灰色粘質シルト		
706	A 01 KC	53	10	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
710	A 07 OG	17	8	7.5YR 4/2褐灰色シルト (炭化物合) 2.5Y 6/3にぶい黄色シルト		
715	A 01 UL	19	8	10YR 5/3 にぶい黄褐色砂質シルト		
721	A 01 UL	26×30	11	10YR 7/1灰白色砂質シルト	14×15	
723	A 01 LF	57×65	11	10YR 7/1灰白色砂質シルト	38	埋土から土師質釜片、瓦器腕片が出土
724	A 01 LD	27×29	9	10YR 6/3 にぶい黄橙色砂質シルト	14	埋土から土師質土器片が出土
725	A 01 LG	26×33	20	5Y 6/3オリーブ黄色極細砂	12	
726	A 01 LG	18	13			

No	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱径径(cm)	備 考
728	A 01 LF	19	7	2.5Y 6/4にぶい黄色シルト		
729	A 01 LF	16	3			
734	A 01 MF	32	20	10YR 6/1褐色シルト	23	
736	A 01 NE	20×26	16	2.5Y 7/6明黄褐色シルト混り 2.5Y 6/1黄灰色粘土	6×9	
738	A 01 KA	22×31	7	10YR 6/6 明黄灰色砂質シルト		
739	A 01 KA	20	22	10YR 7/3 にぶい黄橙色砂質シルト	10	
740	A 01 KA	20×23	15	10YR 7/1灰白色砂質シルト		
745	A 01 JC	20	17	10YR 6/3 にぶい黄橙色砂質シルト		埋土から瓦器碗片が出土
746	A 01 JC	17	14	10YR 6/3 にぶい黄橙色砂質シルト		埋土から土師質土器片が出土
747	A 01 JC	23	19	10YR 6/4 にぶい黄橙色砂質シルト		
748	A 01 JC	19×22	7	10YR 6/2 灰黄褐色砂質シルト	10	
749	A 01 KC	13	10	10YR 7/1灰白色粘土		
750	A 01 JC	36	13	10YR 6/2 灰黄褐色砂質シルト		
751	A 01 JD	14	8	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質シルト	9	
752	A 01 JD	13×15	5	10YR 6/2 灰黄褐色砂質シルト		
754	A 01 JD	23×26	18	10YR 7/1灰白色砂質シルト		埋土から、瓦器碗片が出土
765	L 25 VN	35×40	6	2.5Y 6/2灰黄色シルト	15	765-OBの柱穴
766	L 25 VM	53×57	25	2.5Y 7/4浅黄色シルト	20	765-OBの柱穴。埋土から須恵器片、土師器片が出土
767	L 25 VM	40	21	7.5YR 6/2 灰褐色粘質シルト	14	765-OBの柱穴。埋土から須恵器片、土師器片が出土
768	L 25 UL	32×35	10	2.5Y 6/2灰黄色シルト	13	768-OBの柱穴
769	L 25 UL	51×53	12	2.5Y 7/3浅黄色シルト		765-OBの柱穴
770	L 25 UL	52×66	8	5Y 7/3浅黄色シルト	27×30	768-OBの柱穴
771	L 25 UL	52×66	14	5Y 7/3浅黄色シルト	20	
772	L 25 TL	40	30	10YR 6/1 褐色シルト	16	768-OBの柱穴
773	L 25 TL	27	6	5Y 7/3浅黄色粘質シルト		
774	L 25 TK	32	30	2.5Y 5/1黄灰色シルト	11	768-OBの柱穴。埋土から須恵器片、土師器片が出土

No.	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱径 (cm)	備 考
775	L 25 TK	32	20	5YR 5/2 灰褐色シルト (粗砂混り)	8	768-OB の柱穴。埋土から土師器片が出土
776	L 25 TK	16	4	2.5Y 5/2 暗灰黄色粘質シルト		
778	L 25 TL	16×21	12	7.5YR 5/3 にぶい褐色シルト		
779	L 25 TL	16	8	2.5Y 6/2灰黄色シルト	6	768-OB の柱穴
780	L 25 TL	31	12	10YR 6/1褐灰色細砂		
785	D 05 DU	15	8		6	
786	D 05 DU	17×19	6	2.5Y 5/6黄褐色シルト	6	
787	D 05 EU	27	3			
788	D 05 DU	18	21	10YR 5/1褐灰色シルト	8	
790	D 05 GW	27×36	11	2.5Y 6/2灰黄色シルトと 10YR 6/8明黄褐色シルトの混合	14	
791	D 05 FW	17	19	5Y 6/1灰色粘質シルト	11	
792	D 05 GW	15×20	19	10Y 6/1灰色粘質シルト	9	
793	D 05 GW	22	19	5Y 6/4オリーブ黄色細砂	10	
794	D 05 GW	50×54	4	2.5Y 6/2灰黄色粘土		大きき15cm程度の河原石を根石とする
795	D 05 FW	19×21	18	2.5Y 6/2灰黄色粘質シルト	9	
796	D 05 FX	26×28	10	2.5Y 6/8明黄褐色シルト (2.5Y 5/1黄褐色粘土混り)	12	
797	D 05 FX	29×32	4	7.5Y 6/3 オリーブ黄色粘質シルト		大きき15cm程度の河原石 3個を根石とする
798	L 25 UM	29	30	2.5Y 6/1黄灰色シルト	15	埋土から土師器片が出土
800	D 05 GW	26×36	2	2.5Y 5/1黄灰色粘質シルト		大きき10cm程度の河原石を根石とする。埋土から瓦質土器片、瓦器碗片が出土
803	A 07 NF	27×40	12	7.5YR 4/1褐灰色粘質シルト		
804	A 07 OG・PG	17	11	7.5YR 4/1褐灰色粘質シルト		
806	A 01 HA	20×22	8	10YR 6/3 にぶい黄橙色粘質シルト	7	
807	A 01 GB	24	13	10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト	9×11	
819	D 05 HY	37×52	5	10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト		
845	A 01 NC	24×30	10			
846	A 01 OC・OD	23×30	23	10YR 5/4 にぶい黄褐色細砂	11	

No.	地 区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋 土	柱痕径(cm)	備 考
848	A 01 NC	25×30	10		10	
849	A 01 NC	45×51	8	2.5Y 5/2 暗灰黄色粘質シルト		
850	A 01 OC	25×27	5			
851	A 01 NC	32	12	2.5Y 5/3黄褐色シルト	13	埋土から土師質小皿 9 枚が 出土
852	A 01 NC・OC	35×37	14	5Y 5/2灰オリーブ細砂	15	
898	D 05 EQ	44	29	10YR 5/1 褐灰色粘質シルト		
899	D 05 ER	37×40	11	2.5Y 6/3 にぶい黄色砂質シルト		
900	D 05 ER	19	6			
901	D 05 ER	30	15	2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト		
902	D 05 ER	30	5			埋土から土師質土器片が出 土
903	D 05 ER	27×38	36	10YR 4/2灰黄褐色粘質シルト		
906	D 05 EQ	19×25	4	10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質シルト		
908	D 05 EP・EQ	18	4			
910	D 05 EQ	17×19	3			埋土から瓦質甕片、瓦質釜 片が出土
911	D 05 DQ	25	4			
912	D 05 DQ	24	6			
914	D 05 DP	28×32	12	10YR 6/3 にぶい黄橙色粘質シルト		
915	D 05 DP	33×35	18	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		埋土から土師質土器片、瓦 器碗片が出土
916	D 05 DP	36	18	10YR 6/1褐灰色粘質シルト	14×15	
918	D 05 DP	23	8	2.5Y 6/3 にぶい黄橙色砂質シルト	10×15	
919	D 05 DP	23	8	2.5Y 6/3 にぶい黄橙色砂質シルト	14	
920	D 05 CO・DO	41	29	2.5Y 5/1黄灰色砂質シルト		埋土から黒色土器片が出土
921	D 05 CO	19×20	8	2.5Y 6/3 にぶい黄色砂質シルト	9	
922	D 05 CO	35	10	2.5Y 6/1黄灰色砂質シルト		埋土から須恵器片が出土
923	D 05 CO	18×23	7	2.5Y 6/2灰黄色粘質シルト		
926	A 01 RF	17×27	8	7.5Y 5/1灰色粘土	9×11	柱痕に沿わせて、平瓦片を 当てている

No.	地 区	掘方径 (cm)	掘方深さ (cm)	埋 土	柱痕径 (cm)	備 考
927	A 01 RF	26	22	10Y 5/2オリーブ灰色粘土	11	
928	A 01 RF	30×32	9	7.5Y 6/3オリーブ黄色粘土	15×19	大きさ15cm程度の河原石を根石とする。埋土から瓦質礫片、土師質礫片が出土
929	A 01 SG	14×21	6	7.5Y 5/3 灰オリーブ粘質シルト	8×10	
930	A 01 SG	22	13	10GY 6/1緑灰色粘質シルト	8	
931	A 01 RG	24	11	2.5Y 5/6黄褐色粘土	13	
932	A 01 RG・SG	21	11	5Y 5/6オリーブ色粘土		
933	A 01 QE	30×34	18	10YR 5/6 黄褐色粘土 (細礫混り)		埋土から瓦質釜片、瓦器椀片が出土
935	A 01 RF	19×27	13	2.5Y 5/3 灰オリーブ粘質シルト	11×13	
937	A 01 RF	25	3	7.5YR 6/3にぶい褐色シルト	10	掘方埋土中に、大きさ10cm程度の平石を混入。埋土から砥石片が出土
947	A 01 QD	40	22	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト	13×15	埋土から土師質鉢片が出土
948	A 01 RE	22	21	10YR 6/2灰黄褐色シルト		
949	A 01 QF	39×47	18	10YR 5/6黄褐色シルト	13×15	
951	A 01 QF・RF	35×38	29	10YR 4/6褐色粘土	17	
952	A 01 RF	17×19	12	7.5YR 4/4褐色シルト	10	
953	A 01 RF	27×30	21	10YR 4/4褐色シルト	14	
954	A 01 RF	12×14	17	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
955	A 01 RF	19	11	7.5YR 5/8 明褐色粘質シルト	9	
956	A 01 RF	17	20	10YR 4/4褐色粘質シルト		
957	A 01 RF	22×27	13	2.5Y 6/3 にぶい黄色粘質シルト	11×13	
958	A 01 RF	19	10	2.5Y 6/1黄灰色粘土	9	
959	A 01 RF	19	11	10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト	10	
960	A 01 RF	17	9	10Y 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト		
961	A 01 RF	19×21	14	10Y 6/2灰黄褐色粘質シルト	10×12	
962	A 01 RF	38×50	23	7.5YR 4/3 褐色粘土 (細礫混り)		
963	A 01 RF	17	7	10YR 6/2灰黄褐色粘土		
964	A 01 RE	24×28	6			

No.	地区	掘方径(cm)	掘方深さ(cm)	埋土	柱痕径(cm)	備考
965	A 01 QE	17	12	7.5YR 5/6 明褐色粘土 (細礫混)		埋土から瓦質土器片が出土
966	A 01 RF	29	17	2.5Y 5/3黄褐色粘土	11	
967	A 01 RF	25	15	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト	10	
969	A 01 MA	20	11	2.5Y 4/3オリーブ褐色	10	
970	A 01MA	22×23	9	2.5Y 4/1黄灰色	12	
974	A 01 NA	21×24	10	10YR 4/3にぶい黄褐色	10	埋土から土師質釜片、瓦器 碗片が出土
976	A 01 OC	17	4	10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト	7	
978	A 01 OC	28×33	6	7.5YR 4/3褐色細砂		
979	A 01 NC・OC	25	6			
980	A 01 OC	28	12	2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シルト	8	
981	A 01 OE	30×45	14	10YR 5/2灰褐色粘質シルト	15	
982	A 01 ND	31×32	11	10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質シルト	12	
983	A 01 LF	37×39	21	2.5Y 5/2暗灰黄色粘土	17×18	
984	A 01 LG	22×32	20	5Y 5/1灰色粘土	14	
985	A 01 MI	25	12	5Y 6/2灰オリーブ色シルト	12	
990	A 01 KF	16×17	4			
991	A 01 KF	19×21	3			

第5表 出土遺物観察表

整地層

番号	器種	計測値(cm)	調	整	色	調	残存率	備考
1	瓦器椀	口径 15.2(匁) 器高 4.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ (底) ナデ		(外) N5/0灰色 (内) N5/0灰色 断) 2.5GY 8/1灰白色		60%	
2	瓦器椀	口径 13.4(匁) 器高 4.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 粗いヘラミガキ		(外) N5/0灰色 (内) N6/0灰色 断) N8/0灰白色		30%	
3	瓦器椀	口径 12.4(匁) 器高 3.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 粗いヘラミガキ		(外) 10Y 5/1灰 10Y 8/1灰白色 (内) N5/0灰色 断) N8/0灰白色		70%	
4	瓦器小皿	口径 9.2(匁) 器高 2.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) 7.5Y 8/1灰白色 (内) 7.5Y 8/2灰白色 断) 7.5Y 8/2灰白色		40%	焼成不良
5	瓦器小皿	口径 9.4(匁) 器高 2.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) N2/0黒色 (内) N3/0暗灰色 断) 10YR 7/4にぶい黄橙色		40%	
6	瓦器小皿	口径 8.8(匁) 器高 1.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) 2.5GY 8/1灰白色 (内) 5 Y 8/1灰白色 断) 10Y 8/1灰白色		70%	
7	瓦器小皿	口径 8.6(匁) 器高 1.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) N5/0灰色 (内) N4/0灰色 断) 10Y 8/1灰白色		60%	
8	瓦器小皿	口径 8.6(匁) 器高 1.6(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) N5/0灰色 (内) N4/0灰色 断) N8/0灰白色		30%	
9	土師質小皿	口径 7.8(匁) 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) 7.5YR 7/4にぶい橙色 (内) 10YR 6/2灰黄褐色 断) 7.5YR 7/2明褐灰色		80%	
10	土師質小皿	口径 7.2(匁) 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ、ユビオサエ		(外) 7.5YR 7/6橙色 (内) 7.5YR 7/6橙色 断) 7.5YR 7/6橙色		40%	
11	土師質小皿	口径 9.0(匁) 器高 0.9(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ		(外) 2.5Y 6/2灰黄色 (内) 10YR 7/2にぶい黄橙色 断) 2.5Y 8/3淡黄色		30%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
12	土師質小皿	口径 7.6(匁) 器高 1.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10YR 5/3にぶい黄褐色 (内) 10YR 5/2灰黄褐色 断 10YR 5/3にぶい黄褐色	95%	
13	土師質小皿	口径 7.8(匁) 器高 1.4	(外) 口縁部 ナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10YR 8/3浅黄橙色 (内) 10YR 8/2灰白色 断 10YR 8/3浅黄橙色	50%	
14	土師質釜	口径 26.4(匁) 器径 33.8(匁) 器高 8.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ	(外) 10YR 7/4にぶい黄橙色 (内) 7.5YR 7/6橙色 断 7.5YR 7/4にぶい橙色	20%	
15	土師質釜	口径 24.2(匁) 器径 34.0(匁) 器高 7.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 上部 ハケ 下部 ヨコナデ	(外) 5 YR 7/6橙色 ~ 5 YR 2/1黒褐色 (内) 5 YR 7/4にぶい橙色 断 5 YR 7/4にぶい橙色	10%	磨耗
16	土師質釜	口径 21.8(匁) 器径 28.2(匁) 器高 7.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ	(外) 10YR 8/2灰色 (内) 10YR 8/2灰色 断 10YR 8/2灰色	10%	
17	土師質釜	口径 19.7(匁) 器径 27.2(匁) 器高 5.7(匁)	(外) 口縁部 ナデ、胴部 ナデ (内) ナデ、ハケ	(外) 2.5Y 8/4淡黄色 ~ 2.5Y 4/1黄灰色 (内) 2.5Y 8/3淡黄色 ~ 2.5Y 5/1黄灰色 断 2.5Y 8/3淡黄色	15%	
18	土師質釜	口径 21.8(匁) 器高 2.8(匁)	(外) 口縁部 ナデ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/4浅黄橙色 ~ 7.5YR 6/2灰褐色 (内) 7.5YR 7/2明褐灰色 断 10YR 8/2灰白色	3%	紀伊産
683	青白磁碗		(外) 施釉 (内) ヘラによる片彫、施釉	(外) 青灰色 (内) 青灰色 断 灰白色	5%	
685	白磁碗	底径 4.4 器高 0.9(匁)	(外) 底部 ヘラケズリ (内) 施釉	(外) 灰白色 (内) 灰白色 断 灰白色	10%	

600-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
19	甕形土器	口径 16.6(匁) 器高 5.7(匁)	(外) 不明 (内) 頸部以下ヘラケズリか	(外) 2.5Y 8/6黄色 (内) 2.5Y 8/6黄色 断 2.5Y 8/6黄色	5%	弥生後期 古墳初頭

580 A-OS

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
20	高杯椀形土器	脚径 12.3(匁) 器高 5.9(銭)	(外) ヘラミガキ (内) 不明	(外) 5Y 8/4淡黄色 (内) 2.5Y 8/3淡黄色 (断) 2.5Y 6/6明黄褐色	20%	弥生後期 古墳前期

580 B-OS

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
21	高杯形土器	脚柱部最大径 5.0 器高 7.3(銭)	(外) 不明 (内) 不明	(外) 2.5Y 7/2灰黄色 ~2.5Y 6/6明黄褐色 (内) 2.5Y 8/3淡黄色 (断) 2.5Y 8/3淡黄色	20%	弥生後期 古墳前期 内外面磨耗
22	製塩土器	脚部径 6.3 器高 5.5(銭)	(外) タタキ (内) 細かい放射状のハケ	(外) 7.5YR 8/3浅黄橙色 (内) 2.5YR 4/1赤灰色 (断) 7.5YR 5/8明褐色	10%	弥生後期 古墳前期
23	甕形土器	底径 5.2 器高 3.8(銭)	(外) タタキか (内) 不明	(外) 5Y 7/6黄色 (内) 5Y 8/3淡黄色 (断) 5Y 7/6黄色	5%	弥生後期 古墳前期
24	甕形土器	底径 3.7 器高 3.9(銭)	(外) タタキ 底部 ナデ (内) 体部 不明、底部 放射状のナデ	(外) 7.5YR 8/3浅黄橙色 (内) 2.5YR 4/1赤灰色 (断) 7.5YR 5/8明褐色	5%	弥生後期 古墳前期

1011-OR

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
25	細頸壺形土器	口径 35.3(匁) 器高 11.3(銭)	(外) 口縁部 ヨコ方向のナデ後 外面に扇状文及び簾状文 頸部 ヘラミガキ (内) 上部 ヨコナデ 下部 ヨコ及びバナメ方向ナデ	(外) 5Y 6/4オリブ黄色 (内) 2.5Y 7/3浅黄色 (断) 2.5Y 7/3浅黄色	3%	弥生中期
26	壺形土器	口径 20.2(匁) 器高 33.3(銭)	(外) 口縁部 剥離のため調整不明 上 簾状文 胴部 { 下 タテ、バナメ方向の ヘラミガキ (内) 頸部 部分的にヨコ方向の ヘラミガキ 胴部 ナデ	(外) 5Y 8/4淡黄色 (内) 5Y 8/4淡黄色 (断) 5Y 8/4淡黄色	80%	弥生中期
27	長首壺	口径 10.4(匁) 器径 18.4(匁) 器高 23.4(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ 頸部 ケズリ 肩部 ヨコナデ 胴部 (下部) ケズリ } タタキ (内) ナデ	(外) 5YR 8/4淡橙色 ~2.5YR 3/1暗赤灰色 (内) 5YR 8/4淡橙色 ~5YR 6/1褐灰色 (断) 5YR 8/3淡橙色	90%	弥生後期

276-OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
28	瓦質釜	口径 34.4(俵) 器径44.8(俵) 器高 9.4(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ、ナデ	(外) 10Y 4/1灰色 (内) 10Y 4/1灰色 断 7.5Y 7/1灰白色	30%	
29	瓦質釜	口径 24.8(俵) 器高 6.5(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ	(外) N 7/0灰白色 (内) 2.5Y 8/1灰白色 断 2.5Y 8/1灰白色	5%	

370-OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
30	瓦質釜	口径 28.0(俵) 器径 35.2(俵) 器高 5.9(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後 ナデ	(外) 10Y 4/1灰色 (内) N 5/0灰色 断 7.5Y 8/1灰白色	10%	
31	瓦質釜	口径 24.8(俵) 器径 30.7(俵) 器高 6.3(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ	(外) 10Y 2/1黒色 (内) N 3/0暗灰色 断 7.5Y 8/1灰白色	10%	
32	瓦質釜	口径 23.2(俵) 器径 29.5(俵) 器高 6.7(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ	(外) 10YR 2/1黒色 (内) 10YR 3/1黒褐色 断 2.5Y 8/4淡黄色	20%	
33	瓦質甕	口径 46.0(俵) 器高 5.4(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 タタキ (内) ヨコナデ、ヘラケズリ、ヨコハケ	(外) 10Y 5/1灰色 (内) N 5/0灰色 断 10Y 8/1灰白色	20%	
34	瓦質甕	口径 38.0(俵) 器高 4.8(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 タタキ (内) 上部 ナデ、体部 ハケ	(外) N 4/0灰色 (内) 5Y 5/1灰色 断 7.5Y 8/1灰白色	10%	
35	瓦質鉢	口径 33.8(俵) 器高 7.4(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ	(外) 2.5Y 8/1灰白色 (内) 5Y 8/1灰白色 断 5Y 8/2灰白色	12%	
36	瓦質鉢	口径 29.4(俵) 器高 5.9(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) スリメ	(外) 10Y 6/1灰色 (内) 10Y 8/1灰白色 断 2.5Y 8/2灰白色	30%	
37	瓦質・井筒	底径 56.0(俵) 器高 28.0(銭)	(外) 体部 タテ方向のハケ 下部 タテ方向のナデ 底端部 ヨコ方向のナデ、底部 ナデ (内) 体部 タテ方向のハケ、 下部 ユビオサエ 端部 ヨコ方向のナデ	(外) N 4/0灰色 (内) 7.5Y 7/1灰白色 断 5Y 8/1灰白色	35%	

番号	器種	計測値(cm)	調	整	色	調	残存率	備考
672	古 銭	直径 2.5 厚さ 0.1						

436—OW

番号	器種	計測値(cm)	調	整	色	調	残存率	備考
38	瓦 質 鉢	口径 31.4(個) 器高 6.5(銭)	(外) 口縁部 ナデ、体部 ナデ、ヘラケズリ (内) ナデ、スリメ		(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 6/1灰色 (匳) 10Y 8/1灰白色		5%	
39	瓦 質 鉢	口径 30.0(個) 器高 4.9(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ナデ (内) ナデ、スリメ		(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 7/1灰色 (匳) 10Y 8/1灰白色		5%	
40	瓦 質 鉢	口径 26.4(個) 器高 4.7(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ、スリメ		(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 6/1灰色 (匳) 10Y 8/1灰白色		5%	
41	瓦 質 鉢	口径 24.8(個) 器高 6.4(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ、スリメ		(外) 10Y 7/1灰白色 ~10Y 6/1灰白色 (内) 10Y 8/1灰白色 (匳) 2.5Y 7/3浅黄色		10%	
42	白 磁 碗	底径 7.0(個) 器高 1.8(銭)	(外) ヘラケズリ (内) 施釉 (匳) ケズリ出し高台 高台底面は時計回転のヘラケズリ		(外) 灰白色 (内) 灰白色 (匳) 灰白色		10%	

437—OW

番号	器種	計測値(cm)	調	整	色	調	残存率	備考
43	瓦 器 碗	口径 11.8(個) 器高 3.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、ラセン暗文 (匳) 貼付		(外) N 6/0灰色 (内) N 6/0灰色 (匳) 2.5GY 8/1灰白色		35%	
44	瓦 器 碗	器径 11.6(個) 器高 2.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、ラセン暗文 (匳) 貼付		(外) N 7/0灰白色 (内) N 8/0灰白色 (匳) N 7/0灰白色		20%	
45	土師質小皿	器径 7.9(個) 器高 1.5(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ		(外) 淡黄白色 (内) 淡黄白色 (匳) 淡黄白色		15%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
46	土師質小皿	器径 8.4(匁) 器高 1.5	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 10YR 8/2灰白色 (内) 10YR 8/2灰白色 断) 10YR 8/3浅黄橙色	10%	
47	瓦器小皿	器径 8.2(匁) 器高 1.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) N 6/0灰色 (内) N 7/0灰白色 断) 10Y 8/1灰白色	35%	
48	瓦質鉢	器径 31.4(匁) 器高 7.2(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヨコハケ ヘラケズリ (内) ヨコハケ、スリメ	(外) 10Y 5/1灰色 (内) 7.5Y 6/1灰色 断) 5Y 8/2灰白色	10%	
49	須恵質鉢	器径 31.8(匁) 器高 3.8(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ヨコナデ	(外) N 5/0灰色 (内) N 7/0灰色 断) N 6/0灰色	5%	

464—OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
50	瓦質釜	口径 30.0(匁) 器径 35.2(匁) 器高 6.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10R 5/2灰赤色 (内) 10R 5/3赤褐色 断) 5YR 7/2明褐灰色	5%	
51	瓦質鉢	口径 36.6(匁) 器高 5.9(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5YR 5/1褐灰色 (内) 5YR 5/1褐灰色 断) 7.5YR 7/3にぶい橙色	5%	
52	瓦質鉢	口径 31.6(匁) 器高 5.3(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5YR 7/2明褐灰色 (内) 10YR 5/1褐灰色 断) 10Y 6/2オリーブ灰色	5%	
53	瓦質鉢	口径 29.4(匁) 器高 9.1(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5G 7/1明緑色 (内) 10R 4/1暗赤灰色 断) 5YR 8/3淡橙色 断) 2.5YR 7/3淡赤橙色	20%	

465—OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
54	青磁碗	口径 17.1(匁) 器高 4.7(匁)	水挽きロクロ成形	(外) 緑灰色 (内) 緑灰色 断) 明青灰色	30%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
55	常滑焼壺	底径 20.4(匁) 器高 1.9(匁)	(外) ヨコナデ 底部 未調整 (内) ナデ	(外) 10Y 4/6赤色 ~7.5YR 8/1灰白色 (内) 2.5YR 7/1明赤灰色 匳 2.5YR 7/1明赤灰色	5%	
56	硯	長さ 8.0(匁) 幅 6.4(匁) 厚さ 2.3		(外) 黄橙色 (内) 黄橙色 匳 黄橙色		
690	青磁碗		(外) 施釉 (内) 施釉	(外) 緑灰色 (内) 緑灰色 匳 灰色	5%	
693	青磁碗		(外) 施釉 (内) 施釉	(外) 青灰色 (内) 青灰色 匳 灰色	10%	

477—OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
57	土師質小皿	口径 9.5(匁) 器高 2.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) 2 定方向のナデ	(外) 2.5Y 8/4~10Y 6/1灰色 (内) 2.5Y 7/6明黄褐色 匳 2.5Y 7/6明黄褐色	50%	
58	曲物	底径 15.0 器高 3.0 厚さ 0.3	板目取り カキイレンゾコ		上半部	側板に「福」の墨書を欠失
59	井戸側部材	長さ 74.0 幅 8.0 厚さ 3.0	毛斧削り		90%	
60	曲物	器径 66.0 器高 39.0 厚さ 0.4	板目取り、まわしの側板4段 内面 ケビキ線 側板下部に木釘穴		90%	井筒に転用

642—OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
61	瓦質釜	口径 24.8(匁) 器径 33.0(匁) 器高 4.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ヨコナデ、ハケ	(外) N 6/1灰色 (内) 10Y 7/1灰白色 匳 10Y 8/1灰白色	5%	

727-OW

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
62	瓦器椀	口径 15.6 底径 4.2 器高 4.4	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ 見込み、連結輪状文 (高) 貼付、ナデ	(外) 5B 4/1暗青灰色 ~10GY 7/1明緑灰色 (内) 5Y 6/1灰色 断 10GY 7/1明緑灰色	80%	
63	瓦器椀	口径 15.2 底径 5.1 器高 4.2	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ 見込み、連結輪状文 (高) 貼付、ナデ	(外) 10Y 7/1灰白色 ~5BG 4/1暗青灰色 (内) 5B 4/1暗青灰色 断 5BG 7/1明青灰色	60%	
64	瓦器椀	口径 15.0 器高 3.9	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ 見込み、連結輪状文 (高) 貼付、ナデ	(外) 10G 4/1暗緑灰色 ~5YR 6/1橙色 (内) 10BG 4/1暗青灰色 ~10GY 8/1明緑灰色 断 10GY 8/1明緑灰色	90%	
65	瓦器椀	口径 14.4(復) 器高 4.0	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、ヘラミガキ (高) 貼付、ナデ	(外) 10G 4/1暗緑灰色 (内) 10BG 4/1暗青灰色 ~5G 7/1明緑灰色 断 7.5GY 8/1明緑灰色	20%	
66	瓦器椀	口径 13.8(復) 器高 4.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ	(外) 10BG 5/1青灰色 (内) 10BG 5/1青灰色 断 10Y 7/1灰白色	30%	
67	瓦器椀	口径 15.4 底径 3.5 器高 4.1	(外) 口縁部 調整不明、体部 ユビオサエ (内) 調整不明	(外) 10YR 7/8黄橙色 ~10YR 4/1褐灰色 (内) 10YR 7/8黄橙色 ~10YR 4/1褐灰色 断 10YR 7/8黄橙色	50%	二次焼成 受ける
68	瓦器椀	口径 13.4(復) 器高 3.9(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ	(外) 5BG 3/1明青灰色 (内) 5BG 3/1明青灰色 断 10YR 8/3浅黄橙色	20%	
69	瓦器椀	口径 14.8(復) 底径 5.3(復) 器高 3.9	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5YR 7/3淡赤橙色 (内) 2.5YR 7/3 ~10YR 4/1褐灰色 断 5YR 8/4淡橙色	30%	二次焼成 受ける
70	瓦器椀	口径 14.6(復) 器高 4.3(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ (高) 貼付、ナデ	(外) 7.5Y 4/1灰色 (内) 7.5Y 4/1灰色 断 2.5Y 8/3淡黄色	30%	
71	瓦器小皿	口径 8.2 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5B 4/1暗青灰色 ~10GY 7/1明緑灰色 (内) 5Y 6/1灰色	100%	
72	瓦器小皿	口径 9.4(復) 器高 1.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10G 5/1緑灰色 (内) 5BG 4/1暗緑灰色 断 10GY 8/1明緑灰色	5%	

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
73	瓦器小皿	口径 8.4(匁) 器高 1.3(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10G 5/1 緑灰色 (内) 10BG 3/1 暗青灰色 匦 10GY 8/1 明緑灰色	10%	
74	土師質小皿	口径 8.9(匁) 器高 1.4	(外) 調整不明 (内) 調整不明	(外) 5Y 8/3 淡黄色 (内) 5Y 8/3 淡黄色 匦 5Y 8/1 灰白色	25%	
75	土師質釜	口径 27.2(匁) 器径 36.6(匁) 器高 14.6(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/3 浅黄橙色 ~7.5YR 7/2 明褐灰色 (内) 7.5YR 8/3 浅黄橙色 ~5GY 4/1 暗オリーブ灰色 匦 10GY 8/1 明緑灰色 ~7.5YR 6/6 橙色	30%	
76	曲物	器径 37.0 器高 15.0 厚さ 0.4	板目取り、まわしの側板 2 段 内面 ケビキ線 側板下部に木釘穴		95%	井筒に転用 (上段)
77	曲物	器径 37.0 器高 27.5 厚さ 0.8	板目取り、まわしの側板 2 段 内面 ケビキ線 側板下部に木釘穴		80%	井筒に転用 (下段)
78	木枠部材	長さ 87.6(匁) 径 10.0	手斧削り			ホゾ穴有
79	木枠部材	長さ 42.8 幅 3.0 厚さ ~5.2 1.2 ~2.8	手斧削り 端部は削り出し、ホゾを作る 木取りは、丸太の半截			ホゾ有
80	木枠部材 (井戸側板)	長さ 75.2(匁) 幅 26.0 厚さ 3.2	(表未調整 (一部に樹皮残る))			

822-OW

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
81	瓦器釜	口径 33.6(匁) 器径 46.0(匁) 器高 8.0(匁)	(外) 口縁部 ナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 上部 ヨコナデ、ハケ 下部 ナデ	(外) 5Y 7/1 灰白色 (内) 7.5Y 7/1 灰白色 匦 10Y 8/1 灰白色	5%	スス付着
82	瓦質釜	口径 33.4(匁) 器径 45.2(匁) 器高 10.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 上部 ハケ 後 ナデ 下部 ナデ	(外) N 5/1 灰色~5Y 5/1 灰色 (内) 5Y 7/1 灰白色 匦 5Y 7/1 灰白色	10%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
83	瓦質釜	口径 32.4(復) 器径 44.2(復) 器高 9.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ 後 ナデ	(外) 7.5Y 5/1灰色~5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 7/1灰白色 (断) 7.5Y 7/1灰白色	10%	
84	瓦質釜	口径 30.8(復) 器径 40.2(復) 器高 7.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後 ヨコナデ	(外) N 7/1灰白色 (内) 10Y 7/1灰白色 (断) 10Y 8/1灰白色	5%	
85	瓦質釜	口径 30.2(復) 器径 37.0(復) 器高 12.1(残)	(外) 口縁部 ナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5BG 3/1暗青灰色 (内) 5G 3/1暗青灰色 (断) 2.5Y 8/1灰白色	5%	
86	瓦質釜	口径 25.8(復) 器径 33.8(復) 器高 11.1(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 5Y 4/1灰色 (断) 5Y 7/1灰白色	10%	
87	瓦質釜	口径 24.0(復) 器径 35.2(復) 器高 6.0(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) N 7/1灰白色 (断) 10Y 8/1灰白色	5%	
88	瓦質釜	口径 26.8(復) 器径 35.6(復) 器高 13.9(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後 ヨコナデ	(外) 2.5Y 7/1灰白色 (内) N 4/1灰色 (断) N 7/1灰白色	25%	
89	瓦質釜	口径 26.8(復) 器径 36.2(復) 器高 9.4(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 7/1灰白色 (断) 10Y 7/1灰白色	10%	
90	瓦質釜	口径 24.4(復) 器径 32.6(復) 器高 10.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 上部 ヨコナデ 下部 ヨコハケ	(外) 10YR 8/1灰白色 (内) 7.5YR 8/1灰白色 (断) 10YR 8/1灰白色	15%	
91	瓦質釜	口径 24.2(復) 器径 33.0(復) 器高 6.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 上部 ヨコナデ 下部 ハケ 後 ナデ	(外) N 5/1灰色~N 3/1暗灰色 (内) N 4/1灰色 (断) 10Y 6/1灰色	10%	
92	瓦質釜	口径 22.0(復) 器径 30.6(復) 器高 7.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ 後 ナデ	(外) 7.5Y 4/1灰色 (内) 7.5Y 5/1灰色 (断) 10Y 6/1灰色	5%	スス付着
93	瓦質釜	口径 20.0(復) 器径 27.4(復) 器高 7.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 上部 ヨコナデ、下部 ハケ後 ナデ	(外) N 6/1灰色 (内) N 6/1灰色 (断) 7.5Y 7/1灰白色	10%	スス付着

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
94	瓦質釜	口径 21.0(匁) 器径 27.4(匁) 器高 5.3(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後 ヨコナデ	(外) 5Y 6/1 灰色 (内) 5Y 8/1 灰白色 断 5Y 8/2 灰白色	5%	スス付着
95	瓦質釜	口径 17.8(匁) 器径 13.2(匁) 器高 4.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後 ヨコナデ	(外) N 3/1 暗灰色 (内) 2.5Y 6/1 黄灰色 断 2.5Y 8/1 灰白色	5%	
96	瓦質湯釜	口径 13.4(匁) 器径 27.6(匁) 器高 13.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ 肩部 回転ヘラケズリ、胴部 ケズリ (内) 上部 ナデ、体部 ヨコハケ	(外) N 4/1 灰色 (内) 7.5Y 4/1 灰色 断 10Y 8/1 灰白色	40%	
97	青磁碗	口径 17.8(匁) 器高 3.8(匁)	(外) 口縁部 ナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 暗緑灰色(釉) (内) 暗緑灰色(釉) 断 灰白色	10%	器壁に ウルシに よる接合 痕あり
98	青磁碗	底径 6.0 器高 4.0(匁)	(外) ケズリ 底部 回転ヘラケズリ	(外) 緑灰色(釉) (内) 緑灰色(釉) 断 灰白色	30%	
99	瓦質小皿	口径 9.5 器高 1.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) N 4/0 灰色 (内) 5Y 7/1 灰白色 断 5Y 7/1 灰白色	95%	
100	瓦質鉢	口径 32.0(匁) 器高 11.0(匁)	(外) 口縁部 ナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ、ヨコハケ、スリメ	(外) N 3/1 暗灰色 (内) 7.5Y 6/1 灰色 断 10Y 8/1 灰白色	25%	
101	瓦質鉢	口径 32.8(匁) 器高 6.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ハケ、スリメ	(外) N 4/1 灰色 (内) 7.5Y 5/1 灰色 断 10Y 8/1 灰白色	5%	
102	瓦質鉢	口径 31.6(匁) 器高 4.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) スリメ	(外) 10Y 8/1 灰白色 (内) N 6/1 灰色 断 10Y 8/1 灰白色	5%	
103	瓦質鉢	口径 35.6(匁) 器高 4.4(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ、スリメ	(外) 2.5Y 7/1 灰白色 (内) 2.5Y 7/1 灰白色 断 10Y 8/1 灰白色	5%	
104	瓦質鉢	口径 27.4(匁) 器高 4.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ、スリメ	(外) 10Y 8/1 灰白色 (内) 10Y 8/1 灰白色 断 10Y 8/1 灰白色	5%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
105	瓦質鉢	口径 27.4(復) 器高 7.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) ナデ、スリメ	(外) 7.5Y 4/1灰色 (内) 10Y 6/1灰色 断 N 8/0灰白色	10%	
106	瓦質鉢	底径 10.4(復) 器高 4.5(残)	(外) ヘラケズリ、底部 ナデ (内) スリメ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 4/1灰色 断 7.5Y 8/2灰白色	10%	
107	瓦質鉢	底径 13.4(復) 器高 7.6(残)	(外) ヘラケズリ (内) ナデ後ヨコハケ	(外) 5Y 8/3淡黄色 (内) 5Y 8/1灰白色 断 5Y 8/1灰白色	5%	
108	瓦質甕	口径 28.9(復) 器高 8.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ 肩部～胴部上部 タタキ (内) ハケ	(外) 5Y 7/1灰白色 (内) 10Y 8/1灰白色 断 5Y 7/1灰白色	5%	
109	瓦質甕	口径 26.8(復) 器高 12.4(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ 肩部～胴部上部 タタキ (内) ヨコナデ、ヘラケズリ	(外) N 6/1灰色 (内) 7.5Y 7/1灰白色 断 10Y 8/1灰白色	5%	
110	瓦質甕	口径 26.8(復) 器高 6.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ 肩部～胴部上部 タタキ (内) ヨコナデ	(外) N 7/1灰白色 (内) N 5/1灰色 断 2.5GY 7/1明オリーブ灰色	5%	
111	瓦質甕	口径 21.8(復) 器高 7.1(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ 肩部～胴部上部 タタキ (内) ハケ	(外) 10YR 8/1灰白色 (内) 10YR 7/1灰白色 断 2.5GY 7/1明オリーブ灰色	5%	
112	瓦質・井戸 枠	口径 55.4(復) 器高 60.0	(外) 口縁部 ナデ 体部 ナナメ方向のヘラケズリ 底部 ヨコ方向のヘラケズリ (内) ハケ	(外) 7.5GY 7/1明緑灰色 ～10BG 5/1青灰色 (内) 10G 3/1暗緑灰色 ～7.5GY 8/1明緑灰色 断 5GY 7/1明オリーブ灰色	30%	
660	瓦質甕	口径 39.4(復) 器高 14.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 タタキ (内) ヨコハケ	(外) 10Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 6/1灰色 断 10Y 8/1灰白色	20%	
661	瓦質釜	口径 19.6(復) 器径 28.2(復) 器高 5.6(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ後ヨコナデ	(外) N6/0灰色 (内) 5B 3/1暗青灰色 断 2.5GY 8/1灰白色	15%	スス付着
662	瓦質釜	口径 26.4(復) 器径 35.0(復) 器高 4.3(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ後ヨコナデ	(外) 10YR 6/1褐灰色 (内) 5Y 5/1灰色 断 7.5Y 7/1灰白色	20%	スス付着

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
663	瓦質釜	口径 24.4(匁) 器径 32.4(匁) 器高 4.9(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ヨコハケ後ヨコナデ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) N4/0灰色 匁 5Y 7/1灰色	10%	
664	瓦質釜	口径 26.4(匁) 器径 34.6(匁) 器高 5.2(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ後ヨコナデ	(外) N3/0暗灰色 (内) N7/0灰白色 匁 2.5GY 7/1暗オリーブ灰色	10%	
665	瓦質釜	口径 24.2(匁) 器径 32.6(匁) 器高 5.6(銭)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ後ヨコナデ	(外) N7/0灰白色 (内) N6/0灰白色 匁 5Y 7/1灰白色	10%	

824-OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
113	瓦器椀	底径 5.0(匁) 器高 2.4(銭)	(外) 体部 ユビオサエ (内) ナデ、密なヘラミガキ見込み、斜格子暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) N 4/0灰色 (内) N 5/0灰色 匁 N 8/0灰白色	20%	
114	瓦器椀	口径 13.9 底径 3.1 器高 3.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、平行線暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) N 4/0灰色 (内) 5B 3/1暗青灰色	100%	
115	瓦器椀	口径 13.4(匁) 底径 2.3 器高 3.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、平行線暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) 10Y 6/1灰色 (内) N 5/0灰色 匁 5Y 8/1灰白色	60%	
116	瓦器椀	口径 13.0 底径 2.65 器高 3.45	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、連結輪状文 (高) 貼付、ナデ	(外) 5G 3/1暗緑灰色 (内) N 3/0暗灰色 匁 2.5GY 8/1灰白色	95%	
117	瓦器椀	口径 12.9 底径 2.6 器高 3.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、平行線暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) N 4/0灰色 (内) N 5/0灰色 匁 10Y 7/1灰白色	100%	
118	瓦器椀	口径 13.5 高台径 3.0 器高 3.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、ラセン暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 7.5Y 4/1灰色 匁 10Y 8/1灰白色	100%	
119	瓦器椀	口径 12.5 底径 3.7 器高 3.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、ラセン暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) N 4/0灰色 (内) N 5/0灰色 匁 10Y 8/1灰白色	95%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
120	瓦器碗	口径 12.7 底径 2.7 器高 3.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、ラセン暗文 (高) 貼付、ナデ(痕跡的)	(外) N 6/0灰色 (内) N 5/0灰色 断 10Y 8/1灰白色	50%	
121	瓦器碗	口径 13.1(匁) 底径 3.2(匁) 器高 2.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、平行線暗文	(外) 10Y 5/1灰色 (内) 10BG 5/1青灰色 断 10Y 7/1灰白色	40%	
122	瓦器碗	口径 13.4(匁) 底径 2.7(匁) 器高 3.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ見込み、ラセン暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) 2.5Y 8/1灰白色 (内) 5Y 3/1オリーブ黒色 断 2.5Y 8/1灰白色	30%	
123	土師質小皿	口径 8.4 器高 1.4	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10Y 8/1灰白色 (内) 10Y 8/1灰白色 断 10Y 8/1灰白色	100%	
124	土師質小皿	口径 8.3 器高 1.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5Y 6/2灰黄色 (内) 2.5Y 7/1灰白色 断 2.5Y 8/1灰白色	100%	
125	土師質小皿	口径 8.0 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5Y 6/2灰黄色 (内) 2.5Y 7/1灰白色 断 2.5Y 8/1灰白色	95%	
126	土師質釜	口径 25.6(匁) 器径 39.8(匁) 器高 21.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 2.5Y 8/3浅黄色 (内) 10YR 8/3浅黄橙色 断 2.5Y 8/3浅黄色	20%	
677	砥石	長さ 10.8(匁) 幅 7.5 厚さ 7.2	使用面 3面	淡灰褐色		
696	曲物	直径 35.0 高さ 27.5 厚さ 0.4	板目取り、まわしの側板2段 内面ケビキ線 側板下部に木釘穴		80%	破損が著しい 井筒に転用

945-OW

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
127	土師質釜	口径 32.8 器径 42.6 器高 26.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10YR 8/4浅黄橙色 (内) 10YR 8/3浅黄橙色 断 10YR 7/6明黄褐色	70%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
128	土師質小皿	口径 7.6 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5Y 8/4淡黄色 (内) 5Y 8/3淡黄色 断 2.5Y 8/3淡黄色	80%	

191 A-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
129	土師質小皿	口径 11.4(復) 器高 1.7(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 2.5YR 7/6橙色 (内) 2.5YR 7/6橙色 断 2.5YR 7/6橙色	20%	
130	瓦質鉢	口径 29.6(復) 器高 11.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ハケ (内) ナデ、スリメ	(外) 5Y 4/1灰色 (内) 10Y 5/1灰色 断 10YR 8/1灰白色	20%	

342-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
692	青磁碗		(外) 蓮弁文(ケズリ出し)、施釉 (内) 施釉	(外) 緑褐色 (内) 緑褐色 断 灰白色	10%	

348-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
131	土師質釜	口径 17.6(復) 器径 24.0(復) 器高 6.1(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ、ハケ	(外) 2.5Y 8/2灰白色 (内) 2.5Y 8/2灰白色 断 2.5Y 8/2灰白色	5%	瓦質の可能性あり

375-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
132	古 銭 「皇宋通宝」	直径 2.4 厚さ 0.1				北宋銭 初鑄 1039年

358-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
133	土師質小皿	口径 5.6 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5YR 7/6にぶい橙色 (内) 5YR 7/6にぶい橙色	100%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
134	土師質小皿	口径 5.6 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5YR 5/8明赤褐色 (内) 5YR 7/8橙色	100%	
135	土師質小皿	口径 5.2 器高 0.9	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/1灰白色 (内) 7.5YR 8/1灰白色	100%	
136	土師質小皿	口径 5.4 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5YR 7/8橙色 (内) 5YR 7/8橙色 断 5YR 7/8橙色 ~10GY 8/1明緑灰色	85%	
137	瓦質小皿	口径 5.8 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5GY 8/1明緑灰色 ~10G 4/1暗緑灰色 (内) 10GY 8/1明緑灰色 ~10G 4/1暗緑灰色	100%	
138	瓦質小皿	口径 5.2 器高 0.9	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10R 3/1暗赤灰色 ~10R 5/6赤色 (内) 5R 5/1赤灰色 ~10R 6/3にぶい赤橙色 断 10R 4/8赤色	60%	
139	瓦質小皿	口径 5.4 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10GY 7/1明緑灰色 ~5R 3/1暗赤灰色 (内) 5R 3/1暗赤灰色 断 7.5YR 8/1灰白色	70%	
140	瓦質小皿	口径 5.6 器高 1.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5P 3/1暗紫灰色 ~10G 7/1明緑灰色 (内) 7.5YG 3/1黒褐色	38%	
141	瓦質小皿	口径 5.4 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10GY 8/1明緑灰色 ~5PB 4/1暗青灰色 (内) 7.5YR 8/1灰白色 断 10GY 7/1明緑灰色	100%	
142	瓦質小皿	口径 5.0 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/1灰白色 ~5BG 5/1青灰色 (内) 7.5YR 8/1灰白色 ~5BG 4/1暗青灰色	100%	
143	古 銭 「景祐元宝」	直径 2.4 厚さ 0.1				北宋銭 初铸 1034年

367-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
144	土師質小皿	口径 10.2(復) 器高 1.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/2灰白色 (内) 7.5YR 6/1褐色 断 5YR 8/2灰白色	30%	内外面 磨耗

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
145	土師質小皿	口径 9.0(復) 器高 1.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 10YR 8/2灰白色 (内) 10YR 7/4にぶい黄橙色 断 10YR 8/3浅黄橙色	10%	
146	瓦質小皿	口径 5.5 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ナデ (内) ナデ	(外) 10YR 5/3にぶい黄褐色 (内) 10YR 7/2にぶい黄橙色	100%	
147	土師質埴壺	口径 14.0(復) 器高 8.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ナデ (内) ナデ	(外) 10YR 8/3浅黄橙色 (内) 7.5YR 8/2灰白色 断 5Y 5/1灰色	10%	
148	土師質鉢	口径 29.2(復) 器高 13.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ナデ 一部ヘラケズリ、底部 ナデ (内) ヨコハケ、スリメ	(外) 10YR 6/3にぶい黄橙色 (内) 10YR 7/3にぶい黄橙色 断 10YR 7/3にぶい黄橙色	50%	内面 磨耗
149	土師質鉢	口径 27.8(復) 器高 11.3(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) スリメ	(外) 10YR 3/1黒褐色 (内) 10YR 6/3にぶい黄橙色 断 10YR 6/2灰黄褐色	40%	外面 スス付着
150	瓦質井筒	口径 49.6(復) 器高 6.3(残)	(外) 体部 ナナメタテ方向のハケ 底部 ヨコナデ (内) ヨコ方向のハケ	(外) N5/0灰色 (内) N 4/0灰色 断 7.5Y 8/1灰白色	5%	

379-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
151	土師質釜	口径 23.0(復) 器径 27.6(復) 器高 12.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10YR 8/4浅黄橙色 (内) 10YR 8/3浅黄橙色 断 7.5YR 8/2灰白色	10%	
152	土師質釜	口径 24.4(復) 器径 29.0(復) 器高 6.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/3浅黄橙色 (内) 10YR 8/3浅黄橙色 断 10YR 8/2灰白色	5%	
153	土師質埴壺	口径 11.2(復) 器高 13.1(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10YR 8/4浅黄橙色 (内) 7.5YR 8/3浅黄橙色 断 7.5Y 8/4浅黄橙色	30%	

383-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
154	備前焼壺	口径 11.0(復) 器高 15.7(残)	(外) ロクロびき カキメあり (内) ロクロびき	(外) 7.5R 4/3にぶい赤褐色 (内) 5R 4/1暗赤灰色 断 7.5YR 7/1明褐灰色	20%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
155	天目茶碗	口径 12.0(匁) 底径 4.2 器高 6.0 高台高 0.4	(外) 口縁部 ナデ、体部・高台部 ケズリ (内) ナデ	(外) 5YR 3/1黒褐色(施釉部) ～7.5R 4/1暗赤灰色 (内) 5YR 3/1黒褐色 側 10YR 8/3浅黄褐色	45%	鉄釉
156	白磁碗	口径 12.2(匁) 器高 2.4(匁)	(外) 施釉 (内) 施釉	(外) 灰白色釉 (内) 灰白色釉 側 灰白色	10%	
157	土師質小皿	口径 10.0(匁) 器高 1.6(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 10YR 8/1灰白色 (内) 10YR 8/2灰白色 側 2.5Y 8/2灰白色	20%	
158	瓦質鉢	口径 30.6 器高 5.7(匁)	(外) 口縁部 ナデ、体部 ヘラケズリ (内) スリメ	(外) 10Y 6/1灰色 ～7.5Y 7/2灰白色 (内) 5PB4/1暗青灰色 側 2.5GY 8/1灰白色	10%	
159	瓦質鉢	口径 24.8(匁) 器高 4.9(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ	(外) 2.5GY 3/1暗オリーブ灰色 (内) 2.5GY 4/1暗オリーブ灰色 側 2.5Y 8/3淡黄色	5%	内面 磨耗
160	瓦質鉢	口径 24.4(匁) 器高 8.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ 体部 ヘラケズリ 後 ナデ (内) ヨコハケ 後 ナデ	(外) 5Y 4/1灰色 (内) 5Y 5/1灰色 側 5Y 8/2灰白色	10%	
161	備前焼鉢	口径 25.6(匁) 器高 7.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ 体部 ヘラケズリ、ヨコナデ (内) ナデ、スリメ	(外) 10R 6/6赤褐色 (内) 10R 6/6赤褐色 側 10R 6/6赤褐色	5%	
162	土師質鉢	底径 9.1(匁) 器高 5.1(匁)	(外) ナデ (内) スリメ	(外) 5YR 7/3にぶい橙色 (内) 7.5YR 7/4にぶい橙色 側 7.5YR 7/4にぶい橙色	5%	
163	瓦質鉢	口径 26.0(匁) 器径 39.4(匁) 器高 5.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ナデ (内) ヨコナデ	(外) 7.5Y 5/1灰色 (内) 7.5Y 5/1灰色 側 10YR 7/3にぶい橙色	5%	文様 スタンプ文
164	瓦質甕	口径 30.8(匁) 器高 5.7	(外) 口縁部 ヨコナデ、肩部 タクキ	(外) 5G 6/1緑灰色 (内) 7.5YR 3/1黒褐色 側 10YR 7/6明黄褐色	5%	
165	土師質浅鉢	口径 32.4(匁) 底径 22.0(匁) 器高 6.1(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ 体部 粗いヘラケズリ (内) ナデ	(外) 2.5YR 6/6橙色 (内) 2.5YR 6/6橙色 ～2.5YR 7/4淡赤褐色 側 2.5YR 6/4にぶい橙色	10%	瓦質の 可能性 あり
166	土師質釜	口径 24.6(匁) 器径 29.8(匁) 器高 9.6(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ後ナデ	(外) 7.5YR 7/6橙色 (内) 7.5YR 7/6橙色 側 7.5YR 7/6橙色	5%	胴部 スス付着

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
167	土師質釜	口径 28.0(匁) 器径 33.8(匁) 器高 6.4(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後ナデ	(外) 10YR 7/2にぶい黄橙色 (内) 2.5Y 7/1灰白色 匁 2.5Y 7/2灰黄色	5%	胴部 スス付着
168	瓦質釜	口径 26.6(匁) 器径 32.6(匁) 器高 6.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) 粗いヨコナデ	(外) 10Y 5/1灰色 (内) 5YR 7/4にぶい橙色 匁 10YR 8/1灰白色	5%	
169	土師質釜	口径 23.6(匁) 器径 30.1(匁) 器高 15.3(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/4浅黄橙色 (内) 7.5YR 8/4浅黄橙色 匁 7.5YR 8/4浅黄橙色	30%	胴部 スス付着 口縁部 2箇所 穿孔
170	瓦質釜	口径 30.0(匁) 器径 37.8(匁) 器高 5.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) N 4/0灰色 (内) 5YR 8/3淡橙色 匁 7.5Y 8/1灰白色	5%	
171	瓦質釜	口径 22.4(匁) 器径 29.6(匁) 器高 5.4(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ、ナデ	(外) N 4/0灰色 (内) 2.5Y 8/2灰白色 匁 5Y 8/1灰白色	5%	
172	瓦質釜	口径 32.8(匁) 器径 42.6(匁) 器高 6.2(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ、ナデ	(外) 10Y 5/1灰色 (内) 5Y 8/1灰白色 匁 5Y 8/1灰白色	10%	
173	瓦質釜	口径 24.4(匁) 器径 30.2(匁) 器高 6.8(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ 後ナデ	(外) 7.5Y 5/1灰色 (内) 5Y 8/1灰白色 匁 5Y 7/3浅黄色	5%	
686	青磁碗	口径 11.9(匁)	(外) 雷文帯、施釉 (内) 施釉	(外) 緑灰色 (内) 緑灰色 匁 灰白色	10%	

407-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
174	土師質甕	底径 28.4(匁) 器高 19.0(匁)	(外) 胴部 タタキ、底部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ、底部 ユビオサエ	(外) 10YR 4/1褐灰色 (内) 10YR にぶい黄橙色 匁 10YR 7/3にぶい黄橙色	20%	

409-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
175	石 帯	長さ 2.0(匁) 幅 2.6(匁) 厚さ 0.7	研磨仕上げ	黒灰色	30%	滑石製。 穿孔は貫 通してい ない。

415-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
176	土師質小皿	口径 7.7(復) 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5Y 6/1黄灰色 (内) 5Y 8/2灰白色 (断) 2.5Y 8/3淡黄色	40%	

440-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
177	土師質釜	口径 22.2(復) 器径 31.0(復) 器高 8.0(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10YR 8/2灰白色 (内) 10YR 8/1灰白色 (断) 7.5YR 8/4浅黄橙色	5%	
178	土師質釜	口径 29.6(復) 器径 41.6(復) 器高 5.7(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10YR 8/2灰白色 (内) 7.5YR 8/3浅黄橙色 (断) 10YR 8/3灰白色	5%	
179	瓦質釜	口径 29.6(復) 器径 40.2(復) 器高 20.7(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) N 4/0灰色 ~5Y 8/1灰白色 (内) 10Y 4/1灰色 ~2.5Y 8/1灰白色 (断) 5Y 8/2灰白色	20%	
180	須恵質甕	口径 30.7(復) 器高 4.7(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 タタキ (内) ナデ	(外) 淡灰色 (内) 淡茶灰色 (断) 淡黄灰色	5%	
181	瓦質甕	口径 21.6(復) 器高 4.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 タタキ (内) ハケ、ナデ	(外) N 6/0灰色 (内) N 6/0灰色 (断) 10Y 8/1灰白色	5%	
182	瓦質鉢	底径 8.0(復) 器高 3.3(残)	(外) ナデ	(外) 10Y 8/1灰白色 (内) 10Y 8/1灰白色 (断) 10Y 8/1灰白色	5%	
183	常滑焼壺	底径 11.0 器高 6.5(残)	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	(外) 5YR 6/2灰褐色 (内) 2.5Y 7/3浅黄色 (断) 7.5Y 8/1灰白色	10%	

445-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
184	瓦質釜	口径 25.0(復) 器径 30.8(復) 器高 5.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ、ナデ	(外) 2.5Y 8/3浅黄色 (内) 2.5Y 8/2灰白色 (断) 2.5Y 8/2灰白色	5%	胴部 スス附着

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
185	青磁碗	口径 12.8(匁) 器高 3.1(匁)	(外) 蓮弁文、施釉 (内) 施釉	(外) 緑色 (内) 緑色 (匁) 灰白色	10%	

446-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
186	土師質釜	口径 10.4(匁) 器径 15.4(匁) 器高 5.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5Y 5/1灰色 (内) 7.5Y 6/1灰色 (匁) 7.5Y 6/1灰色	5%	胴部 スス付着

1002-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
187	瓦質釜	口径 28.8(匁) 器径 41.0(匁) 器高 7.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5Y 6/1灰色 (内) 10Y 7/1灰白色 (匁) 10Y 7/1灰白色	5%	
188	瓦質釜	口径 28.2(匁) 器径 36.0(匁) 器高 4.4(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 7.5Y 7/1明褐灰色 (内) 10YR 5/1褐灰色 (匁) 2.5Y 8/2灰白色	5%	
189	瓦質鉢	口径 30.0(匁) 器高 6.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ヘラケズリ (内) 不明	(外) N5/0灰色 (内) 7.5Y 8/1灰白色 (匁) 7.5Y 8/1灰白色	10%	内面 磨耗
190	瀬戸焼碗	口径 16.2(匁) 底径 6.4 器高 7.3	(外) 口縁部 ヨコナデ 体部 回転ナデ、回転ケズリ 底部 糸切り (匁) 貼付、ナデ	(外) 5Y 7/1灰白色 ～釉10Y 6/2オリーブ灰色 (内) 10Y 6/2オリーブ灰色 (匁) 7.5Y 7/1灰白色	70%	

1001-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
191	瓦質小皿	口径 8.2(匁) 器高 1.2(匁)	(外) ナデ (内) ナデ	(外) 10YR 3/1黒褐色 (内) 10YR 3/1黒褐色 (匁) 2.5Y 5/1黄灰色	20%	

461-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
192	土師質釜	口径 23.6(匁) 器径 34.8(匁) 器高 6.8(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5YR 7/6橙色 (内) 7.5YR 7/6橙色 (匁) 5YR 7/4にぶい橙色	10%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
193	土師質釜	口径 19.0(匁) 器径 27.0(匁) 器高 8.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10YR 6/2 灰黄橙色 (内) にぶい橙色 匱 10YR 6/2 灰黄橙色	10%	
194	瓦質釜	口径 23.2(匁) 器径 30.0(匁) 器高 5.8(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ、ナデ	(外) 10Y 8/1 灰白色 (内) 7.5Y 7/1 灰白色 匱 10YR 8/4 浅黄橙色	10%	
195	瓦質釜	口径 19.2(匁) 器径 24.4(匁) 器高 9.7(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ハケ、ナデ	(外) 2.5GY 6/1 オリーブ灰色 ～2.5GY 4/1 オリーブ灰色 (内) 2.5GY 7/1 明オリーブ灰色 匱 2.5GY 8/1 灰白色	10%	
196	瓦質釜	口径 28.6(匁) 器径 31.6(匁) 器高 3.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) N 5/0 灰色 (内) N 5/0 灰色 匱 10Y 8/1 灰白色	10%	
197	瓦質甕	口径 24.2(匁) 器高 5.6(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 タタキ (内) ハケ	(外) N 5/0 灰色 (内) N 6/0 灰色 匱 10Y 8/1 灰白色	5%	
198	陶器壺	底径 12.1 器高 11.2(匁)	(外) 胴部 ロクロ回転ケズリ (内) ナデ	(外) 灰白色 (内) 灰白色 匱 灰白色	15%	

462-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
199	瓦器碗	口径 11.6 底径 2.3 器高 3.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ、見込み、ラセン暗文 (高 貼付、ナデ)	(外) 5G 4/1 暗緑灰色 (内) 5G 5/1 緑灰色 ～N 3/0 暗灰色 匱 7.5YR 8/1 灰白色	85%	
200	瓦質釜	口径 23.6(匁) 器径 30.2(匁) 器高 11.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラケズリ (内) ハケ	(外) 10YR 3/1 黒褐色 (内) 10YR3/1 黒褐色 匱 10YR 8/2 灰白色	25%	

466-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
687	青磁碗	口径 12.1(匁)	(外) 施釉 (内) 施釉	(外) 暗緑灰色 (内) 暗緑灰色 匱 灰色	5%以下	
694	青磁碗	底径 5.6(匁) 器高 5.2(匁)	(外) 施釉 (内) 施釉	(外) 暗緑灰色 (内) 青灰色 匱 灰色	5%	

489-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
201	土師質小皿	口径 5.8(復) 器高 1.6(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/3浅黄橙色 (内) 10YR 8/3浅黄橙色 (断) 7.5YR 8/6浅黄橙色	20%	
202	青磁碗	口径 5.6(復) 器高 2.9(残)	(外) 底部 ヘラケズリ、見込み花文 (内) 貼付、ナデ	(外) 緑灰色 (内) 緑灰色 (断) 明灰白色	10%	
203	土師質甕	底径 14.6(復) 器高 5.0(残)	(外) 胴部 粗い ヘラケズリ (内) 粗いハケ	(外) 7.5YR 7/3にぶい橙色 (内) 7.5YR 1.7/1黒色 (断) 7.5YR 8/3浅黄橙色	5%	

488-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
204	瓦質釜	口径 24.6(復) 器径 34.4(復) 器高 13.4(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) N 6/0灰色 (内) 7.5Y 5/1灰色 (断) 10Y 8/1灰白色	10%	
205	土師質小皿	口径 7.0(復) 器高 1.0	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5YR 6/8橙色 (内) 2.5YR 6/8橙色 (断) 5YR 6/8橙色	40%	

490-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
206	土師質小皿	口径 3.7(復) 器高 1.5	(外) 口縁部 ナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/3浅黄橙色 (内) 7.5YR 7/6橙色 (断) 7.5YR 8/3浅黄橙色	50%	

494-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
207	瓦質釜	口径 21.6(復) 器径 28.0(復) 器高 7.1(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ、ハケ	(外) 10BG 4/1暗青灰色 ~7.5Y 4/1灰色 (内) 10BG 5/1青灰色 (断) 10Y 8/1灰白色	10%	

547-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
208	瓦器 椀	口径 15.2(破) 器高 4.0	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ、見込み、連結輪状文 陶 貼付、ナデ	(外) 10G 6/1緑灰色 ～7.5GY 8/1明緑灰色 (内) 10GY 7/2明緑灰色 断 7.5GY 8/1明緑灰色	40%	
209	土師質小皿	口径 7.8 器高 1.2	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5YG 8/2灰白色 (内) 5YR 8/4淡橙色 断 7.5YR 8/2灰白色	90%	
210	土師質小皿	口径 8.0(破) 器高 1.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5YR 8/2灰白色 (内) 7.5YR 8/2灰白色 断 7.5YR 8/2灰白色	50%	
211	土師質小皿	口径 7.8 器高 1.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5YR 8/3淡橙色 (内) 5YR 8/3淡橙色 断 5YR 8/3淡橙色	60%	
212	瓦器 花瓶	口径 5.4 器高 8.1(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ユビオサエ 胴部下部 ヨコナデ	(外) N 5/0灰色 断 10Y 6/1灰色	90%	高台部 欠損 内部焼成 不良
213	瓦器 小皿	口径 7.8 器高 1.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10G 6/1緑灰色 (内) 5BG 5/1青灰色 断 10GY 8/1明緑灰色 ～7.5Y 8/3淡黄色	40%	
214	瓦器 小椀	口径 7.2 器高 2.6(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5R 3/1暗赤灰色 (内) 7.5R 3/1暗赤灰色	90%	高台 欠損
215	瓦器 小椀	口径 7.4 器高 3.1	(外) 口縁部 ヨコナデ 体部～底部 ユビオサエ (内) ナデ、見込み、連結輪状文 陶 貼付、ナデ	(外) 5BG 5/1青灰色 (内) 5B 5/1青灰色 断 7.5YR 8/1灰白色	90%	
216	瓦器 小椀	口径 6.2 器高 2.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ 陶 貼付、ナデ	(外) 2.5YR 3/1暗赤灰色 (内) 7.5R 3/1暗赤灰色 断 2.5GY 6/1オリーブ灰色	75%	
217	瓦器 小椀	口径 6.4 器高 3.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ 陶 貼付、ナデ	(外) 10YR 4/1褐灰色 (内) 5R 3/1暗赤灰色	100%	

548-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
218	土師質甕	口径 56.0(匁) 器高 10.5(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 タタキ (内) 不明	(外) 5Y 7/3浅黄色 (内) 7.5YR 7/8黄橙色 断) 7.5Y 7/2灰白色	5%	内面 磨耗
219	土師質甕	底径 42.0(匁) 器高 19.6(匁)	(外) 胴部 タタキ、ヘラケズリ 底部 未調整 (内) ハケ、底部 ヘラケズリ	(外) 2.5Y 8/3淡黄色 (内) 7.5YR 7/6橙色 断) 7.5YR 7/8黄橙色	10%	218と 同一個体 の可能性 あり

575-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
220	瓦器椀	口径 11.8 器高 2.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ 見込み、ラセン暗文	(外) 10GY 8/1明緑灰色 (内) 10GY 8/1明緑灰色 断) 10GY 8/1明緑灰色 10YR 5/4にぶい黄褐色	90%	
221	瓦器椀	口径 11.2(匁) 器高 2.2	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ、粗いヘラミガキ 見込み、ラセン暗文	(外) 5G 4/1暗緑灰色 ～10GY 8/1明緑灰色 (内) 10G 5/1緑灰色 ～10GY 8/1暗緑灰色 断) 10GY 8/1明緑灰色 ～10YR 7/4にぶい黄褐色	40%	

571-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
222	瓦質釜	口径 29.2(匁) 器径 36.4(匁) 器高 5.2(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5RP3/1暗紫灰色 (内) 5R4/1暗赤灰色 断) 5GY 8/1灰白色	5%	

602-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
223	瓦質椀	口径 11.0(匁) 器高 2.0(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ハケ、ナデ	(外) 10Y 8/1灰白色 (内) 7.5Y 8/2灰白色 断) 7.5Y 8/2灰白色	30%	

839-OS

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
224	土師質鉢	口径 34.0(匁) 器高 16.2(匁)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 粗いナデ (内) ナデ、スリメ	(外) 2.5Y 7/1灰白色 (内) 2.5Y 7/2灰白色 断) 2.5Y 8/1灰白色	15%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
225	土師質鉢	底径 8.8(復) 器高 6.2(残)	(外) 体部 ナデ、底部 ナデ (内) 不明	(外) 2.5Y 8/2灰白色 (内) 5Y 6/1灰色 断 2.5Y 8/2灰白色	15%	内面 磨耗著しい
226	土師質甕	底径 25.0(復) 器高 7.0(残)	(外) 胴部 タタキ、ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 2.5Y 7/2灰黄色 (内) 5Y 6/1灰色 断 5Y 8/2灰白色	5%	

582—00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
227	須恵質壺	口径 17.0(復) 器高 5.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、頸部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 5RP 3/1暗紫灰色 (内) 5P 5/1紫灰色 断 5P 5/1紫灰色	5%	
228	青磁碗	口径 15.0(復) 器高 3.2(残)	(外) 水挽 ログロ成形、施釉 (内) 水挽 ログロ成形、施釉	(外) 淡緑灰色 (内) 淡緑灰色 断 灰白色	15%	
229	瓦質小皿	口径 8.6(復) 器高 1.7	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 5BG 3/1暗青灰色 (内) 7.5YR 8/1灰白色 断 7.5YR 8/1灰白色	40%	
230	土師質小皿	口径 7.2 器高 1.7	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10YR 8/2灰白色 (内) 10YR 8/3浅黄橙色	90%	
231	土師質小皿	口径 7.4(復) 器高 1.2	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 7.5Y 8/3淡黄色 (内) 7.5Y 8/3淡黄色 断 7.5YR 5/6明褐色	30%	
232	瓦質釜	口径 32.2(復) 器径 43.8(復) 器高 6.3(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5P 5/1紫灰色 (内) 5R 7/1明紫灰色 断 10GY 8/1明緑灰色 ~5YR 6/8橙色	5%	
233	瓦質釜	口径 33.2(復) 器径 40.2(復) 器高 8.4(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 10G 4/1暗緑灰色 (内) 10G 3/1暗緑灰色 断 7.5GY 8/1明緑灰色	10%	
234	瓦質釜	口径 25.2(復) 器径 32.0(復) 器高 6.0(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコハケ、ナデ	(外) 7.5R 3/1暗赤灰色 (内) 7.5R 3/1暗赤灰色 断 5YR 8/3淡橙色	10%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
235	瓦質釜	口径 23.2(復) 器径 31.8(復) 器高 6.4(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ヨコナデ	(外) N 6/0灰色 (内) 10Y 6/1灰色 断 10Y 8/1灰白色	10%	
236	瓦質釜	口径 22.2(復) 器径 29.0(復) 器高 4.2(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5YR 8/3淡橙色 (内) 7.5YR 8/1灰白色 断 7.5YR 8/1灰白色	20%	
237	瓦質甕	口径 41.9(復) 器高 7.9(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 タタキ (内) ナデ	(外) 5YR 8/1灰白色 (内) 7.5R 4/1暗赤白色 断 5YR 7/1明褐灰色 ~7.5YR 8/2灰白色	5%	
238	瓦質甕	口径 37.2(復) 器高 3.8(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 10GY 6/1緑灰色 (内) 10GY 5/1緑灰色 断 7.5GY 8/1明緑灰色 ~5YR 6/8橙色	5%	
239	瓦質甕	口径 36.4(復) 器高 2.7(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 10GY 6/1緑灰色 (内) 10GY 5/1緑灰色 断 7.5GY 8/1明緑灰色 ~5YR 6/8橙色	5%	
240	瓦質鉢	口径 27.8(復) 器高 4.5(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ナデ (内) ナデ	(外) 2.5GY 3/1暗オリーブ灰色 (内) 7.5Y 6/1灰色 ~2.5GY 3/1暗オリーブ灰色 断 10Y 8/1灰白色	5%	

619-00

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率	備 考
241	染付碗	口径 10.6(復) 器高 6.8	(外) 底部 ケズリ (高) ケズリだし	(外) 10GY 8/1明緑灰色 (内) 10GY 8/1明緑灰色 断 5YR 8/4淡橙色 ~10GY 8/1明緑灰色	35%	
242	染付碗	口径 10.6(復) 器高 6.5	(外) 底部 ケズリ (高) ケズリだし	(外) 10GY 8/1明緑灰色 (内) 10GY 8/1明緑灰色 断 7.5YR 8/1灰白色	35%	
243	陶器湯呑	底径 4.5 器高 7.5(残)	(高) ケズリだし	(外) 5GY 7/1明オリーブ灰色 (内) 5GY 6/1オリーブ灰色 断 10YR 4/6褐色	70%	
244	土師質焙烙	口径 24.0 器高 6.3	(外) 口縁部 ヨコナデ (内) ナデ	(外) 10BG 3/1暗青灰色 ~2.5Y 7/8橙色 (内) 2.5Y 7/8橙色 ~7.5R 4/2灰赤色 断 2.5Y 7/8橙色	60%	

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
245	陶器徳利	底径 13.6 器高 23.4(残)	水挽き ロクロ成形 底部 ナデ	(外) 5YR 7/4にぶい橙色 ～5B6/1青灰色 (内) 5YR 7/8橙色 断 7.5YR 7/4にぶい橙色	90%	
246	丹波焼鉢	口径 34.4 底径 15.1 器高 13.6	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ 底部 ナデ (内) スリメ	(外) 2.5YR 4/3にぶい赤褐色 (内) 2.5YR 6/8橙色 断 7.5YR 6/1褐灰色 7.5YR 8/4浅黄橙色	70%	
247	土師質鉢	底径 10.1(残) 器高 3.8(残)	(外) ナデ (内) スリメ	(外) 5YR 6/4にぶい橙色 (内) 5YR 7/6橙色 断 7.5YR 7/3にぶい橙色	5%	

624-00

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
248	土師質甕	口径 50.0(残) 底径 30.0(残) 器高 51.7(残)	(外) 体部 ユビオサエ、底部 ナデ (内) ハケ	(外) 5YR 6/4にぶい橙色 (内) 10YR 6/1褐灰色 断 5YR 6/4にぶい橙色	40%	

628-00

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
249	白磁碗	口径 9.4(残) 底径 4.2(残) 器高 2.3	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ケズリ (内) ナデ (陶) ケズリ	(外) 灰白色 (内) 灰白色 断 灰白色	30%	

676-00

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
250	瓦質釜	口径 20.0(残) 口径 27.2(残) 器高 5.3(残)	(外) 口縁部 ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ (内) ナデ	(外) 5Y 7/1灰白色 (内) 5Y 3/1オリーブ黒色 断 5Y 7/1灰白色	5%	内面 スス付着

700-00

番号	器種	計測値(cm)	調整	色調	残存率	備考
251	瓦器椀	口径 15.0 器高 5.2	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 体部 密なヘラミガキ 見込み、斜格子暗文 (陶) 貼付、ナデ	(外) 10GY 4/1暗緑灰色 (内) 10GY 5/1緑灰色 断 7.5YR 8/1灰白色	60%	

番号	器種	計測値(cm)	調 整	色 調	残存率 備考
252	瓦器椀	口径 15.2 器高 5.0	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 体部 ヘラミガキ 見込み、平行線暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) 10Y 3/1オリーブ黒色 (内) 5BG 4/1暗青灰色 断 10Y 8/1灰白色	60%
253	瓦器椀	口径 15.0 器高 5.1	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ 底部 ナデ (内) 体部 ヘラミガキ 見込み、平行線暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) 5G 6/1緑灰色 (内) 5BG 4/1暗青灰色 断 10GY 8/1明緑灰色	95%
254	瓦器椀	口径 14.8(復) 器高 4.8	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 体部 密なヘラミガキ 見込み、平行線暗文 (高) 貼付、ナデ	(外) 7.5Y 5/1灰色 (内) 10Y 4/1灰色 断 10Y 8/1灰白色	45%
255	瓦器椀	口径 15.4(復) 器高 4.2	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 体部 粗いヘラミガキ 見込み、連結輪状文 (高) 貼付、ナデ	(外) 5Y 8/1灰白色 ～5G 3/1暗緑灰色 (内) 7.5R 4/3にぶい赤褐色 ～5BG 4/1暗青灰色 断 5GY 8/1灰白色 ～5GY 5/1オリーブ灰色	50%
256	瓦器椀	口径 15.0 器高 4.9	(外) 口縁部 ヨコナデ、体部 ユビオサエ (内) 体部 ヘラミガキ 見込み、連結輪状文 (高) 貼付、ナデ	(外) 10G 4/1暗緑灰色 ～10GY 8/1明緑灰色 (内) 5G 5/1緑灰色 断 7.5GY 8/1明緑灰色	85%
257	土師質皿	口径 13.4 器高 2.4	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5Y 7/1灰白色 (内) 2.5Y 5/1黄灰色 断 2.5Y 8/1灰白色	80%
258	土師質皿	口径 13.8(復) 器高 2.5(復)	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 2.5Y 8/2灰白色 (内) 2.5Y 8/2灰白色 断 2.5Y 8/2灰白色	30%
259	土師質小皿	口径 8.8 器高 1.5	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ユビオサエ (内) ナデ	(外) 10YR 8/1灰白色 (内) 10YR 8/1灰白色 断 10YR 8/1灰白色	100%
260	土師質小皿	口径 8.4 器高 1.4	(外) 口縁部 ヨコナデ 底部 ユビオサエ 後ナデ (内) ナデ	(外) 10YR 8/1灰白色 (内) 2.5Y 8/2灰白色 断 10YR 8/1灰白色	98%
261	土師質小皿	口径 8.4(復) 器高 1.4	(外) 口縁部 ヨコナデ 底部 ユビオサエ 後ナデ (内) ナデ	(外) 2.5Y 8/2灰白色 (内) 2.5Y 8/2灰白色 断 2.5Y 8/2灰白色	40%
262	土師質小皿	口径 7.9(復) 器高 1.7	(外) 口縁部 ヨコナデ、底部 ナデ (内) ナデ	(外) 10YR 8/1灰白色 (内) 10YR 8/2灰白色 断 10YR 8/2灰白色	55%